

アフリカ地域

サヘル・アフリカの角
砂漠化対処による気候変動レジリエンス強化
イニシアティブ
実施促進支援業務Ⅱ

業務完了報告書

2022年10月

独立行政法人

国際協力機構（JICA）

株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル

株式会社アースアンドヒューマンコーポレーション

環境
JR
22-101

目 次

要約.....	1
1. 業務の背景と概要、業務従事者実績	4
1.1 背景	4
1.2 業務の概要	4
(1) 業務の目的	4
(2) 業務の概要	4
(3) 履行期間	5
(4) 業務対象地域・国.....	5
1.3 人月表計画・実績比較.....	5
2. 各業務の成果	6
2.1 年次会合の実施支援	6
(1) 年次会合の開催概要.....	6
(2) 年次会合の準備及び内容.....	7
2.2 国際会議におけるサイドイベント等の実施支援	8
(1) 国際会議におけるサイドイベント等の開催概要.....	8
(2) 各イベント等の開催支援内容及び開催内容.....	8
2.3 参加国間の知識・知見の共有	12
(1) 優良事例の収集と選択.....	12
(2) 優良事例の知識共有の実施.....	12
(3) ガイドラインの作成.....	13
(4) 知識共有アセットの活用方法の検討.....	14
(5) その他の取組	14
2.4 AI-CD 参加国の外部資金へのアクセス向上	16
(1) 国際機関等の支援モダリティ情報の整理.....	16
(2) 参加国の資金アクセス活動への支援とその成果.....	16
(3) 国内ワークショップの開催支援と開催経費の支払代行.....	21
2.5 その他付帯業務.....	25
(1) サヘル及びアフリカの角地域の主導国への業務計画概要の共有.....	25
(2) 我が国の自然環境分野に関連する支援の情報の収集、整理、発信.....	25
(3) AI-CD ウェブサイトの維持管理	27
(4) SNS 等による情報発信	29
(5) その他の取組	31
3. 教訓・提言	33
3.1 本件業務の主な成果	33
(1) ネットワーク構築.....	33

(2) 知識共有	33
(3) 資金アクセス	34
3.2 今後に向けた教訓・提言	34
(1) ネットワーク構築.....	35
(2) 知識共有	35
(3) 資金アクセス支援.....	35
(4) その他	36

添付資料

添付資料 1：業務従事者の従事計画/実績表

添付資料 2：会合・サイドイベント関連文書一式（英文・仏文）

- 2-1：第 4 回アフリカの角地域会合プログラム
- 2-2：第 4 回アフリカの角地域会合報告書
- 2-3：第 4 回サヘル地域会合プログラム
- 2-4：第 4 回サヘル地域会合報告書
- 2-5：第 5 回アフリカの角地域会合プログラム
- 2-6：第 5 回アフリカの角地域会合報告書
- 2-7：第 5 回サヘル地域会合プログラム
- 2-8：第 5 回サヘル地域会合報告書
- 2-9：UNCCD COP15 サイドイベントプログラム
- 2-10：UNCCD COP15 サイドイベント報告書
- 2-11：UNCCD COP15 フォローアップ会合プログラム
- 2-12：UNCCD COP15 フォローアップ会合報告書
- 2-13：TICAD 8 プログラム
- 2-14：TICAD 8 報告書

添付資料 3：知識共有関連文書一式

- 3-1：優良事例一式
- 3-2：知識共有セミナー開催報告書
- 3-3：Knowledge and Policy Brief（英文）
- 3-4：Knowledge and Policy Brief（仏文）
- 3-5：ショートフィルム ナイジェリア
- 3-6：ショートフィルム マリ（短編）
- 3-7：ショートフィルム マリ（長編）

添付資料 4：国内ワークショップ開催支援関連文書一式（英文・仏文）

- 4-1：国内ワークショップ ガイドライン
- 4-2：国内ワークショップ 南スーダン開催報告書
- 4-3：国内ワークショップ マリ開催報告書

- 4-4 : 国内ワークショップ スーダン開催報告書
- 4-5 : 国内ワークショップ ブルキナファソ開催報告書
- 4-6 : 国内ワークショップ ナイジェリア開催報告書

添付資料 5 : 日本の自然環境分野支援案件シート一式

- 5-1 : ブルキナファソ 伝統知と地域知の移転手法
- 5-2 : ケニア 持続的森林管理
- 5-3 : スーダン 持続的なコムギ生産のための気候変動耐性技術
- 5-4 : ブルキナファソ 地域資源の活用
- 5-5 : エチオピア ファーマー・フィールド・スクールによる天然資源管理
- 5-6 : セネガル 荒廃地の土壌劣化対策

図目次

	ページ
図 1 年次地域会合の写真	6
図 2 UNCCD COP15 サイドイベントの写真	9
図 3 UNCCD COP15 フォローアップ会合の写真	10
図 4 TICAD8 サイドイベントの写真	11
図 5 知識共有セミナーの写真	13
図 6 AI-CD Knowledge & Policy Brief (英語版)	14
図 7 NbS Knowledge for Africa ポータルとの連携	14
図 8 ショートフィルム関連写真	15
図 9 AI-CD ウェブサイト 成果物掲載ページ	15
図 10 資金アクセスガイドブック	16
図 11 PLA チューブ小規模実験の写真	20
図 12 民間技術の紹介	21
図 13 UNCCD Capacity Building Marketplace に設定された AI-CD ウェブサイトへのリ ンク	26
図 14 メディアによる特集	32

表目次

	ページ
表 1 業務従事者一覧および MM 計画・実績比較	5
表 2 年次地域会合の開催実績	6
表 3 第 4 回アフリカの角地域会合概要	7
表 4 第 4 回サヘル地域会合概要	7
表 5 第 5 回 (最終) アフリカの角地域会合	7
表 6 第 5 回 (最終) サヘル地域会合	8
表 7 サイドイベント開催支援をおこなった国際会議	8
表 8 UNCCD COP15 サイドイベント概要	9
表 9 UNCCD フォローアップ会合概要	10
表 10 TICAD8 サイドイベント概要	11
表 11 ウェビナー開催準備担当ユニット	12
表 12 知識共有ウェビナー概要	12
表 13 アフリカの角地域各国の PCN 一覧	18
表 14 サヘル地域各国の PCN 一覧	19
表 15 紹介した民間技術一覧	20
表 16 国内ワークショップへの応募状況と支援対象国	22
表 17 国内ワークショップ開催概要	23

表 18 情報収集・整理した日本の自然環境分野の支援プロジェクト	25
表 19 AI-CD ウェブサイトに掲載した案件シート一覧	26
表 20 AI-CD ウェブサイトの追加内容のカテゴリ一覧	27
表 21 AI-CD ウェブサイトの追加ページ一覧	27
表 22 SNS (Twitter/Facebook) での情報発信内容一覧	29

略語表

略語	Abbreviation and Acronyms	日本語
AfDB	African Development Bank	アフリカ開発銀行
AI-CD	African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to Climate Change in the Sahel and the Horn of Africa	サヘル・アフリカの角
AU	African Union	アフリカ連合
CADEP-SFM	Capacity Development Project for Sustainable Forest Management in the Republic of Kenya	ケニア国持続的森林管理のための能力開発プロジェクト
CILSS	Permanent Interstate Committee for Drought Control in the Sahel	サヘル干ばつ対策国家間常設委員会
CODEVAL	Project for Capacity Building for the Restoration and the Promotion of Effective Use in the Areas of Soil Degradation	劣化土壌地域における土地劣化抑制・有効利用促進のための能力向上プロジェクト
CONACILSS	National Committee of CILSS	CILSS 国内委員会
COP	Conference of the Parties	締約国会議
EU	European Union	欧州連合
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations	国際連合食糧農業機関
FP	Focal Point	フォーカルポイント
GCF	Green Climate Fund	緑の気候基金
GEF	Global Environment Facility	地球環境ファシリティ
GEF SGP	GEF Small Grants Programme	地球環境ファシリティ・小規模無償プログラム
GGWI	Great Green Wall Initiative	グレートグリーンウォールイニシアティブ
GIZ	German Agency for International Cooperation	ドイツ国際協力公社
ICARDA	International Centre for Agricultural Research in the Dry Areas	国際乾燥地農業研究センター
IDPs	Internally Displaced Persons	国内避難民
IFAD	International Fund for Agricultural Development	国際農業開発基金
IKI	International Climate Initiative	国際気候イニシアティブ
INSAH	Sahel Institute	サヘル研究所
ISRA	Senegalese Agricultural Research Institute	セネガル農業研究所
ITFP	International Technical and Financial Partner	国際技術金融パートナー
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
KEFRI	Kenya Forestry Research Institute	ケニア森林研究所
LDCF	Least Developed Countries Fund	後発開発途上国基金
LDN	Land Degradation Neutrality	土地劣化の中立性

略語	Abbreviation and Acronyms	日本語
MEDD	Senegal's Ministry of the Environment and Sustainable Development	セネガル環境持続的開発省
NGO	Non-Governmental Organization	非政府組織
PCN	Project Concept Note	プロジェクトコンセプトノート
PLA	Polylactic Acid	ポリ乳酸
SDGs	Sustainable Development Goals	持続可能な開発目標
SLM	Sustainable Land Management	持続可能な土地管理
SNS	Social Networking Service	ソーシャルネットワーキングサービス
TICAD	Tokyo International Conference on African Development	アフリカ開発会議
UNCCD	United Nations Convention to Combat Desertification	国連砂漠化対処条約
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
UNEP	United Nations Environment Programme	国連環境計画

要約

1. 業務の背景と概要、業務従事者実績

1.1 背景

サブサハラアフリカにおける気候変動・干ばつへのレジリエンス強化に取り組むため、JICA、ケニア政府、セネガル政府は、2016年8月のTICAD VIにおいて「サヘル・アフリカの角砂漠化対処による気候変動レジリエンス強化イニシアティブ（以下、AI-CD）」を正式に立ち上げた。

1.2 業務の概要

本件業務は、AI-CD 後期（2020年3月～2022年10月）にて、JICA が担う事務局機能や「ネットワーク化」、「知識共有」、「資金へのアクセス向上」に関する活動を支援するものであった。

1.3 人月表計画・実績比較

2022年10月7日時点での総投入人月量は、現地・国内業務あわせた合計契約人月量 37.29 MM に対し、その 100.0%に相当する 37.29 MM となった（自社負担分を除く）。

2. 各業務の成果

2.1 年次会合の実施支援

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、オンライン形式で計 4 回の年次会合の開催を支援した：第 4 回アフリカの角地域会合（2020年12月9日）、第 4 回サヘル地域会合（2021年1月27日）、第 5 回（最終）アフリカの角地域会合（2021年8月25日）、第 5 回（最終）サヘル地域会合（2022年3月15日）。各会合では、各国フォーカルポイント（以下、FP）が自国での AI-CD 関連活動の成果と課題を共有し、国際技術金融パートナー（ITFP）から紹介された近年の資金ソース情報を踏まえて、今後のアクションを議論した。

2.2 国際会議におけるサイドイベント等の実施支援

UNCCD COP15（2022年5月・コートジボワール）におけるサイドイベント及びフォローアップ会合、ならびに TICAD8 サイドイベント（2022年8月・チュニジア [オンライン開催]）の開催を支援した。各会合では、各国 FP がこれまでの成果を振り返り、ITFP とともに AI-CD 終了後にとるべきアクションを議論した。また、民間技術の紹介・展示がなされた。

2.3 参加国間の知識・知見の共有

優良事例の知識共有

CILSS が所有するサヘル地域の優良事例（約 350 件）のうち、AI-CD と関連性が深い 82 件から特に重要な 47 件を選択した。選定した優良事例を AI-CD 参加国等と「知識共有」するためのウェビナーの開催を支援した（2022年3月1日）。ウェビナーでは、CILSS による各種技術の紹介に続き、関係各国による技術・知見・ツールの利用方法に関する議論が行われた。

ガイドライン作成

サヘル地域における優良事例の政策立案への活用促進を企図し、サヘル地域数カ国からの寄稿を得て、AI-CD Knowledge & Policy Brief を作成した。国際イベントにて関係機関に広く紹介するとともに、AI-CD ウェブサイトにも掲載した

ショートフィルム作成

AI-CD 参加国が、自国の課題や取り組みについてステークホルダーからの関心を引くために、ナイジェリアとマリによるショートフィルム作成の支援を行った。

2.4 AI-CD 参加国の外部資金へのアクセス向上

国際機関等の支援モダリティ情報の整理

国際機関・ドナー等の支援戦略や支援モダリティ等の情報を収集・分析・整理し、資金アクセスガイドブックとしてまとめ、各国 FP に提供した。

参加国の資金アクセス活動への支援とその成果

各国が PCN をもとに事業提案書を作成し、資金獲得を実現するために必要な助言・支援を行った。具体的には、①資金リソース情報の提供、②資金スキームへの応募に係る技術支援をおこない、技術支援の内容として②-1 PCN の改善に係る技術支援、②-2 国際機関・ドナーからのヒアリング及び FP と国際機関・ドナーのマッチング会合（オンライン形式）、②-3 民間連携および国際イニシアティブとの連携の可能性の模索を実施した。

国内ワークショップの開催支援と開催経費の支払代行

計 5 カ国の国内ワークショップの開催を支援した。ワークショップでは、国内の分野横断的なステークホルダーを招待して、PCN の紹介やその実現に向けた議論がなされた。

2.5 その他付帯業務

これまでに我が国が実施した砂漠化対処に関連する 6 件の支援事業を案件シートとして取りまとめ、AI-CD ウェブサイトに掲載した。その他、ウェブサイト、SNS、各種メディアによる積極的な広報を通じて、AI-CD のプレゼンス向上に貢献した。また、当業務従事者の一部が、関連する JICA の 2 案件にも従事していることから、案件間のシナジーを創出した。

3. 教訓・提言

3.1 本件業務の主な成果

(1) ネットワーク構築

①地域ハブ国およびメンバー国のオーナーシップと責任の醸成、②パートナー機関の公約および他のイニシアティブ間の調和の推進、③南南／三角協力の具体化

(2) 知識共有

①各国および共同で作成された知識の文書化と視覚化、②政策立案と現場での実施促進のための、共有された他国の知識／優良事例の活用

(3) 資金アクセス

①各国における資金提供可能な案件形成及び資金アクセスに向けたプロセスの強化、②PCN に基づく各国とパートナー間の対話の強化、③マリの NGO による資金獲得、④民間セクターとのマッチングを経た連携活動の具体化

3.2 今後に向けた教訓・提言

(1) ネットワーク構築

ネットワーク構築による相乗効果の創出：複数の対象国の結びつきを強化することで、相互に学び合う動きが生まれることが期待できる。各国と国際機関・ドナーの間の対話の強化は、類似の開発課題を持つ複数国を対象とし、パートナーシップを通じた活動の発展を企図する案件にとって有用なアプローチとなりうる。

(2) 知識共有

既存知識の更なる有効活用の必要性：政策立案や現場レベルで十分に活用されるに至っていない知識・情報について、パートナー機関と連携の上、具体的な活用事例を形成し、その実施ステップを他国に紹介する等のアプローチが有用と考えられる。

(3) 資金アクセス支援

プロジェクトベースでの連携協調の推進：国際機関・ドナーが実施中のプロジェクトに、各国 FP の PCN をマッチ・包含させることは難易度が高いものの、JICA/事務局が資金提供を含む補完的な役割を担えば、具体的な連携協調を実現できる可能性がある。

各国関係省庁間の連携・協力体制整備：分野横断的課題である砂漠化・気候変動への対処につき、AI-CD の FP が所属する環境省等（技術面を担当する部局）のみならず、国際機関・ドナーとの企画・窓口機能を担う部局との密な連携・協力体制の構築が望まれる。

1. 業務の背景と概要、業務従事者実績

1.1 背景

サブサハラ地域では、干ばつによる飢餓を初めとした開発課題が山積している。アフリカ全体で50%以上の土地が土壌劣化の問題を抱えているが、特にサブサハラ地域では深刻な干ばつ被害が多発している。こうした地域では、貧困層の多くが自然資源に依存して生活しているが、過度な資源利用、資源の枯渇、貧困の増大という負の連鎖に陥っている。また、近年の気候変動は干ばつや砂漠化を深刻化し、さらにこれらの現象が翻って気候変動に影響を与えているとされている。

これらの背景を踏まえ、2016年8月にケニアで開催されたアフリカ開発会議（TICAD VI）において、ケニア政府、セネガル政府、国際協力機構（以下、JICA）及び国連砂漠化対処条約（以下、UNCCD）の共同提案として「サヘル・アフリカの角砂漠化対処による気候変動レジリエンス強化イニシアティブ（以下、AI-CD）」を正式に立ち上げた。

1.2 業務の概要

(1) 業務の目的

本件業務は、2016年8月27日にケニア政府、セネガル政府、JICA、UNCCDが署名した「サヘル・アフリカの角 砂漠化対処による気候変動レジリエンス強化イニシアティブ（AI-CD）」に関する合意文書を踏まえ、同イニシアティブ後期（2020年3月～2022年10月）にてJICAが担う事務局機能や活動を支援するものであった。

同イニシアティブにて期待されていた成果は、下記のとおりである。

- 1) AI-CD 参加国・パートナー機関（その他、開発ドナー含む）の間でネットワークが構築される。
- 2) 当該地域の砂漠化対処に係る取組や優良事例に関する知識共有が促進される。
- 3) AI-CD 参加各国が利用可能な開発資金へのアクセスが向上される。

(2) 業務の概要

本件業務はAI-CDの活動に係る次の5項目の実施であり、その詳細はAI-CDの共催機関、参加国及びパートナー機関等の意向を踏まえ具体化してきた。このため、AI-CDの活動全体を俯瞰して把握し、JICAやAI-CDの共催機関、参加国及びパートナー機関等とも協議のうえ、適切な活動を計画・実施した。

- 1) 年次会合の実施支援
- 2) 国際会議におけるサイドイベント等の実施支援
- 3) 参加国間の知識・知見の共有
- 4) AI-CD参加国の外部資金へのアクセス向上
- 5) その他付帯業務

(3) 履行期間

2020年3月6日～2022年11月30日

(4) 業務対象地域・国

- サヘル地域 : セネガル、ブルキナファソ、カメルーン、チャド、マリ、モーリタニア、ニジェール、ナイジェリア
- アフリカの角地域 : ケニア、ジブチ、エリトリア、エチオピア、ソマリア、南スーダン、スーダン

1.3 人月表計画・実績比較

表1に業務従事者一覧と2022年10月7日時点でのMM計画・実績比較表を示す。総投入人月量は、現地・国内業務あわせた合計契約人月量37.29MMに対し、その100.0%に相当する37.29MMとなった（自社負担分を除く）。添付資料1に、業務従事者の従事計画・実績表を示す。

表1 業務従事者一覧およびMM計画・実績比較

担当業務	氏名	所属先	格付	計画／実績	現地業務		国内業務	人月合計	進捗率	
					渡航回数	人月	人月			
業務主任者／援助協調／資金動員	泉 泰雄	OCG	2	計画	4	1.40	6.20	7.60	100.3%	
				実績	2	0.97	6.65	7.62		
砂漠化対処／各国事業形成促進(1)	後藤 有右	E&H	3	計画	2	0.83	6.10	6.93	100.0%	
				実績	1	0.47	6.46	6.93		
副業務主任者／砂漠化対処／各国事業形成促進(2)	白石 拓也	OCG	4	計画	4	1.73	7.40	9.13	97.2%	
				実績	2	0.97	7.90	8.87		
広報／地域協力促進(1)	横山(望月) 彩葉/ 渡邊 玲央 [ダイバーシティ枠] (変更前)	OCG	5	計画	0	0.50	7.60	8.10	100.2%	
	渡邊 玲央 (変更後)	OCG		実績	0	0.97	7.15	8.12		
				実績	2					
広報／地域協力促進(2)	手島 茂晴	OCG	3	計画	1	0.33	1.65	1.98	83.3%	
				実績	0	0.00	1.65	1.65		
支援モダリティ調査	サラ ハイサム モスタファ エイド	OCG	4	計画	0	0.00	1.45	1.45	27.6%	
				実績	0	0.00	0.40	0.40		
広報／地域協力促進(3)/ [砂漠化対処/各国事業形成促進] 支援	菅原 史緒 (前任)	OCG	4	計画	0	0.00	2.10	2.10	176.2%	
	富田 有紀 (後任)	OCG		実績	0	0.00	3.70	3.70		
				実績	0					
								計画	37.29	100.0%
								実績	37.29 (自社負担分を除く)	

2. 各業務の成果

本章では、本業務の特記仕様書「第5条 業務の概要」に記載された項目について、当該業務履行期間に実施した業務の内容（成果）を報告する。

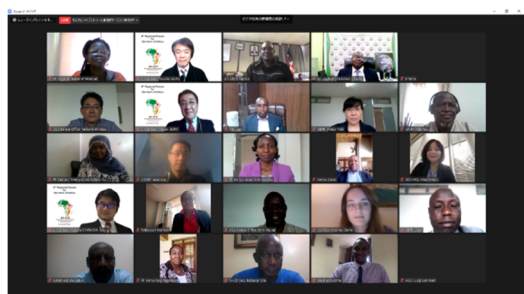
2.1 年次会合の実施支援

(1) 年次会合の開催概要

AI-CDの年次会合は、サヘル地域とアフリカの角地域で、それぞれ以下のとおり開催した。なお、開催方法は、新型コロナウイルスの感染拡大状況を踏まえ、オンライン形式とした。

表 2 年次地域会合の開催実績

年次会合	実施日	参加者数	実施概要
第4回アフリカの角地域会合 (オンライン形式)	2020年12月9日	45名	各国の取組内容や活動成果の報告・共有、ドナー機関による戦略等
第4回サヘル地域会合 (オンライン形式)	2021年1月27日	58名	各国の取組内容や活動成果の報告・共有、ドナー機関による戦略や資金アクセスに向けた協議等
第5回アフリカの角地域会合（最終） (オンライン形式)	2021年8月25日	79名	AI-CDの活動成果、各国の取組内容や活動成果の報告・共有、ドナー機関による取組報告等
第5回サヘル地域会合（最終） (オンライン形式)	2022年3月15日	40名	AI-CDの活動成果、各国の取組内容や活動成果の報告・共有、ドナー機関による取組報告等



第4回アフリカの角 地域会合
(2020年12月)



第4回サヘル地域会合
(2021年1月)



第5回（最終）アフリカの角地域会合
(2021年8月)



第5回（最終）サヘル地域会合
(2022年3月)

図 1 年次地域会合の写真

(2) 年次会合の準備及び内容

各地域会合では、それぞれの地域の主導国（ハブ国）であるケニア及びセネガルのフォーカルポイント（以下、FP）と共に企画内容の立案を行い、必要に応じて企画に関連した必要書類や情報の提供を行った。また、開催運営支援として、招待状の送付や参加者情報の取りまとめを行うとともに、会合内容を報告書として整理し、AI-CD ウェブサイトへ掲載した。すべての会合をオンライン形式にて開催したことから、YouTube でのライブストリーミング配信（限定公開）を行い、後日、参加者へ映像を共有した。各会合の概要を以下に示す。

① 第 4 回アフリカの角地域会合

表 3 第 4 回アフリカの角地域会合概要

目的	資金アクセス強化に資するネットワーキング及び知識共有の機会の議論	
主要参加者	・ FP	アフリカの角地域：ケニア、ソマリア、南スーダン、スーダン セネガル（サヘル地域ハブ国）、ナイジェリア（英語圏枠での参加） *エリトリア：不安定な通信環境のため、YouTube ライブストリーミング配信を視聴。
	・ ITFP*	World Bank、Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO)、United Nations Environment Programme (UNEP)、United Nations Convention to Combat Desertification (UNCCD)、International Centre for Agricultural Research in the Dry Areas (ICARDA)
成果	各国 FP が、自国での AI-CD 関連活動の促進（プロジェクトコンセプトノート（以下、PCN）の実現を含む）を主導し続ける意思を表明した。	
関連資料	プログラム：添付資料 2-1 開催報告書：添付資料 2-2	

*技術面及び金融面について各国 FP の活動を支援しうる国際的なパートナー機関を International Technical and Financial Partner（以下、ITFP）と呼ぶ。

② 第 4 回サヘル地域会合

表 4 第 4 回サヘル地域会合概要

目的	資金アクセス強化に資するネットワーキング及び知識共有の機会の議論	
主要参加者	・ FP	サヘル地域：ブルキナファソ、カメルーン、ナイジェリア、マリ、セネガル ケニア（アフリカの角地域ハブ国）
	・ ITFP	UNCCD、Permanent Interstate Committee for Drought Control in the Sahel (CILSS)、FAO、Global Environment Facility Small Grants Programme (GEF-SGP)、ICARDA、African Development Bank (AfDB)、African Union (AU)、World Bank、United Nations Development Programme (UNDP)、UNEP
成果	各国 FP と ITFPs が直接に議論する機会が創出され、Great Green Wall Initiative (GGWI) を含む近年の重要な資金ソースの情報が共有された。	
関連資料	プログラム：添付資料 2-3 開催報告書：添付資料 2-4	

③ 第 5 回（最終）アフリカの角地域会合

表 5 第 5 回（最終）アフリカの角地域会合

目的	アフリカの角地域の砂漠化対処やコミュニティのレジリエンス強化において AI-CD が果たした役割の共有	
主要参加者	・ FP	アフリカの角地域：ジブチ、エリトリア、ケニア、ソマリア、南スーダン、スーダン セネガル（サヘル地域ハブ国）
	・ ITFP	World Bank、FAO、GEF、AU
成果	• 各国がこれまでの AI-CD 関連活動を振り返り、その成果やインパクトを参加者間で共有した。	

	<ul style="list-style-type: none"> • GEF7・8やLDCF（Least Developed Countries Fund）といった近年の資金ソースの情報がFPに共有された。 • 各国がAI-CD後にとるべきアクションを議論した。
関連資料	プログラム：添付資料 2-5 開催報告書：添付資料 2-6

④ 第5回（最終）サヘル地域会合

表 6 第5回（最終）サヘル地域会合

目的	サヘル地域における AI-CD 関連活動の成果の共有及び今後の取り組みの議論	
主要参加者	FP	サヘル地域：ブルキナファソ、カメルーン、チャド、ナイジェリア、ニジェール、マリ、モーリタニア、セネガル ケニア（アフリカの角地域ハブ国）
	ITFP	AU、AfDB、CILSS、FAO、GEF
成果	<ul style="list-style-type: none"> • 各国がこれまでの AI-CD 関連活動を振り返り、その成果やインパクトを参加者間で共有した。 • CILSS や GGWI といった地域の重要なパートナー機関を交えて、今後、各国が取るべきアクションを議論した。 <ul style="list-style-type: none"> ○ AI-CD を通じて構築したネットワークの維持・深化 ○ GGWI や GEF8 等の資金ソースへの具体的なアクセス方法 	
関連資料	プログラム：添付資料 2-7 開催報告書：添付資料 2-8	

2.2 国際会議におけるサイドイベント等の実施支援

(1) 国際会議におけるサイドイベント等の開催概要

当業務では、UNCCD 第 15 回締約国会議（COP15）及び、第 8 回アフリカ開発会議（TICAD8）におけるサイドイベント等の実施支援を行った。開催概要を表 7 に示す。

表 7 サイドイベント開催支援をおこなった国際会議

国際会議	開催時期	開催場所
UNCCD COP15	2022 年 5 月 9 日～20 日 (サイドイベント：5 月 11 日)	コートジボワール (参加者の一部はオンラインにて参加)
TICAD 8	2022 年 8 月 27 日・28 日 (サイドイベント：8 月 24 日)	チュニジア (サイドイベントはオンライン形式で開催)

また、AI-CD 参加国の FP は、UNCCD の FP を兼ねている場合が多く、UNCCD COP15 には、AI-CD 関係者が多く参加することが想定されたため、この機会を利用して、AI-CD の進捗の確認と成果の共有、今後の活動方針の確認を目的として、フォローアップ会合を開催した。

(2) 各イベント等の開催支援内容及び開催内容

事前準備として、企画内容に対する技術的な支援や助言、主要国からの了承の取り付け、招待メールの送付、会場の確保、関係者との連絡調整及び SNS での事前広報等を行った。開催当日は団員が現場或いは遠隔にて運営支援に当たったほか、AI-CD に関する発表を担当した。各イベントの開催後に開催報告書を作成し、AI-CD ウェブサイトに掲載した。各イベントの概要を以下に示す。

① UNCCD COP15 サイドイベント

表 8 UNCCD COP15 サイドイベント概要

項目	内容
開催日	2022年5月11日(水)、約2時間
開催場所	Sofitel Abidjan Hôtel Ivoire、アビジャン・コートジボワール
言語	英語およびフランス語(同時通訳配置)
参加者	サヘル地域 FP: ブルキナファソ、マリ、セネガル アフリカの角地域 FP: ケニア、エリトリア、エチオピア、南スーダン AI-CD パートナー: CILSS、FAO 研究機関: ケニア森林研究所、セネガル農業研究所 ほか AI-CD 支援事務局
目的	<ul style="list-style-type: none"> AI-CD の成果を含むアフリカにおける有用な知識と現場での実践の共有 砂漠化・気候変動への効果的な対策とパートナーシップ促進方法の議論
内容	<ul style="list-style-type: none"> AI-CD の成果の共有(両地域ハブ国、事務局) 2030年以降の砂漠化・旱魃への対処の加速に係るパネルディスカッション

本サイドイベントは、現地で開催し、7か国のFPを含む64名が参加した。また、サイドイベントの様子はZOOMでも配信した。パネルディスカッションでは、各国がAI-CDを通じて得たアセットを生かし、GGWI(Great Green Wall Initiative)等の国際的な枠組みに繋げていくことの重要性や、AI-CDを通じて築いたネットワークを維持・強化する必要性が強調された。民間連携支援の一環として、生分解性の乾燥地緑化・農業促進製品や使用済ガラスをリサイクルして作製する土壌改良材等の本邦企業の技術や製品を紹介・展示した。プログラムを添付資料2-9、開催報告書を添付資料2-10に示す。



パネルディスカッションの様子



本邦企業の技術や製品の展示

図 2 UNCCD COP15 サイドイベントの写真

② UNCCD COP15 フォローアップ会合

表 9 UNCCD フォローアップ会合概要

項目	内容
開催日	2022年5月12日(木)、約2時間
開催場所	Ivory Trade Center、アビジャン・コートジボワール
言語	英語およびフランス語(同時通訳配置)
参加者	サヘル地域 FP: ブルキナファソ、マリ、セネガル アフリカの角地域 FP: ケニア、エリトリア、南スーダン 研究機関: ケニア森林研究所、セネガル生態モニタリングセンター、セネガル農業研究所 AI-CD 支援事務局
目的	<ul style="list-style-type: none"> 各国による AI-CD 関連取組の共有及びこれまでの AI-CD の成果と課題の評価 AI-CD の成果を踏まえ、2030 年以降に向けて、各国の砂漠化対処取組を加速させるためのさらなるステップの議論
内容	<ul style="list-style-type: none"> AI-CD の成果の共有(両地域ハブ国、事務局、各国 FP) 2030 年以降の取組み加速のための具体的なステップの議論

本フォローアップミーティングは実地で開催し、会場には6か国のFPを含む34名が参加した。また、フォローアップミーティングの様子は ZOOM でも配信した。ミーティングでは、AI-CD 終了後も各国が AI-CD 関連活動を継続すること、特に AI-CD を通じて得たアセットを生かし、各国が GGWI 等の国際的なイニシアティブやプログラムに繋げていくことの重要性を参加者間で確認した。プログラムを添付資料 2-11、開催報告書を添付資料 2-12 に示す。



参加者による議論の様子



議長 Cheikh Mbow 氏(右)によるスピーチ

図 3 UNCCD COP15 フォローアップ会合の写真

③ TICAD 8 サイドイベント

表 10 TICAD8 サイドイベント概要

項目	内容
開催日	2022年8月24日(水)、約2時間
開催場所	オンライン (Zoom)
言語	英語およびフランス語 (同時通訳配置)
参加者	サヘル地域 FP : ナイジェリア、マリ、セネガル アフリカ角地域 FP : ケニア、南スーダン AI-CD パートナー : CILSS ITFP : AU/GGWI 一般参加者 : エチオピア、ニジェール、カメルーン 他 AI-CD 支援事務局
目的	<ul style="list-style-type: none"> AI-CD の立ち上げからこれまでの6年間の成果の振り返り、及びサヘルおよびアフリカの角地域の各国が今後、砂漠化対処による気候変動へのレジリエンス強化を進めていくための方策の議論
内容	<ul style="list-style-type: none"> AI-CD の成果の共有 (両地域ハブ国、事務局) 各国が今後、砂漠化対処による気候変動へのレジリエンス強化を進めていくための方策に係るパネルディスカッション

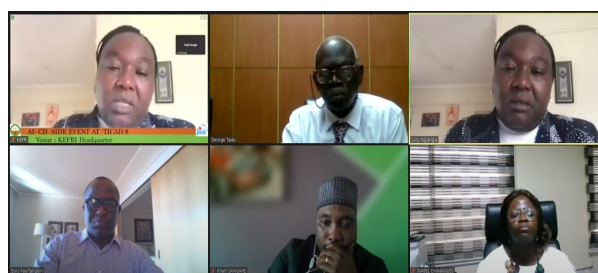
FP を始めとした主要関係者がこれまでの活動成果を共有し、参加者間で AI-CD 終了後のアクションおよび改善点を確認した。参加者からの主な発言は以下の通りである。

- ナイジェリア FP : アフリカ連合 (AU) や AfDB 等の開発パートナーや民間セクターの巻き込みの継続
- AU GGWI コーディネーター :
 - ①砂漠化対処に関連する組織や取り組みの連携によるシナジー効果の創出
 - ②アフリカ各国のキャパシティに合わせた「資金提供プロセス」への改善

プログラムを添付資料 2-13、開催報告書を添付資料 2-14 に示す。



セネガル FP 代理の Baba Ba 氏が発言する様子



パネルディスカッションの様子

図 4 TICAD8 サイドイベントの写真

2.3 参加国間の知識・知見の共有

サヘル地域の砂漠化対処に係る取組や優良事例について、関係者間で情報共有を容易に行うことを目的として、セネガル環境持続開発省や CILSS とも協議の上、以下の業務を行った。

(1) 優良事例の収集と選択

後述の知識共有ウェビナーの開催に向けて、2022 年 1 月に関係者による初回オンライン会議が開催され、開催準備担当ユニットが形成された。

表 11 ウェビナー開催準備担当ユニット

項目	組織	担当者
主催者	セネガル環境持続的開発省 (MEDD)	Mr. Baidy BA Mr. Baba BA
共催者	CILSS	Dr. Sheick Khalil Sangaré, INSAH Mr. Ibra Sounkarou Ndiaye, CONACILSS-Senegal
支援パートナー	JICA	AI-CD 支援事務局

同ユニットでの協議を通じて、CILSS がすでに所有するサヘル地域の優良事例（約 350 件）のうち、AI-CD と関連性が深い 82 件の優良事例が提示され、そこからさらに重要と考えられる 47 件が選択された。選定された優良事例一覧を、添付資料 3-1 に示す。

(2) 優良事例の知識共有の実施

選定した優良事例を AI-CD 参加国等と「知識共有」するためのウェビナーの開催を支援した（2022 年 3 月 1 日）。開催にあたっては、セネガル環境持続開発省や CILSS 等と協働で準備を行った。開催概要を表 12 に示す。

表 12 知識共有ウェビナー概要

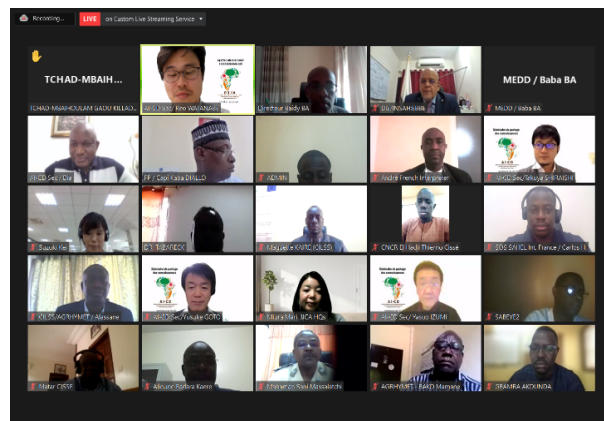
項目	内容
開催日	2022 年 3 月 1 日（火）、約 4 時間
実施方法	オンライン開催（zoom）
言語	フランス語および英語（同時通訳配置）
想定参加者	サヘル地域 FP ：ブルキナファソ、カメルーン、チャド、マリ、モーリタニア、ニジェール、ナイジェリア、セネガル アフリカ角地域 FP ：ジブチ、ケニア 政府機関 ：セネガル環境持続的開発省（MEDD） CONACILSS ：CILSS 各国委員会常設秘書官 AI-CD パートナー ：JICA、UNCCD、CILSS、ICARDA、FAO、GEF ほか ITFP ：AU/GGWI、AfDB、World Bank、UNDP、UNEP、NGO ほか AI-CD 支援事務局
目的	砂漠化対処に向けた効果的かつ効率的な技術について、AI-CD メンバー国 FP と知見を共有する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 知識とツールの紹介（主に CILSS によって編集されたもの） AI-CD 関連サイトに掲載された知識共有コンテンツ紹介 AI-CD メンバー各国の砂漠化対処のための知識とツールの利用に関する議論

総勢 45 名の参加が得られたウェビナーでは、CILSS および AI-CD メンバー国から砂漠化対処に

有用な各種技術が①森林およびアグロフォレストリー、②持続的土地管理、③組織面での優良事例の3つのカテゴリ別に紹介された。続いて、CILSSを中心に蓄積されたこれまでの砂漠化対策関連の豊富な知見やツールを、関係各国が今後どのように利用すべきかに関する意見交換が行われ、技術研修の必要性、多くの知識共有データベースプラットフォーム間のシナジー向上、さらには、地域住民への知見普及戦略や新技術の導入検討の重要性などが議論された。ウェビナーの最後にはAI-CDの残り期間と終了後に、AI-CD関係国、MEDD、およびCILSSが行うべき活動が紹介された。ウェビナー終了後には開催結果を報告書に取りまとめ（添付資料3-2）、AI-CDウェブサイトへ掲載した。



CILSSにより共有された技術例（天然更新促進）



実施された知見共有ウェビナーの様子

図5 知識共有セミナーの写真

(3) ガイドラインの作成

優良事例を政策立案に活用するため、以下の項目を含むガイドラインである「AI-CD Knowledge & Policy Brief」を作成した。本文書の作成にあたり、ブルキナファソ、マリ、チャドのFPからの寄稿を得た。また、我が国が実施した砂漠化対処に関連する支援事業のうちサヘルにおける7案件を掲載した。UNCCD COP15やTICAD8の機会を捉え、ガイドラインを関係機関に広く紹介するとともに、AI-CDウェブサイトにも掲載した。当ガイドラインの英語版を添付資料3-3、仏語版を添付資料3-4に示す。

- Approaches to Achieving AI-CD Pillars
- Implementation at the Local Level
- Good Practices in the Sahel Countries



図 6 AI-CD Knowledge & Policy Brief (英語版)

(4) 知識共有アセットの活用方法の検討

上記「知識共有」セミナーの報告書やガイドラインを含む知識共有アセットが、AI-CD 実施期間後にも閲覧及び活用されるための方策を検討し、提案した。具体策として、保全アプローチと技術の世界的概観（WOCAT）や国際乾燥地農業研究センター（ICARDA）が有するレポジトリへの案件シートの掲載を提案したが、JICA との協議を経て、実施しないこととなった。その後、各種知識共有アセットを格納した AI-CD ウェブサイトを、JICA が実施する「アフリカ地域 [TICAD 8 自然環境保全貢献策：アフリカの森から世界を変えるナレッジプログラム]に係る調査」（以下、NbS Knowledge for Africa）にて構築したポータルと連携することを提案し、JICA 側の同意を経て実施した。

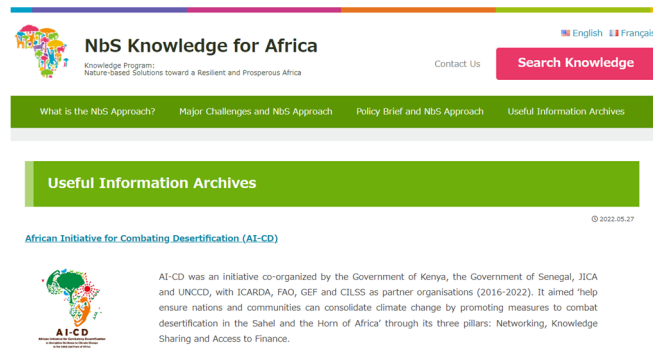


図 7 NbS Knowledge for Africa ポータルとの連携

(5) その他の取組

① ショートフィルム作成

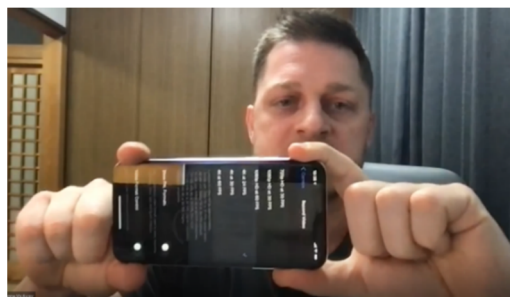
AI-CD 参加国が、自国の課題や取り組みについてステークホルダーからの関心を引くために、ナイジェリアとマリによるショートフィルム作成の支援を行った。具体的には、FP から写真、動画、プロジェクト資料などの素材の提供を促し、事務局が中心となって、それらを用いたショートフィルムを作成した。また、いち早く関心を示し動画のプロトタイプを作成し終えたナイジェリアに対しては、スマートフォンで動画撮影するためのワークショップを実施した。ナイジェリアが作成したショートフィルム ナイジェリアを添付資料 3-5、マリが作成したショートフィルムのうち短編版を添付資料 3-6、長編版を添付資料 3-7 に示す。



ナイジェリアのショートフィルム



マリのショートフィルム

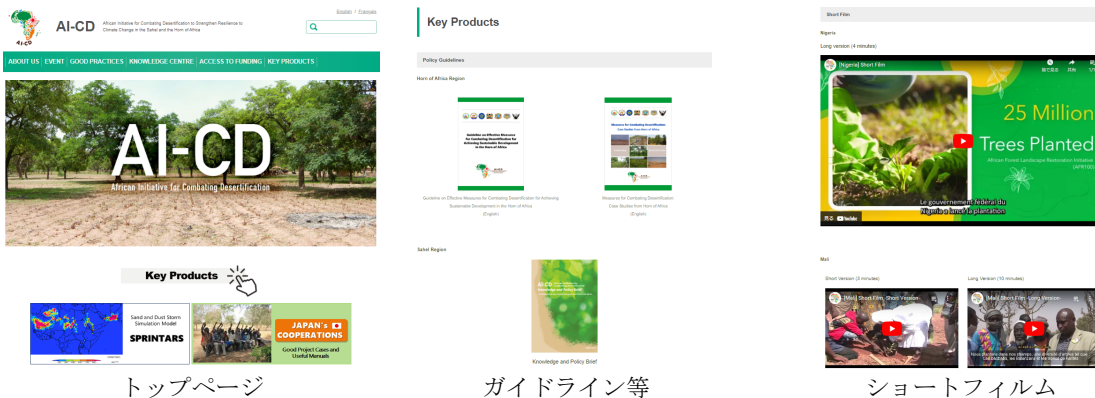


スマートフォンによる動画撮影のワークショップ

図 8 ショートフィルム関連写真

② 成果物掲載ページの開設

AI-CD ウェブサイト上に、前述の AI-CD Knowledge & Policy Brief 及びショートフィルムに、アフリカの角地域が作成した AI-CD Guidelines & Case Studies を加えた成果物の一式を掲載するページを作成した。



トップページ

ガイドライン等

ショートフィルム

図 9 AI-CD ウェブサイト 成果物掲載ページ

2.4 AI-CD 参加国の外部資金へのアクセス向上

(1) 国際機関等の支援モダリティ情報の整理

AI-CD 参加国が案件形成及び資金獲得を行う上で有用と思われる以下の国際機関・ドナー等の支援戦略や支援モダリティ等の情報を収集・分析・整理し、資金アクセスガイドブックとしてまとめ、AI-CD 参加国の FP に提供した。

- 日本大使館（草の根・人間の安全保障無償資金協力等）
- 地球環境ファシリティ（GEF）
- 国連食糧農業機関（FAO）
- 国連砂漠化対処条約（UNCCD）
- 国連開発計画（UNDP）
- アフリカ開発銀行（AfDB）
- 世界銀行
- 緑の気候基金（GCF）
- 国際農業開発基金（IFAD）
- 民間企業（事業及び CSR 活動）

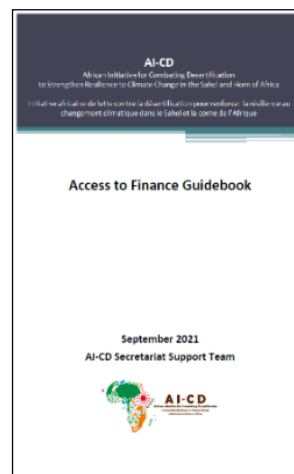


図 10 資金アクセスガイドブック

資金アクセスガイドブックでは、SDGs や気候変動対策といった土地劣化・砂漠化の背景・関連情報、砂漠化対処・気候変動に係る機関やメカニズム、そして AI-CD に関連する資金スキームの概要を紹介した。また、AI-CD における資金アクセス支援で使用した PCN の様式を含めた。

(2) 参加国の資金アクセス活動への支援とその成果

各参加国が PCN をもとに事業提案書（プロジェクトプロポーザル）を作成し、必要な資金の獲得が可能となるよう、各参加国に対し、必要な助言を行った。具体的には、①資金リソース情報の提供、②資金スキームへの応募に係る技術支援を行い、具体的な技術支援の内容として②-1 PCN の改善に係る技術支援、②-2 国際機関・ドナーからのヒアリング及び FP と国際機関・ドナーのマッチング会合（オンライン形式）②-3 民間連携および国際イニシアティブとの連携の可能性の模索を実施した。

具体的な支援内容は、以下に示すとおりである。

① 資金リソース情報の提供

前述の資金アクセスガイドブックを通じて体系的・網羅的に資金リソース情報を提供するとともに、ドイツ連邦政府による国際気候イニシアティブ（以下、IKI）や FAO 等の資金情報を随時、FP に提供した。こうした情報共有から、後述のマリの NGO による資金獲得に繋がった。さらに、前述の年次会合等の機会を捉えて、GEF、AfDB、GGWI といった資金提供機関・イニシアティブの担当者に各自の戦略や進捗を紹介してもらうことで、FP に対して最新の資金獲得機会の情報を提供した。

② 資金スキームへの応募に係る技術支援

当初は 15 か国を対象として技術支援を進めたが、FP の積極性や資金アクセス・事業形成の可能性に鑑みて、JICA との協議を経て、スーダン、ニジェール、マリ、ナイジェリアなど 8 カ国程度に絞って支援を行った。

②-1 プロジェクトコンセプトノート（PCN）の改善に係る技術支援

対象 15 カ国すべてが PCN を作成したが、各国から受領した PCN の熟度は国によって大きく異なっており、必要事項が不足しているものもあった。そこで、事務局が世界銀行 PCN に準じた方式で各プロジェクトを整理しなおし、PCN 内にコメント付す形式でプロジェクト構成、技術要件、記載要領等に関する助言を提供した。また、PCN に加えて、AI-CD に関連する課題別研修で FP が作成したアクションプランも案件シーズとして捉え、技術支援の対象とした。マリについては、後述の国際機関・ドナーとのマッチングの一環で国際 NGO の Wetlands International との対話が始まり、サヘル地域における乾燥地と湿地帯を考慮した広域プログラムを関連する国際機関・ドナーに提案することを見据えた技術的な助言を受けて、マリ FP が PCN を改善した。アフリカの角地域各国の PCN 一覧を表 13、サヘル地域各国の PCN 一覧を

表 14 に示す。

表 13 アフリカの角地域各国の PCN 一覧

Country	Title of PCN
Eritrea	1. Land Degradation Neutrality Target Monitoring 2. Dissemination of Asmara Solar Stove in the Highlands of Eritrea
Ethiopia	Bamboo for Landscape Restoration and Livelihood Improvement to Enhance Resilience to Climate Change
Kenya	Digitizing and sharing forestry research information, knowledge, technologies and innovations for sustainable development and livelihood improvement
Somalia	1. Capacity Building on Environmental Conservation and Management in Somalia 2. Establishment of a Plant Nursery in Beledweyne
South Sudan	1. Peri-urban focus integrated farming to combat desertification in South Sudan 2. Supporting the resettlement and reintegration of the Returnees and IDPs through agricultural production
Sudan	1. Building Community Resilience to Degraded Land in Sudan “Fixing Sand Dunes Encroachment” 2. Improving Livelihood in Degraded Land in Kurdufan and White Nile States

表 14 サヘル地域各国の PCN 一覧

Country	Title of PCN
Burkina Faso	1. Strengthening Local Community Resilience to Climate Change through SLM Good Practices 2. Enhancing the resilience of local communities and the ecosystems facing floods and droughts
Cameroon	Restauration of Degraded Lands in Cameroon
Chad	Restoration of terrestrial ecosystems in the department of Ngourkosso (Western Logone)
Mali	Scaling up of Sustainable Land Management Practices (SLM) in the Regions of Kayes, Koulikoro, Sikasso, Segou and Mopti
Mauritania	Support for the resilience of the most vulnerable rural populations in the face of the devastating effects of climate change in the Wilayas of Assaba and Guidimakha
Niger	Promoting good practices in Sustainable Land Management through the Farmer Field School Approach
Nigeria	Assisted Natural Regeneration of 80ha of Degraded land in Banaga, Zamfara state, Nigeria
Senegal	Project for the Restoration of Socio-Ecological Balances in the Kanel Department

②-2 国際機関・ドナーからのヒアリング及び FP と国際機関・ドナーのマッチング会合

資金獲得の可能性を探るため、主にオンライン方式で国際機関・ドナーへのヒアリングを実施し、各国 FP にフィードバックした。ヒアリングを実施した国際機関・ドナーは、AfDB、GEF、IFAD、EU、FAO、UNDP 等である。また、資金獲得や案件形成の可能性があると判断した場合、各国 FP と当該国際機関・ドナーの間の対話チャンネルを確保するため、マッチング会合を企画・実施した。さらに、JICA による関連国での案件形成のニーズや各国の資金リソース情報を把握するべく、JICA 南スーダン事務所員、セネガル事務所員及び同事務所モーリタニア担当職員の方々とも意見交換を行った。その中で、草の根・人間の安全保障無償資金協力や補正予算による国際機関連携無償資金協力等の活用可能性を検討した。

国際機関・ドナーへのヒアリング及び FP とのミーティングを合わせた総ミーティング実施回数は、2020 年に 86 回、2021 年に 39 回である。

②-3 民間連携および国際イニシアティブとの連携の可能性の模索

2022 年 3 月および 5 月のセネガル渡航の機会を利用し、セネガル関連機関（ISRA、GGWI、SOS サヘル）に民間技術を紹介するとともに、現地研究機関らの協力を得て技術紹介を兼ねた予備的小規模実験に着手するなど国際イニシアティブとの連携の可能性を探る活動を行った。紹介技術は生分解性素材を使った乾燥地緑化・農業促進チューブ（ポリ乳酸[PLA]チューブ）、土壌コーティング剤、および再利用ガラスを使った土壌改良剤の 3 点であり、いずれも環境への負荷が小さく、AI-CD 対象国の土壌劣化関連課題の解決への有効性が期待できる技術製品である。

表 15 紹介した民間技術一覧

技術名称	主な特徴	備考
PLA チューブ	生分解性の PLA（ポリ乳酸）を原料とする丸編み生地の製品。中に現場の土や砂を充填し、野菜栽培のほか、飛砂固定を目的とした草方格に用いられる。	ISRA の協力を得て予備的実験を実施
土壌コーティング剤	アクリル系重合体樹脂の土壌コーティング剤で、水と混ぜ合わせて吹付けることで土壌表面を強固にコーティングすると同時に土粒子間に浸透した分で土壌を団粒化する。浸食防止効果に速効性がある。	現地農家での試験で少量施用
再利用ガラスを使った土壌改良剤	ガラスを原料とした多孔質ガラス発泡材。乾燥地土壌に混合することで農業の節水と収量拡大が見込める。脱臭・水質浄化の効果もある。	現地農家での試験で少量施用

民間技術の説明協議では、先方関連機関の代表者らは、課題解決につながる技術に高い関心を示した。特に ISRA は PLA チューブの有する生分解性能と耕作不適地での野菜栽培の可能性がセネガルの環境および農業セクターにおける課題解決の手段になり得る点に興味を示した。そのため、ISRA と複数回の協議を行った結果、取扱い企業と製品実験の協力に関する覚書の締結とダカールの試験圃場内での小規模実験の実現に至った。その他、ジュールベル州においても現地農家の協力を得て、これら技術製品の小規模実験を並行して実施した。



ISRA 圃場内の PLA チューブ実験プロット
(2022 年 7 月)



現地協力農家での PLA チューブ設置作業風景
(2022 年 3 月)

図 11 PLA チューブ小規模実験の写真

上記小規模実験の結果、技術導入の可能性について以下のような傾向が観察された。

- 耕作不適地、点滴灌漑でなくても特定の野菜栽培が可能
- チューブの条数および培地の堆肥条件により生育状況に差異が出るのが判明
- 高温乾燥下では露地栽培に比べて蒸発散が旺盛
- 栽培中であってもプロットの移動が可能

本案件内で実施された実験は、製品の本格的導入に向けた予備的な活動として位置づけられるものであり、今後の製品や技術の普及のためには、様々な条件下での実験を継続し、サヘル地域に適した栽培条件の絞り込みを行うことが重要である。

なお、2022年5月にコートジボワールにて開催された UNCCD COP15 のサイドイベント（上述）では、民間連携活動の一環として、上述した日本の民間技術をスライドにて紹介すると同時に、サイドイベント参加者の技術への関心を高め、理解を促進することを狙い、実際の製品を説明パンフレットやビデオとともに会場に展示した。



PLA チューブ紹介スライド



サイドイベント会場での製品展示

図 12 民間技術の紹介

そのほか、TICAD8 開催に伴い、フランス系メディアの TV5 Monde により、アフリカにおける日本の協力の取り組み事例を紹介する企画が生まれ、その一つとして上述の PLA チューブに係る取り組みが紹介された（後述の「広報活動への協力」にて記載）。

(3) 国内ワークショップの開催支援と開催経費の支払代行

① 国内ワークショップの開催支援対象国の選定

事業提案書のとりまとめや国内関係者の合意形成を通じた資金アクセスの実現を目指すとともに、AI-CD 参加国内や国際機関との知識共有を支援するため、国内ワークショップの開催支援をおこなった。支援対象国については、PCN の熟度による各国の差はあるものの、参加国のオーナーシップや自発性を尊重するため、すべての AI-CD 参加国を対象に企画内容を募集し、その内、6 か国での国内ワークショップの開催を支援した。

企画募集及び選定にあたっては、事前に、国内ワークショップ開催に向けた流れや募集要項、対象費目などを整理した「AI-CD Country Workshop Support Program Application Guidelines」を、英語及び仏語にて作成し、すべての AI-CD 参加国の各国 FP に配布して、応募を促進した。当ガイドラインを添付資料 4-1 に示す。

国内ワークショップ開催支援の応募状況と開催支援対象国は、下記に示すとおりである。7 か国から応募があり、提案内容を確認・評価の上、支援対象国の 6 か国を選定した。

表 16 国内ワークショップへの応募状況と支援対象国

対象国	応募国	支援対象国
サヘル地域： セネガル、ブルキナファソ、カメルーン、チャド、マリ、モーリタニア、ニジェール、ナイジェリア アフリカの角地域： ケニア、ジブチ、エリトリア、エチオピア、ソマリア、南スーダン、スーダン (計 15 ヶ国)	サヘル地域： マリ、ブルキナファソ、モーリタニア、ナイジェリア アフリカの角地域： 南スーダン、スーダン、エリトリア (計 7 か国)	サヘル地域： マリ、ブルキナファソ、ナイジェリア アフリカの角地域： 南スーダン、スーダン、エリトリア* (計 6 か国)

*エリトリアについては開催に向けた支援や調整はしたものの、最終的に開催には至らなかった。

② 国内ワークショップの開催支援方法及び内容

各国での国内ワークショップの開催に向けた事前準備として、企画内容に対する技術的な支援とコロナ禍において安全に開催するための助言、予算案の妥当性の確認、JICA 本部及び各国 JICA 在外事務所との連絡・調整、開催経費の精算支援を行った。企画内容に対する技術的な支援や助言として、例えばプログラムの時間配分や目的に照らした企画内容や講師の妥当性の確認、各国のコロナ対策に準じた開催方法の提案を行った。また、PCN の作成を行うワークショップに対しては、資金調達に向けた政府の取り組み方法に関して協議するセッションを設けるよう促すなど、事業の実現に資する助言を行った。予算案の妥当性の確認では、講師謝礼の妥当性の確認や、JICA 在外事務所規定に沿った単価の設定、会場・備品等の見積合せなどを、遠隔にて支援した。事前準備では、JICA 在外事務所所員に対してオンライン会議への参加を促し、関係者間の調整に努めた。



開催当日は可能な範囲で団員が遠隔にて聴講して進行の状況確認などを行ったほか、必要に応じて AI-CD に関するプレゼンテーションを行った。また、JICA 在外事務所所員にも現地で運営補助（機器設置、参加者名簿の作成、開催費用の精算等）をいただいた。

なお、エリトリアでのワークショップは、通信環境の制約等の理由により AI-CD 期間中に詳細にわたる準備を遠隔で完了させることが非常に困難で、最終的に開催には至らなかったものの、開催に向けた FP 側との打合せを複数回実施し、開催費用の支払い代行のための事前調整や確認、予算案や開催場所に関する確認や助言などを通じて、開催に向けた準備支援を行った。

各国の国内ワークショップ開催概要は、次ページに示すとおりである。また、開催後に作成した開催報告書について、南スーダンを添付資料 4-2、マリを添付資料 4-3、スーダンを添付資料 4-4、ブルキナファソを添付資料 4-5、ナイジェリアを添付資料 4-6 に示す。

表 17 国内ワークショップ開催概要

開催国	開催日	参加者数	主催者	主な参加者	主な開催目的	開催内容	開催の様子
南スーダン	2021年 6月8日・ 9日 (2日間)	約45名	農業・食料 安全保障省	南スーダン 政府機 関、国連 機関、研 究機関、 日本大使 館、 JICA、 NGO	<ul style="list-style-type: none"> 国内関係者へのAI-CD関連活動の進捗の共有 省庁・研究機関・国際機関・NGO等の関係者との調整・連携メカニズムの強化 	<ul style="list-style-type: none"> 砂漠化対処と気候変動への強靱化に向けた取組状況の報告 取組の実行に向けた横断的アプローチに関するグループ討議 砂漠化対処に向けた手法紹介(ケーススタディー) 地域レベルの取組の優良事例紹介 国際機関やNGO等による取組紹介等 	
マリ	2021年 6月16 日・17日 (2日間)	約50名	環境・衛 生・持続可 能な開発省	マリ政府 機関、国 際機関、 GIZ、 JICA、民 間団体等	<ul style="list-style-type: none"> AI-CDやその取組内容に関する理解の促進 関係機関の意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 環境省技術顧問によるマリの砂漠化の現状や対策 持続可能な農業生産システムの紹介 AI-CDの紹介・意見交換 複数のNGOからの持続可能な土地管理に関する優良事例の紹介 マリ政府の事業提案書のプロジェクト内容紹介等 	
スーダン	2021年 7月16 日・17日 (2日間)	61名	連邦環境天 然資源高等 評議会	スーダン 政府機 関、 JICA、学 術研究機 関、NGO 等	<ul style="list-style-type: none"> AI-CDの成果及び今後の取組の共有 関係者間のネットワーク強化 砂漠化対処に関する研究成果や優良事例等の知識共有 	<ul style="list-style-type: none"> スーダンにおける砂漠化の変遷と砂漠化対処の取組説明 砂漠化対処に向けた研究やプロジェクト報告、具体的な技術紹介 砂漠化対処と食料安全保障、水資源管理に関する地域固有の知識共有 参加者によるグループディスカッションと情報収集・知識共有に向けた提案発表 現地視察(the El-Rawakeeb Dryland Research Station)と植林 	

開催国	開催日	参加者数	主催者	主な参加者	主な開催目的	開催内容	開催の様子
ブルキナファソ	2021年 11月22日 ～26日 (5日間)	18名	環境・グリーン経済・気候変動省	ブルキナファソ関係政府機関	<ul style="list-style-type: none"> 2019年開催のAI-CD国内ワークショップにて作成した2種類のLDNのためのPCNの最終化 	<ul style="list-style-type: none"> AI-CDの取組や成果の共有 2019年に作成されたPCNの内容確認 PCNの内容に関する意見交換と内容更新、最終化 プロジェクトの実施に向けた資金調達に関する意見交換 PCNに記載されたプロジェクトの実現に向けた方針確認 	
ナイジェリア	2021年 11月25日・26日 (2日間)	61名	連邦環境省	政府関係機関、大学・研究機関、市民団体、ドナー機関、民間団体等	<ul style="list-style-type: none"> 乾燥地の自然資源開発と管理への民間セクターの参画促進 乾燥地の持続可能な管理のためのイニシアティブの実施に向けた資金提供機関の参画促進 関係機関の情報共有と協働の促進等 	<ul style="list-style-type: none"> 研究機関を含む砂漠化対処に係る関係機関の協働促進に関する講演 砂漠地における官民連携の取組と自然資源利用の促進に関する講義 砂漠地の開発投資の事例の共有と民間セクター参画促進の方法、関係機関の協働における課題と解決策等に関するグループディスカッションと専門家からのフィードバック 	

2.5 その他付帯業務

(1) サヘル及びアフリカの角地域の主導国への業務計画概要の共有

業務開始後、当プロジェクトの業務計画概要を英文で作成し、AI-CD 参加国の主導国であるセネガル及びケニアの関係者へ共有した。

(2) 我が国の自然環境分野に関連する支援の情報の収集、整理、発信

① 支援事業情報の収集・整理

これまでに我が国（政府、JICA、研究機関、及び NGO 等を含む）が実施した砂漠化対処に関連する支援事業を 7 案件選定し、その概要や成果品（マニュアル等）、その他活用可能な成果を収集・整理してとりまとめた。選定した 7 案件を表 18 に示す。

表 18 情報収集・整理した日本の自然環境分野の支援プロジェクト

#	プロジェクト名	対象国	実施期間
1	砂漠化防止対策技術の移転手法など検討調査事業	ブルキナファソ	2004-2007
2	持続的森林管理のための能力開発プロジェクト (CADEP-SFM)	ケニア	2016-2021
3	スーダン及びサブサハラアフリカの乾燥・高温農業生態系において持続的にコムギを生産するための革新的な気候変動耐性技術の開発	スーダン	2018-2023
4	地域資源を有効活用した低炭素型農村開発のための手法開発調査	ブルキナファソ	2013-2016
5	オロミア州リフトバレー地域におけるファーマー・フィールド・スクール (FFS) を通じた持続的自然資源管理プロジェクト	エチオピア	2013-2018
6	劣化土壌地域における土地劣化抑制・有効利用促進のための能力向上プロジェクト (CODEVAL)	セネガル	2011-2017
7	食料安全保障とレジリエンスのガバナンスにかかる能力向上プロジェクト	セネガル	2017-2022

なお、「食料安全保障とレジリエンスのガバナンスにかかる能力向上プロジェクト」については、現在実施中の案件であったことから、情報収集・整理した情報を公開することが難しく、JICA と協議の上で、AI-CD ウェブサイトでの公開を取り止めた。

② ウェブサイトへの掲載

上記で選定した 7 案件のうち「食料安全保障とレジリエンスのガバナンスにかかる能力向上プロジェクト」を除く 6 案件を案件シートとして取りまとめ、AI-CD ウェブサイトに掲載した。掲載日及びタイトルを表 19 に示すとともに、添付資料 5-1 から 5-6 に示す。

表 19 AI-CD ウェブサイトに掲載した案件シート一覧

#	掲載日	プロジェクト名
1	2022年4月27日	[BURKINA FASO – MoE] Technical Assistance of Traditional Knowledge and Local Technology Transfer
2	2021年8月2日	[KENYA-JICA] Capacity Development Project for Sustainable Forest Management in the Republic of Kenya (CADEP-SFM)
3	2021年8月2日	[SUDAN-SATREPS] Development of climate-resilient innovative technologies for sustainable wheat production in the dry and heat-prone agroecologies of Sudan and Sub-Saharan Africa
4	2021年6月21日	[BURKINA FASO-JIRCAS] Promotion of Low Carbon Rural Development through Efficient Utilisation of Local Resources for the Realisation of Sustainable Development
5	2020年11月27日	[ETHIOPIA-JICA] Sustainable Natural Resource Management Project Through Farmer Field School (SNRMP) in the Rift Valley Area of Oromia Region
6	2020年11月5日	[SENEGAL-JICA] Capacity Building Project for Controlling Land Degradation and Promoting its Recovery in Degraded Soil Areas

③ 外部サイトとのリンク

UNCCD との協議・調整を行い、UNCCD Capacity Building Marketplace に、案件シートが掲載されている AI-CD ウェブサイトへのリンクを掲載したほか、前述の JICA 「NbS Knowledge for Africa」ポータルサイトとのリンクも行った。その他、ICARDA とも協議の上、WOCAT や ICARDA のレポジトリへの案件シートの掲載案を JICA へ提案したが、想定される投入人月に対する費用対効果の観点から、それらサイトへの掲載については見送ることとなった。

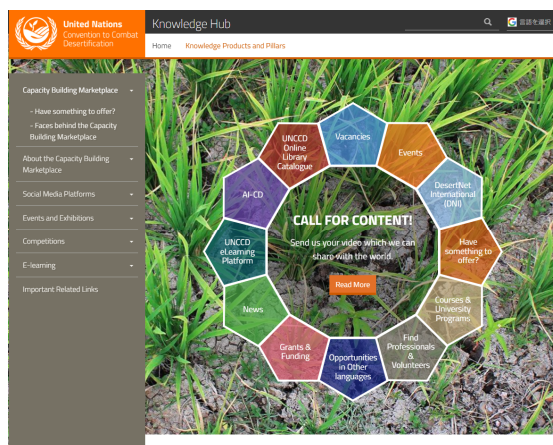


図 13 UNCCD Capacity Building Marketplace に設定された AI-CD ウェブサイトへのリンク

④ パンフレットの作成

当初は、案件シートを取りまとめてパンフレットを作成し、TICAD8 サイドイベントで配布する予定であったが、同サイドイベントがオンライン開催となったため、JICA と協議の上、実施しないこととなった。代替として、前述の AI-CD Knowledge & Policy Brief 作成にあたり、サヘル地域の案件シート7件分を掲載することとした。

(3) AI-CD ウェブサイトの維持管理

① AI-CD ウェブサイトの維持管理

表 20 に示すカテゴリのページ計 22 件を AI-CD ウェブサイトに追加した。各ページの詳細を表 21 に示す。2020 年 3 月から 2022 年 9 月までの約 2.57 年で英文 96 ページ、仏文 104 ページ、年あたり英文 37.4 ページ、仏文 40.5 ページを追加した。なお、更新・追加するページの内容については、事前に JICA の承認を得た。

表 20 AI-CD ウェブサイトの追加内容のカテゴリ一覧

#	カテゴリ	件数
1	日本の砂漠化対処関連支援事業紹介	6
2	国内ワークショップ開催報告	5
3	地域会合開催報告	4
4	UNCCD COP15 関連	3
5	TICAD8 関連	2
6	その他	2

表 21 AI-CD ウェブサイトの追加ページ一覧

掲載日	タイトル (英語)	ページ数		内容
		英	仏	
2022 年 9 月 21 日	AI-CD Side Event at TICAD8 -Discussion on the Way Forward toward Achieving a Resilient Africa-	3	4	TICAD8 サイドイベント開催報告
2022 年 8 月 8 日	[Pre-Announcement] Online Side Event at TICAD 8, – 24 Aug. 2022 –	1	1	TICAD8 サイドイベント開催予告
2022 年 8 月 8 日	Termination of AI-CD and introduction to the new programme	1	1	SNS ツールの NbS Knowledge for Africa への移行通知
2022 年 6 月 27 日	AI-CD Follow-Up Meeting during UNCCD COP 15 in Abidjan, Cote d’Ivoire	4	4	UNCCD COP15 フォローアップミーティング開催報告
2022 年 6 月 27 日	AI-CD Side Event at UNCCD-COP 15 in Abidjan, Cote d’Ivoire -Showcasing on-the-ground practices to combat desertification toward a prosperous and resilient Africa-	6	6	UNCCD COP15 サイドイベント開催報告
2022 年 5 月 18 日	AI-CD’s Knowledge-Sharing Seminar in Collaboration with CILSS	7	7	知識共有セミナー開催報告
2022 年 4 月 27 日	UNCCD COP15 Side Event: AI-CD – Showcasing on-the-ground practices to combat desertification toward a prosperous and resilient Africa –	3	3	COP15 サイドイベント開催予告
2022 年 4 月 27 日	Final Regional Forum of AI-CD for Sahel Region -Member Countries’ Great Progress in Achieving AI-CD Objectives-	5	6	地域会合開催報告
2022 年 4 月 27 日	[BURKINA FASO – MoE] TECHNICAL ASSISTANCE OF TRADITIONAL KNOWLEDGE AND LOCAL TECHNOLOGY TRANSFER	3	3	日本の砂漠化対処関連支援事業紹介
2022 年 3 月 7 日	AI-CD Workshop in Burkina Faso held from 22 to 26 November 2021	2	3	国内ワークショップ開催報告
2022 年 3 月 7 日	AI-CD Workshop in Nigeria held on 25 and 26 November 2021	4	4	国内ワークショップ開催報告

掲載日	タイトル (英語)	ページ数		内容
		英	仏	
2021年 10月15日	AI-CD Workshop in Sudan Held on 16 and 17 June 2021	4	5	国内ワークショップ開催報告
2021年 10月4日	AI-CD Final Regional Conference for Horn of Africa – Great Progress of Member Countries in Achieving the Objectives of AI-CD	7	8	地域会合開催報告
2021年 9月27日	AI-CD Workshop in Mali Held on 16 and 17 June 2021	3	4	国内ワークショップ開催報告
2021年 8月17日	AI-CD Workshop in South Sudan Held on 8 and 9 June 2021	4	5	国内ワークショップ開催報告
2021年 8月2日	[KENYA-JICA] Capacity Development Project for Sustainable Forest Management in the Republic of Kenya (CADEP-SFM)	8	8	日本の砂漠化対処関連支援事業紹介
2021年 8月2日	[SUDAN-SATREPS] Development of climate-resilient innovative technologies for sustainable wheat production in the dry and heat-prone agroecologies of Sudan and Sub-Saharan Africa	6	6	日本の砂漠化対処関連支援事業紹介
2021年 6月21日	[BURKINA FASO-JIRCAS] Promotion of Low Carbon Rural Development through Efficient Utilisation of Local Resources for the Realisation of Sustainable Development	5	5	日本の砂漠化対処関連支援事業紹介
2021年 2月22日	AI-CD's 4th Regional Forum for the Sahel Improvement of Access to Finance Through Networking and Knowledge Sharing	4	4	地域会合開催報告
2020年 12月25日	AI-CD's 4th Regional Forum for Horn of Africa -Strong will of the member countries to continue their initiatives to promote AI-CD relevant activities-	5	6	地域会合開催報告
2020年 11月27日	[ETHIOPIA-JICA] Sustainable Natural Resource Management Project Through Farmer Field School (SNRMP) in the Rift Valley Area of Oromia Region	5	6	日本の砂漠化対処関連支援事業紹介
2020年 11月5日	[SENEGAL-JICA] Capacity Building Project for Controlling Land Degradation and Promoting its Recovery in Degraded Soil Areas	6	5	日本の砂漠化対処関連支援事業紹介

Facebook 及び Twitter を用いて、月 1 回、砂漠化対処関連情報を発信した。ウェブサイトのトップページには、SNS の更新情報も表示されるようにデザインした。SNS ツール活用の詳細は、「2.5(4)(4) SNS 等による情報発信」を参照のこと。また、ドナー・国際機関の関連リンク集の見直しとアップデートは、上述の資金アクセスガイドブックの作成を通じて実施した。

② AI-CD 関係者間のネットワーク・ツールとしてのメーリングリストの運営・維持管理

AI-CD 関係者間への連絡・情報共有を行うために、メーリングリストの運営・維持管理を行った。但し、FP を含む AI-CD 関係者の連絡先が頻繁に変更され、リストの更新と正確性の確保にも時間を要することから、実際に、AI-CD 支援事務局から関係者へ連絡・情報共有を行う際には、関係者の個々のメールアドレスを使用し、正確かつスピーディーな情報伝達に努めた。

(4) SNS 等による情報発信

AI-CD が運用している Facebook¹*及び Twitter²を継続運用し、砂漠化対策や AI-CD の取組に関連する情報を平均して月に約 3 回程度配信した。配信にあたっては、英文及び仏文を併用し、基本的に両ツール同一内容とした。具体的な配信内容としては、AI-CD イベント報告やウェブサイトの更新情報、AI-CD 以外の砂漠化対策に関連する記事やニュース、AI-CD に関連する機関や関係者の関連ポストのシェアなどである。また、第 5 回アフリカの角地域会合（2021 年 8 月開催）にて、ケニア森林研究所（KEFRI）のウェブポータル³に掲載されている優良事例についても AI-CD の SNS ツールにて配信することが協議されたことから、AI-CD の理念や活動内容を踏まえ、KEFRI の優良事例のうち、いくつかについても SNS を活用して紹介した。

これまでに AI-CD が運用する SNS で配信した内容を表 22 に示す。

表 22 SNS (Twitter/Facebook) での情報発信内容一覧

2022 年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> • TICAD8 の AI-CD サイドイベント紹介・告知 • UNCCD Drought Toolbox 及び AI-CD Knowledge Hub の紹介 • International Youth Day にちなんだ UNCCD youth の取組紹介記事 • JICA の TICAD8 サイドイベントの投稿シェア • AI-CD の公式 SNS ページのリニューアル告知
2022 年 7 月	<ul style="list-style-type: none"> • World Nature Conservation Day に関する UNCCD の投稿シェア • UN Land and Drought による干ばつのリスクに関する投稿シェア • KEFRI の砂漠化対策に向けた新たな技術導入に関する紹介記事 • UNCCD レポート”Land rights matter for people and the planet”の紹介記事 • JICA による TICAD8 に向けたイベントの投稿シェア • UNCCD の LDN への移行に関するイベント投稿シェア
2022 年 6 月	<ul style="list-style-type: none"> • AI-CD FP（ナイジェリア及びマリ）によって制作されたショートフィルム紹介 • UNCCD の干ばつに関するレポート（Drought in Numbers 2022）紹介 • JICA による World Day to Combat Desertification and Drought（砂漠化および干ばつと闘う国際デー）にちなんだ投稿シェア⁴ • UNCCD COP15 開催期間に実施した AI-CD フォローアップ会合の開催報告ウェブ記事 • UNCCD COP15 での AI-CD サイドイベント開催報告ウェブ記事紹介 • アフリカの角地域における干ばつに対する FAO の働きかけに関する記事シェア
2022 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> • UNCCD COP15 での AI-CD サイドイベント報告 • CILSS との知識共有セミナー開催報告ウェブ記事紹介 • UNCCD COP15 のハイライトやレポート紹介
2022 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> • Green Climate Fund による IFAD とのプロジェクト紹介の投稿シェア • (KEFRI) 農業従事者の生計向上と環境の持続可能性向上に向けた取組の優良事例紹介 • UNCCD の Global Landscapes Forum への参画と取組に関する投稿シェア • ブルキナファソでの伝統知識と技術移転に関するプロジェクト記事 • AI-CD 第 5 回サヘル地域会合の開催報告ウェブ記事紹介 • UNCCD COP15 での AI-CD サイドイベント告知
2022 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> • (KEFRI) ケニアでの農業従事者の収入向上と環境保全に向けた取組の優良事例紹介 • Regreening Africa のサブサハラアフリカのエコシステムの修復に向けたワークショップの告知投稿シェア • ブルキナファソでの AI-CD ワークショップ開催報告ウェブ記事紹介 • ナイジェリアでの AI-CD ワークショップ開催報告ウェブ記事紹介

¹ <https://www.facebook.com/aicd.official/> フォロワー：7369 人（2022 年 8 月 25 日時点）

² https://twitter.com/aicd_official フォロワー：51 人（2022 年 8 月 25 日時点）

³ <https://www.kefri.org/home.html>

⁴ JICA 広報用の Facebook 掲載記事案も作成支援した

	<ul style="list-style-type: none"> UNCCDによる劣化した土地の修復に向けた取組促進と COP15 告知投稿シェア (KEFRI) ケニアでの雇用創出や土壌廃棄物の低減に向けた取組の優良事例紹介
2022年2月	<ul style="list-style-type: none"> UNCCDによる COP15 のロゴとテーマ決定に関する告知投稿シェア (KEFRI) ケニアでのマングローブ保全に関する優良事例紹介 GEFによる Nature-based solutions に関する記事紹介の投稿シェア
2022年1月	<ul style="list-style-type: none"> (KEFRI) ケニアでの土地管理と持続可能な農業生産に関する優良事例の紹介 ICARDAによる劣化土壌の改善と乾燥地での生計向上に向けた取組に関する投稿シェア (KEFRI) ケニアでの植物生産と生計向上に向けた取組の優良事例紹介
2021年12月	<ul style="list-style-type: none"> ナイジェリアでの AI-CD ワークショップ開催報告ウェブ記事紹介 (KEFRI) ジブチでの砂漠化対処に向けたストーブの改良に関する優良事例紹介 (KEFRI) ケニアの乾燥地における土壌と水の保全に向けた取組の優良事例の紹介
2021年11月	<ul style="list-style-type: none"> UNCCDによる COP26 での Glasgow Declaration on Forest and Land Use に関する記事シェア (KEFRI) 南スーダンでの燃料消費や森林伐採、砂漠化を抑制する取組に関する優良記事紹介 KEFRI の Commercial Forestry 投資会議に関する広報記事シェア (KEFRI) スーダンの砂漠地における Sand dunes Fixation の優良事例紹介記事
2021年10月	<ul style="list-style-type: none"> AI-CD 第5回アフリカの角地域会合の開催報告ウェブ記事紹介 LDNに向けた FAO と UNCCD によるウェビナー成果報告記事シェア スーダンでの AI-CD ワークショップ開催報告ウェブ記事紹介 (KEFRI) ケニアでの Grass re-seeding の取組に関する優良事例の紹介
2021年9月	<ul style="list-style-type: none"> KEFRI の Commercial Forestry 投資会議に関するイベント記事シェア AI-CD の SNS にて KEFRI のウェブポータルの記事紹介を行う告知 (KEFRI) エリトリアでの砂漠化対処等に関する優良事例の紹介 UNCCD のサブサハラアフリカでの LDN の達成に向けた FAO との取組記事シェア マリでの AI-CD ワークショップ開催報告ウェブ記事紹介 (KEFRI) エチオピアでの森林劣化と伐採の抑制に向けたプロジェクト紹介記事
2021年8月	<ul style="list-style-type: none"> 南スーダンでの AI-CD ワークショップの開催報告ウェブ記事紹介 スーダンでの SATREPS プロジェクトの AI-CD 記事紹介 ケニアでの技術協力プロジェクト (CADEP-SFM) に関する AI-CD 記事紹介
2021年7月	<ul style="list-style-type: none"> ブルキナファソでのプロジェクトに関する AI-CD 記事の紹介 スーダンでの AI-CD ワークショップの開催報告 World Bank によるジブチでの取組に関する投稿シェア
2021年6月	<ul style="list-style-type: none"> アフリカ 11 国での GEF による FAO の新規プロジェクトの紹介記事 UNCCD による Desertification and Drought Day 関連の投稿紹介 南スーダンでの AI-CD ワークショップの開催報告 IUCN の Desertification and Drought Day にちなんだ投稿の紹介記事
2021年5月	<ul style="list-style-type: none"> FAO の砂漠イナゴに対する取組の記事紹介 World Day to Combat Desertification and Drought にちなんだ投稿 ICARDA の Diversified cropping systems の導入とその効果に関する記事 World Agroforestry の砂漠地の課題に関する投稿シェア
2021年4月	<ul style="list-style-type: none"> AI-CD の SNS 投稿に関する内容の説明 The CGIAR Research Program on Forests, Trees and Agroforestry (FTA)のウェブ記事紹介
2021年2月	<ul style="list-style-type: none"> AI-CD の第4回サヘル地域会合レポート記事
2020年11月	<ul style="list-style-type: none"> セネガルでの砂漠化対処に向けた人材能力強化に関するプロジェクト記事 エチオピアでの持続可能な自然資源管理に関するプロジェクト記事

*他機関の投稿シェアについて、Facebook では対応が困難なものもあり、一部は投稿していない

(5) その他の取組

① 関連案件とのシナジー創出

当業務従事者の一部が、当業務に関連する2つのJICA案件にも従事していることから、その利点を生かし、案件間のシナジーを創出した。

①-1 課題別研修「サブサハラアフリカ気候変動に対するレジリエンス強化のための砂漠化対処」 (2021年9月～2022年2月)

AI-CDの副業務主任者と広報/地域協力推進(1)の2名が従事し、研修後のフォローアップを展望しつつ、以下のシナジーを創出した。

➤ AI-CDの文脈を踏まえた研修員選定

AI-CDのFPと関係性の深い省庁・部署からの研修員の選定を提言した。

➤ 民間企業との連携

「民間連携および国際イニシアティブとの連携の可能性の模索」にて前述した民間企業による講義を研修に取り入れた。自国での取り組みに取り入れたいという声が挙がるなど、研修員から高い評価を得た。特にナイジェリアの研修員は、講義で紹介した土壌改良剤の自国への導入を要望したため、フォローアップの一環として研修員と関連企業とのマッチングミーティングを実施し、具体的な調整が進んでいる。ナイジェリアFPは、これらの一連の動きをAI-CDによる成果の一つとして、TICAD8サイドイベントにて報告した。

➤ アクションプランの共有

南スーダンにおいて、AI-CDの資金アクセス支援との調和のため、研修員が自らのアクションプランをFP、JICA在外事務所職員、JICA技術協力プロジェクト専門家に対して発表する場を設け、参加者間でのアクションプラン実現に向けた議論をファシリテートした。

①-2 「アフリカ地域[TICAD 8 自然環境保全貢献策：アフリカの森から世界を変えるナレッジプログラム]に係る調査」(NbS Knowledge for Africa) (2021年12月～2023年5月)

AI-CDの副業務主任者と広報/地域協力推進(2)の2名が従事し、以下のシナジーを創出した。

➤ SNSツールの有効活用

既存フォロワーを基盤として広報効果を高めるため、AI-CDのSNS(Facebook、Twitter、YouTube)をNbS Knowledge for Africa案件のSNSとして再活用することを提案し、JICAの承認を得て、実施した。

➤ 案件シートの活用

AI-CDにて案件シートとして取りまとめた案件は、NbS Knowledge for Africa案件の対象案件と重複するものが多いため、NbS Knowledge for Africa案件でのナレッジ抽出・整理の作業に最大限に活用した。

② 広報活動への協力

JICA Magazine による AI-CD 及び関連する課題別研修に関する取材協力をおこなった⁵。また、フランス系メディアの TV5Monde による AI-CD のセネガルでの取組に関する取材協力をおこなった。TV5 Monde によって制作された映像は、首相官邸の YouTube チャンネルにもアップロードされた⁶。



JICA Magazine による特集記事



TV5 MONDE による特集番組

図 14 メディアによる特集

5

https://jicamagazine.jica.go.jp/article/?id=202206_12s&tits=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%A7%E5%BE%97%E3%81%9F%E3%80%8C%E6%B0%97%E3%81%A5%E3%81%8D%E3%80%8D%E3%82%92%E7%A0%82%E6%BC%A0%E5%8C%96%E5%AF%BE%E7%AD%96%E3%81%AE%E4%BF%83%E9%80%B2%E5%8A%9B%E3%81%AB&src=2022%2F05%2F1-1.jpg

6 <https://www.youtube.com/watch?v=cIX7A4jx7lc>

3. 教訓・提言

3.1 本件業務の主な成果

AI-CD の 3 つの柱に基づき、本件業務の実施を通じて得られた主な成果を以下のとおりに整理した。

(1) ネットワーク構築

- **地域ハブ国およびメンバー国のオーナーシップと責任の醸成**

本件業務全般を通じて、AI-CD 支援事務局はハブ国およびメンバー国の FP と数多くの協議の場を設定し、様々な意見交換を行った。特に新型コロナウイルスの世界的蔓延に伴い、現地渡航に大きな制約が課せられた中、その解決策としてオンライン会議を積極的に活用し、前フェーズで構築されたネットワークを維持するだけでなく、これまで以上に密に意見交換の場を設けることで彼らの本イニシアティブに対するオーナーシップと責任を高めるための支援を行うことができた。

- **パートナー機関の公約および他のイニシアティブ間の調和の推進**

オンライン会議の積極的活用を通じ、多様なパートナー機関との協議を活性化することができた。FAO、IFAD、UNDP 等の国際機関のプログラムの活用可能性、GEF に関連する資金スキームの活用方法、湿地保全関連イニシアティブや GGWI との連携の模索など、類似する目的を有したパートナー機関のプログラムやイニシアティブとの調和を図った。

- **南南／三角協力の具体化**

本件業務を契機に、南南協力が促進された事例が見られた。例えば、南スーダンでは AI-CD 課題別研修のフォローアップ協力の枠組みを活用して関係者がケニアの FP である KEFRI を訪問し、KEFRI での室内研修（ワークショップ、グループ討議ほか）、現地視察を実施したほか、ウガンダの農業研究機関に訪問し、南スーダンの野菜と樹木の複合農業システムに適した作物タイプの選定を行った。

(2) 知識共有

- **各国および共同で作成された知識の文書化と視覚化**

各国の貢献を得て AI-CD Guidelines & Case Studies や AI-CD Knowledge & Policy Brief といった知識の文書化が行われた。また、ナイジェリアとマリに対してショートフィルムの作成を支援することで、自国の課題や取り組みが視覚化された。そのほか、5 か国での国内ワークショップの開催支援を通じて知識共有の場が設けられたほか、AI-CD のウェブサイトでは砂漠化対処関連支援事業、SNS では KEFRI がまとめた優良事例を紹介することで、現場或いはオンラインにおける知識共有が促進された。

- **政策立案と現場での実施促進のための、共有された他国の知識／優良事例の活用**

セネガル MEDD および CILSS の共催により、選定された優良事例を共有する「知識共有ウェビナー」の開催が実現した。また、「AI-CD Knowledge & Policy Brief」の作成を通じて、優良

事例を政策立案に活用するよう促した。知識／優良事例の共有および関連案件とのシナジー創出活動の結果、ナイジェリアと土壌改良関連企業とのマッチングミーティングやセネガルでの生分解性素材の予備実験の実現など、日本の民間企業との連携促進につながった。

(3) 資金アクセス

- **各国における案件形成及び資金アクセスに向けたプロセスの強化**

国内ワークショップ等を通じて国内のネットワークが強化されたことで、案件形成において分野横断的な利害関係者の巻き込みが強化された。また、分野横断的課題である砂漠化対処や気候変動対策について、環境省や農業省等の省庁間の連携が強化された。

- **PCNに基づく各国とパートナー間の対話の強化**

事務局の支援を得つつ、全15か国が自国のニーズをPCNとして文書化した。PCNに基づいた個別の提案・相談・協議を通じて、各国FPと国際機関・ドナー等との対話が強化された。

- **マリのNGOによる資金獲得**

2021年4月のFAO西アフリカ地域事務所の公募「Support to implement a community-based forest/land management demonstration initiative for knowledge dissemination」の情報を各国に提供し、マリとナイジェリアのNGOが応募した。そのうちマリは、FPからのサポート依頼に基づき、2つのNGOの提案書の追記・修正に係る技術的支援を行った。その結果、2つのNGOのうち片方が採択された。2021年12月以降現在に至るまで、同NGOとFAO西アフリカ地域事務所の間で契約交渉が進められている。

- **民間セクターとのマッチングを経た連携活動の具体化**

前述の知見共有の成果でも述べたように、砂漠化に関連する開発課題の解決に向けて、日本の有用技術の活用につながる民間企業との連携促進の動きが徐々に活発化している。今後、民間連携を活用した資金アクセスアプローチが期待される。

3.2 今後に向けた教訓・提言

アフリカの角地域からサヘル地域まで、ネットワーク構築・知識共有・資金アクセスの3つを柱としたイニシアティブの中で実施された様々な活動は、砂漠化対処の同じ課題に直面する15か国間、さらには国際機関やその他のイニシアティブとの連携をより強固なものとし、今後も各国における課題解決に向けて、互いに協力しあうことの重要性を認識するうえで、大きな役割を果たした。そのことは、2022年5月のUNCCD COP15のサイドイベントにおいて、参加者から各国がAI-CDを通じて得たアセットを生かし、GGWI等の国際イニシアティブとの連携に繋げていくことが提案されたことから窺うことができる。AI-CDのアセットをより有効に活用するために重要となる今後に向けた教訓と提言を、以下のとおりに整理した。

(1) ネットワーク構築

● ネットワーク構築による相乗効果の創出

本件業務におけるネットワーク構築に係る一連の活動では、対象 15 カ国間の結びつきを強化することができた。そのインパクトのひとつとして、前述したように南スーダンでは、JICA の支援を得て自国の能力強化のために他の近隣国から学ぶ事例が生まれた。このように類似した開発課題を抱える複数の国を対象とする案件の場合、相乗効果として互いが学びあう動きが生じることが期待できる。さらに、資金アクセス支援の一環として、AI-CD 支援事務局のファシリテーションを通じて、各国と国際機関・ドナー（本部、地域事務所、各国事務所等）等とのネットワークが強化された。本件業務で取り組んだ国内ワークショップと地域セミナーによって関係国間の情報交換と学びの場を創出し、個別ニーズに基づいて関係機関との対話を強化するアプローチは、類似の開発課題を持つ複数国を対象とし、パートナーシップによる活動の発展を企図する案件においても有用となり得る。

(2) 知識共有

● 既存知識の更なる有効活用の必要性

本件業務では、既存の知識や有用事例を収集整理し、他国や他の開発パートナーと共有する活動を展開した。一方で、砂漠化対処技術や事例のデータベースやレポジトリーは既に存在しているものの、未だに蓄積された知識や情報が政策立案や現場レベルで十分に活用されるに至っていない。この状況を改善するため、今後はこれらのアセットを有するパートナーと連携し、事業計画段階から蓄積された情報を積極的に活用するとともに、その結果を同じシステムにフィードバックするなど、既存情報の活用事例の形成を行い、その各実施ステップを他国に紹介若しくは利用促進を促す取り組みを展開することが有効と考えられる。

(3) 資金アクセス支援

● FAO/UNDP などプロジェクトベースでの連携協調の推進

国際機関・ドナー連携において、FAO/UNDP などと個別具体的な連携・協力議論が実施することができた。例えば FAO ではニジェールプログラムでの共同推進を図るべく数度にわたり協議する機会が設けられた。具体化には至らなかったものの、これら協議を通じ、各機関の戦略を理解しつつ、AI-CD の FP が掲げるプロジェクト案をどのようにマッチさせるか、包含させていくかについては、これら機関側ですでに実施中のプロジェクトへの親和性・貢献度などを含めてマッチさせていくことの難しさを味わった。また、その際に AI-CD 支援事務局の役割・貢献について、これら諸機関と各国 FP との対話促進には寄与したとみるが、役割からして、それ以上の技術支援・資金提供などができず、双方から信頼・評価を受けつつ、進めることの難しさを経験した。今後には、JICA が何らかの資金提供枠組みをもって補完的な役割を担う方式にできると、これら対話の推進に有用と思料する。

● AI-CD の各国関係省庁間の連携・協力体制整備

AI-CD の各国 FP としては、主として各国環境省（あるいは農業省）の局長レベルが選出されたものの、いわゆる省内・省庁間連携を通じた、ドナーへの提言等について、ネットワーク

不足、連携不足などが理由で、思うように進まないことが多かった。AI-CD 各国 FP は、分野別課題への対処について、現場寄りの視点は詳しいものの、政策提言、省庁間連携、とくにドナー等の国際機関連携は、経験が少ないかあるいは別の担当部局が存在するというケースも多く、AI-CD 支援事務局側からの支援の及ぶ範囲に限界がみられることもあった。今後には、各国で本業務関連、砂漠化対処・気候変動・土壌劣化などの技術面での部局と、国際機関等ドナーとの企画・窓口機能を担う部局との、密な連携・協力体制の構築が望まれよう。

● PCN を通じた資金提供候補先との対話促進

AI-CD 活動が開始された段階では、各国 FP が自らの課題解決のために、プロジェクト素案若しくはそれに類する企画文書を抱えていると想定していたが、初年度業務を実施中にアフリカの角地域も、サヘル地域も持ち合わせていないことが確認できた。そのため、AI-CD 支援事務局として世銀事例に倣い、PCN の作成を提言した。まずはアフリカの角地域からはじめ、次いでサヘル地域でも各 FP に要請し PCN を作成した。結果として対象 15 か国全ての FP より PCN は揃ったが、内容の深度にはばらつきがあり、原案のままでは国際機関等に持ち込むのは難しいとの判断から、支援事務局で各 FP とも対話をしながら一応の質をもった PCN に改訂するのに 1 年間以上の期間を要した。用意された PCN は未完の段階から徐々に国際機関等に配布し、機会をみつけては、支援事務局も参加しつつ個別の提案・相談・協議へと持ち込むことができた。内容としては、各機関からそれなりの評価を受けたと理解する。今後には標準化した PCN と各国の関連諸政策とをセットにし、より理解を得やすくする手法の開発が期待される。

(4) その他

● JICA 在外事務所との連携

本件業務は対象国が 15 カ国に及んでおり、各国との調整を効率的に図りながら活動を実施する必要があった。新型コロナウイルスの世界的蔓延に伴い、各活動イベントを遠隔実施しなければならなかったが、オンラインツールの活用により場所や時差を問わずにコミュニケーションを図ることが可能となった。その一方で、国内ワークショップや地域セミナーなどのイベントの遠隔実施では、現地の新型コロナウイルスの感染状況を考慮したイベント開催方法の検討、適切な会場手配、通信状況の事前確認、参加者に対する通信費用の支払いなど、運営面の作業が極めて煩雑なものとなった。コロナ禍における円滑な業務実施に向けて、JICA 在外事務所との連携・協力体制強化を図るべく JICA 本部によりオンラインでの調整会合が開催された結果、AI-CD 支援事務局の現地渡航が許可されない期間中、各国 JICA 在外事務所から運営面での様々な協力が得られ、各イベントを開催することができた。

添付資料

添付資料 1：業務従事者の従事計画/実績表

添付資料 2：会合・サイドイベント関連文書一式（英文・仏文）

添付資料 3：知識共有関連文書一式

添付資料 4：国内ワークショップ開催支援関連文書一式（英文・仏文）

添付資料 5：日本の自然環境分野支援案件シート一式

添付資料 1：業務従事者の従事計画/実績表

添付資料 2 : 会合・サイドイベント関連文書一式 (英文・仏文)

- 2-1 : 第 4 回アフリカの角地域会合プログラム
- 2-2 : 第 4 回アフリカの角地域会合報告書
- 2-3 : 第 4 回サヘル地域会合プログラム
- 2-4 : 第 4 回サヘル地域会合報告書
- 2-5 : 第 5 回アフリカの角地域会合プログラム
- 2-6 : 第 5 回アフリカの角地域会合報告書
- 2-7 : 第 5 回サヘル地域会合プログラム
- 2-8 : 第 5 回サヘル地域会合報告書
- 2-9 : UNCCD COP15 サイドイベントプログラム
- 2-10 : UNCCD COP15 サイドイベント報告書
- 2-11 : UNCCD COP15 フォローアップ会合プログラム
- 2-12 : UNCCD COP15 フォローアップ会合報告書
- 2-13 : TICAD 8 プログラム
- 2-14 : TICAD 8 報告書



Programme

4th AI-CD Regional Forum for HoA

Wednesday, 9th December 2020

Time (EAT)	Activities/Facilitator
Session I: Opening <i>[Chair: KEFRI]</i>	
9.00-9.20	- Introduction of participants (All participants) - Forum objectives and programme overview (KEFRI)
9.20-9.30	- Welcome remarks by Kenya Focal Point, Director MEAs
9.30-9.40	- Address by Chief Representative, JICA Kenya Office
9.40-9.55	- Opening Speech by Principal Secretary, Ministry of Environment and Forestry, Kenya
9.55-10.00	- Group photo (screen shot)
Session II: Progress of AI-CD activities by member countries and AI-CD Secretariat <i>[Chair: Kenya Focal Point; Rapporteurs: TBD]</i>	
10.00-10.55	(10 min per presentation) ✓ AI-CD Secretariat ✓ Member countries: Djibouti, Eritrea, Ethiopia Q&A (15 minutes)
10.55-12.00	✓ Member countries: Senegal (Sahel Hub), Kenya, Somalia, South Sudan, Sudan, Nigeria Q&A (15 minutes)
12.00-13.00	Lunch Break
Session III: Strategy of International Technical & Financial Partners (ITFPs) relevant to AI-CD agenda and progress by AI-CD Partners <i>[Chair: Director KEFRI; Rapporteurs: TBD]</i>	
13.00-13:30	-Presentation from ITFPs
13.30-14.00	Mr. Enos Esikuri, Senior Environmental Specialist, World Bank
14.00-14.30	- Presentation from AI-CD Partners Dr. Moctar Sacande, International Project Coordinator, FAO Ms. Victoria Clarke, Knowledge Management Research Fellow, ICARDA Mr. Boubacar Cisse, Coordinator, UNCCD Regional Liaison Office for Africa, External Relations, Policy and Advocacy Unit, UNCCD - Contributions from other development partners, Q&A

<i>Session IV: Closing</i> <i>[Chair: AI-CD(Mr. Yasuo Izumi); Rapporteurs: TBD]</i>	
14.30-14.40	- Synthesis and way forward (AI-CD Secretariat/KEFRI)
14.40-14.50	- Closing remarks (JICA Headquarters)
14.50-15.00	- Closing remarks (Director KEFRI)



AI-CD

African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to
Climate Change in the Sahel and the Horn of Africa

[English](#) / [Français](#)

ABOUT US

EVENT

GOOD PRACTICES

WORLDWIDE PROJECTS

VOICES FROM THE FIELD

JAPAN'S COOPERATIONS

KNOWLEDGE CENTRE

KNOWLEDGE SHARED BY INTERNATIONAL RESEARCH INSTITUTES

TECHNICAL MATERIALS DEVELOPED BY JAPAN

ACCESS TO FUNDING

BASIC TIPS FOR FUNDING

USEFUL LINKS

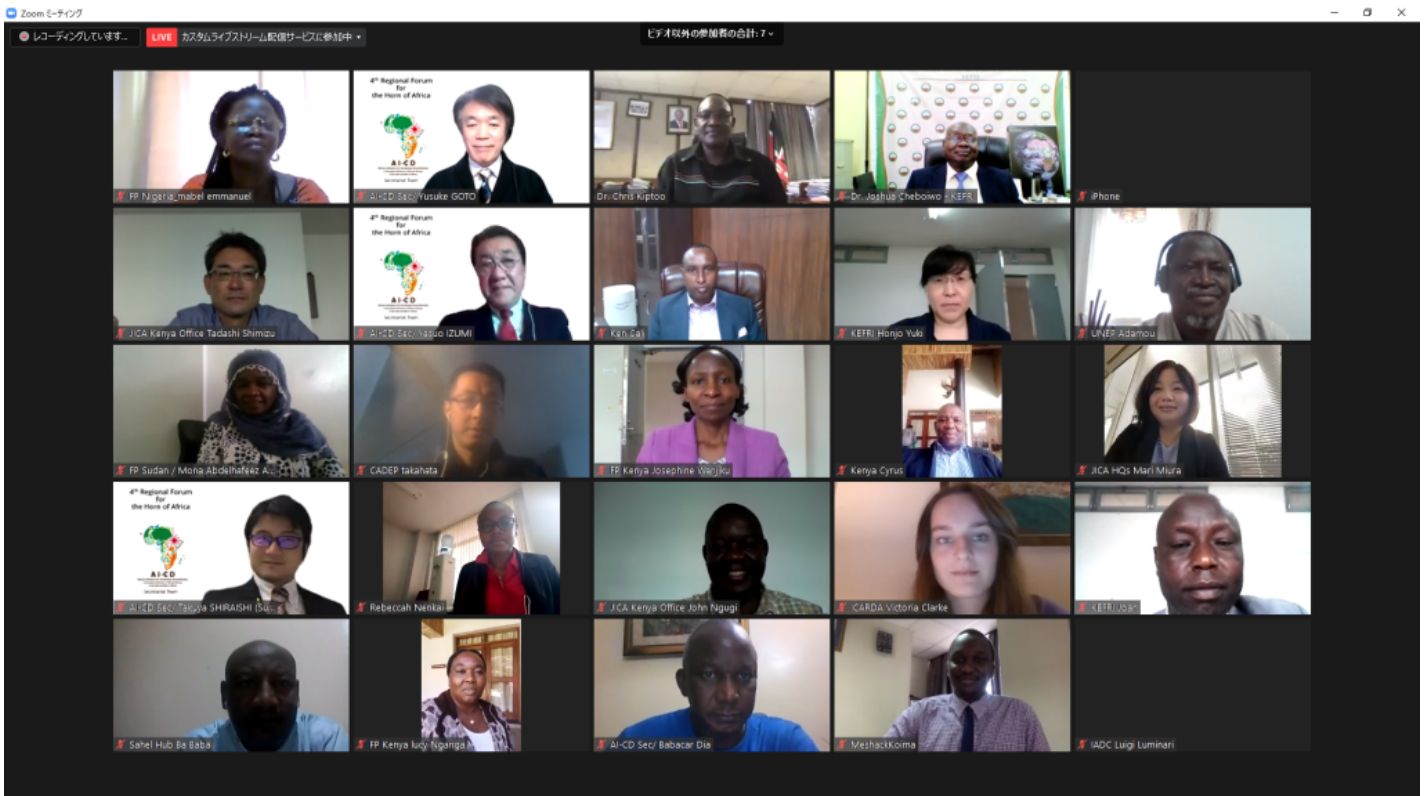
KEY PRODUCTS

AI-CD's 4th Regional Forum for Horn of Africa -Strong will of the member countries to continue their initiatives to promote AI-CD relevant activities-

25th December 2020

AI-CD Secretariat Support Team

Overview



Under the COVID-19 pandemic, all the activities for the African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to Climate Change in the Sahel and Horn of Africa (AI-CD) have been implemented online. To share the progress and discuss the way forward, the **fourth Horn of Africa (HoA) Regional Forum on AI-CD** was held virtually on December 9th, 2020, chaired by Kenya as the regional Hub. The Forum welcomed around 45 participants that were composed of the Focal Points (FPs) of Kenya, Somalia, Sudan, South Sudan, Nigeria and Eritrea ; International Technical and Financial Partners (ITFPs) including UNCCD, FAO, ICARDA, UNEP, UNDP, and World Bank; Regional Hub of the Sahel (Senegal FP); representatives from the Ministry of Environment and Forestry of Kenya, Kenya Forestry Research Institute (KEFRI) and JICA; and the AI-CD Secretariat.

One of the highlights of the Forum is that **member countries expressed their strong will to continue their initiatives to promote AI-CD relevant activities**, such as realization of project ideas through access to finance and knowledge sharing activities with support from the hub country, AI-CD Secretariat and ITFPs.

1 The Focal Point of Eritrea attended through YouTube Live Streaming.

HIGHLIGHTS OF THE FORUM

At the opening session, the **Director of Kenya Forestry Research Institute (KEFRI)**, Dr. Joshua Cheboiwo, welcomed the participants and shared the programme of the Forum.



Dr. Joshua Cheboiwo, Director of KEFRI

Following a brief introduction to the Forum's objectives which are providing opportunities for Networking and Knowledge Sharing to enhance Access to Finance by the AI-CD Secretariat, the **Focal Point of Kenya**, Mr. Cyrus Mageria, expressed his warm welcome to the participants, introduced a brief history of AI-CD, and concluded by underlining the necessity to work together, develop a network and share our knowledge to tackle the issues in the HoA region which are deforestation, loss of sufficient food and drought, through the management of natural resources.

The **Senior Representative of JICA Kenya Office**, Mr. Tomoyuki Yasuda, mentioned that four years ago when AI-CD was launched, deforestation was identified as one of the biggest challenges, and half of the African continent was affected by the phenomenon which justifies combatting desertification and using the terrestrial ecosystems sustainably. He took stock of what has been done for each



Mr. Tomoyuki Yasuda, Senior Representative of JICA
Kenya Office

of AI-CD's three pillars and concluded his speech by pointing out his hope to see the objectives assigned to combating desertification be achieved in the Sahel and Horn of Africa.



Dr. Chris Kiptoo, Principal Secretary of the Ministry of
Environment and Forestry of Kenya

The **Principal Secretary of the Ministry of Environment and Forestry**, Dr. Chris Kiptoo, welcomed everyone and reminded them of how challenging it is for natural resource managers to discuss how to combat desertification and mitigate climate change effects. In this regard, there is a great commitment of African countries because of the population being larger, the fact that Africa

is the most affected continent by desertification, the large use of wood, and inadequate information and knowledge. He continued that to face this situation we need to develop projects, and that is why he placed a big hope on the outcomes of the Forum. Concerning Kenya, he shared with the audience that its NDC (National Determined Contribution) has been updated and is a reference for the next 10 years. To carry out significant actions in accordance with this NDC, the support of JICA and other ITFPs is needed, concluded the Principal Secretary.

(1) Progress of AI-CD activities by member countries and AI-CD Secretariat

✓ **AI-CD Secretariat** explained the progress and way forward of AI-CD in relation to its three pillars: Networking, Knowledge Sharing and Access to Finance.

✓ On behalf of the Focal Point of Kenya, **Chief Research Scientist of KEFRI**, Dr. Michael Mukolwe mentioned, as their achievements, three Regional forums, two Regional Technical Training workshops for Building Network, the use of Internet and non-Internet based methods for Knowledge sharing, and a Project Concept Note (PCN) whose title is « Institutional Capacity Building on Forestry research Information » elaborated as part of the Access to Finance pillar.

✓ **The Focal Point of Somalia** focused his presentation on « Combating Desertification in Somalia ». He showed the impact of the charcoal production and how it expanded from the year 2000 onwards, the objectives of the programme elaborated to address the problem and finally presented the related PCN.



Mr. Kenadid Mumin Cali, Focal Point of Somalia

✓ **The Focal Point of South Sudan** presented a project titled « Integrated farming to combat desertification in peri-urban areas in South Sudan » whose overall objective is to build the resilience of smallholder farmers in peri-urban areas to cope with the effects of droughts and desertification.



Dr. George Louise T. Tadu (right), Focal Point of South Sudan



Dr. Mona Abdelhafeez Ahmed Dawelbait, Focal Point of Sudan

✓ **The acting Focal Point of Sudan** focused on the New Governmental setup for the Desertification Institution and the Relative items in the updated SNAP (Sudan Action Program for Combating Desertification), which explained the quintessence based on the Sustainable Development Goal 15 of the Agenda 2030, Paragraph 33 of the 2030 Agenda for Sustainable Development, and

Paragraph 205 of the Future We Want. The SNAP has 4 components, aims to increase food production, decrease the out-migration of youth, and create employment opportunities, for the benefit of local communities.



Ms. Mabel O. Emmanuel, Focal Point of Nigeria

✓ **The Focal Point of Nigeria** emphasized how the political will is important for achieving the AI-CD main objective. She went through their achievements in each AI-CD pillar and finished her intervention by introducing to the overview of Desertification in Nigeria and the six actions that the Government is carrying out to strengthen rural communities.

✓ **The acting Focal Point of Senegal**, as the representative of the Sahel Hub, expressed his pleasure to participate in the Forum, thanked HoA colleagues for inviting the Sahel Hub and JICA for their constant and multiform support. He finished his speech by drawing attention to the necessity to accelerate AI-CD activities in the Sahel Region while we are heading the end of the AI-CD time frame. To face that situation, he proposed a review mission to see how to make progress.

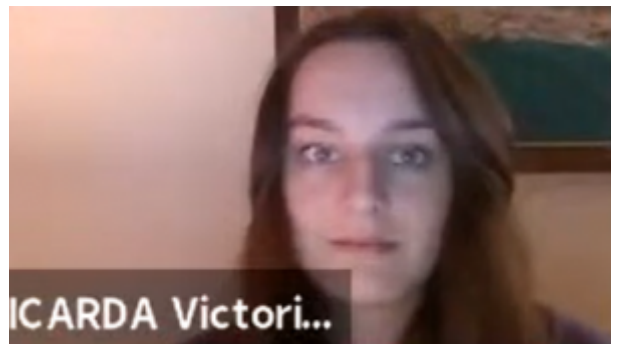
(2) Questions and answers

✓ UNEP Representative explained that his institution is supporting 193 countries in NAPs (National Action Plans) development and is collaborating with the Great Green Wall and CILSS/Agrhymet.

(3) Strategy of ITFPs relevant to AI-CD Agenda and progress by AI-CD partners

✓ The representative from the **World Bank** (WB) explained that their focus for the HoA region was on « Combating Drought and Desertification to Enhance Resilience ». After stating that HoA is one of the world's most challenging regions for security and development, the presenter discussed the climate context, the climate risks and land degradation threatening development gains, elements of good practices (i.e., Case studies in Kenya and Ethiopia). He added that 70% of WB's activities toward Combating Desertification and Drought are in rural development and 55 out of 100 projects are in Africa.

✓ The presentation of **ICARDA's** Representative was on « Databases and Knowledge Sharing ». She pointed out that the partnerships between AI-CD and ICARDA are for knowledge sharing to enhance development effectiveness and explained the Goal, Purpose, and Audience of the Databases, Documentation Process, technology or approach as well as the forms of Knowledge Sharing.



Ms. Victoria Clarke, ICARDA

✓ **FAO** representative delivered his presentation on FAO's contribution to expanding Africa's Great Green Wall (GGW) in terms of Biophysical Data collection and Management. He informed that the restorable land in the GGW Sahel is 161.7 million hectares, 6.3% is the average net tree cover increase in the GGW area.

✓ **UNCCD's** presentation was focused on « Knowledge and experiences related desertification, climate change and land degradation in Sub-Saharan Africa ». The presenter discussed the occurrence and impact of DLDD (Desertification, Land Degradation and Drought) in Africa, the African actors, and stakeholders on combating DLDD and the Chronology of the implementation in Africa.



Mr. Boubacar Cisse, UNCCD

✓ **UNDP** representative talked about their large-scale capacity building project to be launched. He also suggested that the AI-CD approach could be strengthened within its facilitating role by assisting member countries to integrate their project ideas/concepts into

large programmes to enhance Access to Finance.



Mr. Elie Kodsi, UNDP

✓ **UNEP** works on GEF to implement indicators supporting LDN (Land Degradation Neutrality), aims to train Focal Points at the regional level and supports the GGW Initiative.

(4) Synthesis and Way Forward

✓ Facilitated by **KEFRI** and **AI-CD Secretariat**, the participants confirmed the way forward of each actor in accordance with AI-CD’s three pillars. Above all, member countries confirmed to continue their initiatives to promote AI-CD relevant activities, such as realization of project ideas through access to finance and activities for knowledge sharing with support from the hub country, AI-CD Secretariat and ITFPs, and share its progress at the next/final forum in 2021.

Closing remarks by KEFRI and JICA brought the Forum to a close.



Contact the Secretariat Tel: +81-3-4521-0142 Email: info@aicd-africa.org

Views or opinions expressed in this website do not necessarily reflect the official policy or position of the AI-CD.

Copyright AI-CD All Rights Reserved.



AI-CD

Initiative africaine pour lutter contre la désertification en vue de renforcer la résilience face au changement climatique dans le Sahel et la Corne de l'Afrique

[English](#) / [Français](#)

QUI SOMMES-NOUS?

ÉVÉNEMENTS

BONNES PRACTIQUES

PROJETS MONDIAUX

VOIX DU TERRAIN

COOPÉRATIONS JAPONAISES

CENTRE DE CONNAISSANCE

CONNAISSANCES PARTAGÉES PAR LES INSTITUTS DE RECHERCHE INTERNATIONAUX

MATÉRIAUX TECHNIQUES DÉVELOPPÉS PAR LE JAPON

ACCÈS AU FINANCEMENT

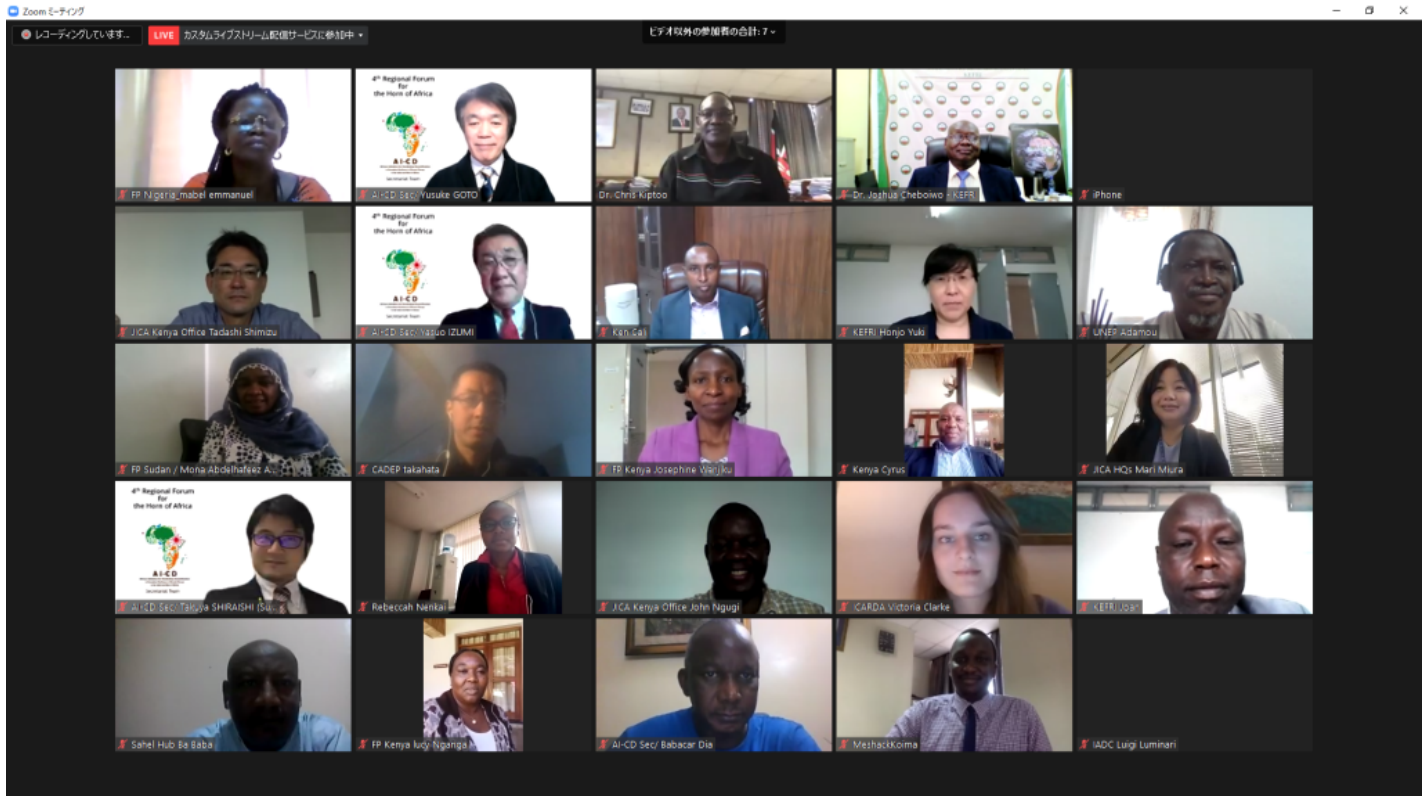
CONSEILS DE BASE POUR LE FINANCEMENT

LIENS UTILES

PRODUITS CLÉS

Quatrième Forum Régional pour la Corne de l'Afrique sur l'AI-CD – Ferme volonté des pays membres de poursuivre leurs initiatives pour promouvoir les activités liées à l'AI-CD –

VUE D'ENSEMBLE



Dans le contexte de la pandémie de COVID-19, toutes les activités de l'Initiative africaine pour lutter contre la désertification en vue de renforcer la résilience face au changement climatique dans le Sahel et la Corne de l'Afrique (AI-CD) ont été réalisées en ligne. Pour partager les progrès réalisés et discuter de la voie à suivre, le **quatrième Forum régional de la Corne de l'Afrique sur l'AI-CD** a été tenu de manière virtuelle le 9 décembre 2020, et présidé par le Kenya en tant que Centre régional. Le Forum a accueilli environ 45 participants, à savoir : les points focaux (PF, ou agents de liaison) du Kenya, de la Somalie, du Soudan, du Soudan du Sud, du Nigeria et de l'Érythrée ; des partenaires techniques et financiers internationaux (PTFI), dont la CNULCD, la FAO, l'ICARDA, le PNUE, le PNUD et la Banque mondiale ; le Centre régional du Sahel (PF du Sénégal) ; des représentants du ministère de l'Environnement et des Forêts du Kenya, du Kenya Forestry Research Institute (KEFRI) et de la JICA ; et le Secrétariat de l'AI-CD.

L'un des points marquants du Forum est que **les pays membres ont exprimé leur ferme volonté de poursuivre leurs initiatives pour promouvoir les activités liées à l'AI-CD**, telles que la réalisation d'idées de projets par l'accès au financement et les activités de

partage des connaissances avec le soutien du Centre régional, du secrétariat de l'AI-CD et des PTFI.

¹ Le point focal de l'Érythrée a assisté au Forum via YouTube Live Streaming.

POINTS MARQUANTS DU FORUM

À la séance d'ouverture, le Dr. Joshua Cheboiwo, **Directeur du Kenya Forestry Research Institute (KEFRI)**, a souhaité la bienvenue aux participants et partagé avec eux le programme du Forum.



Dr. Joshua Cheboiwo, Directeur du KEFRI

À la suite d'une brève présentation des objectifs du Forum – fournir des opportunités pour le réseautage et le partage d'information pour améliorer l'accès au financement – par le Secrétariat de l'AI-CD, M. Cyrus Mageria, **point focal du Kenya**, a souhaité chaleureusement la bienvenue aux participants, présenté un bref historique de l'AI-CD, et conclu sur la nécessité de travailler ensemble, de développer un réseau et de partager nos connaissances pour s'attaquer aux problèmes de la région de la Corne de l'Afrique, qui sont la déforestation, l'insuffisance de nourriture et la sécheresse, par la gestion des ressources naturelles.

M. Tomoyuki Yasuda, **haut représentant du Bureau de la JICA au Kenya**, a mentionné que lors du lancement de l'AI-CD, quatre ans plus tôt, la déforestation a été identifiée comme l'un des plus grands défis, et que la moitié du continent africain étant affectée par ce phénomène, cela justifiait la lutte contre la désertification et l'exploitation durable des écosystèmes terrestres. Il a également fait le



M. Tomoyuki Yasuda, haut représentant du Bureau de la JICA au Kenya

point sur ce qui a été fait pour chacun des trois piliers de l'AI-CD, et a conclu son allocution en soulignant son espoir de voir les objectifs de la lutte contre la désertification atteints dans le Sahel et dans la Corne de l'Afrique.



Dr. Chris Kiptoo, secrétaire principal du ministère de l'Environnement et des Forêts du Kenya

Le Dr. Chris Kiptoo, **secrétaire principal du ministère de l'Environnement et des Forêts**, a souhaité la bienvenue à tous et leur a rappelé à quel point il est difficile pour les gestionnaires des ressources naturelles de discuter des moyens de lutter contre la désertification et d'atténuer les effets du changement climatique. À cet égard, il y a un grand engagement de la part des pays

africains, en raison de leur plus grande population, du fait que l'Afrique est le continent le plus affecté par la désertification, de la grande utilisation du bois, et de l'insuffisance d'information et de connaissances. Il a poursuivi en disant que nous devons développer des projets pour faire face à cette situation, et que c'est pour cette raison qu'il avait de grandes attentes envers les résultats du Forum. Au sujet du Kenya, il a annoncé à l'auditoire que ses NDC (contributions prévues déterminées au niveau national) ont été mises à jour et serviront de référence pour les 10 prochaines années. Le secrétaire principal a conclu que le soutien de la JICA et des autres PTFI est nécessaire à la prise d'actions significatives conformes à ces NDC.

(1) État d'avancement des activités d'AI-CD par les pays membres et le Secrétariat de l'AI-CD

✓ **Le Secrétariat de l'AI-CD** a expliqué les progrès réalisés et la voie à suivre par l'AI-CD par rapport à ses trois piliers : Réseautage, Partage des connaissances et Accès au financement.

✓ Au nom du point focal du Kenya, le Dr. Michael Mukolwe, **chercheur en chef du KEFRI**, a mentionné comme réalisations du KEFRI trois forums régionaux, deux ateliers régionaux de formation technique pour la création de réseau, l'utilisation de méthodes basées ou non sur Internet pour le partage des connaissances, et une Note conceptuelle de projet intitulée « Renforcement des capacités institutionnelles en matière d'information sur la recherche forestière » et élaborée en tant que composante du pilier Accès au financement.

✓ **Le point focal de la Somalie** a axé sa présentation sur la « Lutte contre la désertification en Somalie ». Il a présenté l'impact de la production de charbon, sa croissance depuis l'an 2000 et les objectifs du programme élaboré pour régler ce problème, puis, pour terminer, il a présenté la Note conceptuelle de projet à ce sujet.



M. Kenadid Mumin Cali, point focal de la Somalie

✓ **Le point focal du Soudan du Sud** a présenté un projet intitulé « L'agriculture intégrée pour lutter contre la désertification dans les zones périurbaines du Soudan du Sud » dont l'objectif global consiste à renforcer la résilience des petits exploitants agricoles des zones périurbaines pour faire face aux effets des sécheresses et de la désertification.



Dr. George Louise T. Tadu (à droite), point focal du Soudan du Sud



Dr. Mona Abdelhafeez Ahmed Dawelbait, point focal du Soudan

✓ **Le point focal intérimaire du Soudan** a mis l'accent sur le dispositif gouvernemental pour l'institution de la lutte contre la désertification et sur les points s'y rapportant dans le SNAP (Programme d'action du Soudan pour lutter contre la désertification) mis à jour, essentiellement sur la base de l'Objectif de développement durable 15 de l'Agenda 2030, du paragraphe 33 de l'Agenda 2030 pour le développement durable et du paragraphe 205 de « L'Avenir que nous voulons ». Le SNAP a quatre composantes : viser la hausse de la production alimentaire, réduire l'émigration des jeunes, créer des opportunités d'emploi et bénéficier aux communautés locales.



Mme Mabel O. Emmanuel, point focal du Nigeria

✓ **Le point focal du Nigeria** a mis l'accent sur l'importance de la volonté politique pour atteindre l'objectif principal de l'AI-CD. Elle a passé en revue leurs réalisations dans chaque pilier de l'AI-CD et a terminé son intervention en présentant une vue d'ensemble de la désertification au Nigeria et les six actions que le gouvernement mène pour renforcer les communautés rurales.

✓ **Le point focal intérimaire du Sénégal**, en tant que représentant du Centre régional du Sahel, a exprimé sa joie de participer au Forum, remercié ses collègues de la Corne de l’Afrique d’avoir invité le Centre régional du Sahel, et remercié la JICA pour ses efforts constants et multiformes. Il a terminé son allocution en attirant l’attention sur la nécessité d’accélérer les activités AI-CD dans la Région du Sahel alors que nous approchons de la fin du calendrier de l’AI-CD. Pour faire face à cette situation, il a proposé une mission d’examen pour voir comment nous pourrions progresser.

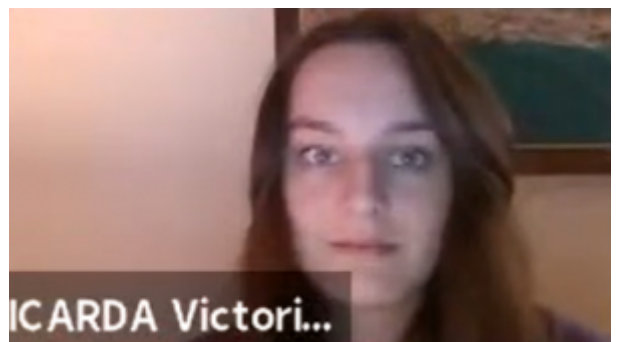
(2) Période de questions

✓ Le représentant du PNUE a expliqué que son institution soutient 193 pays dans le développement de leurs Plans d’action nationaux, et qu’elle collabore avec la Grande Muraille Verte et CILSS/Agrhymet.

(3) Stratégie des PTFI en rapport avec l’Agenda AI-CD, et progrès réalisés par les partenaires AI-CD

✓ Le représentant de la **Banque mondiale** a expliqué que sa priorité pour la région de la Corne de l’Afrique était de « combattre la sécheresse et la désertification pour renforcer la résilience ». Après avoir déclaré que la région de la Corne de l’Afrique est l’une des plus difficiles au monde en matière de sécurité et de développement, le présentateur a parlé du contexte climatique, des risques climatiques et de la dégradation des terres qui menacent les gains de développement, et d’éléments de bonnes pratiques (à savoir, des études de cas au Kenya et en Éthiopie). Il a ajouté que 70 % des activités de la Banque mondiale pour lutter contre la désertification et la sécheresse se déroulent dans le développement rural, et que 55 projets sur 100 sont réalisés en Afrique.

✓ La présentation de la représentante de l’ICARDA était sur le thème « des bases de données et du partage des connaissances ». Elle a souligné que les partenariats entre AI-CD et ICARDA visent au partage des connaissances pour améliorer l’efficacité du développement, et a expliqué le but, les objectifs et le public cible des bases de



Mme Victoria Clarke, ICARDA

données, le processus de documentation, la technologie ou l'approche, ainsi que les formes de partage des connaissances.

✓ Le représentant de la **FAO** a fait sa présentation sur la contribution de la FAO à l'expansion de la Grande Muraille Verte (GMV) de l'Afrique en termes de collecte et gestion des données biophysiques. Il a expliqué que les terres récupérables dans le Sahel de la GMV couvrent 161,7 millions d'hectares, soit 6,3 % de l'augmentation nette moyenne de la couverture forestière dans la zone de la GMV.

✓ La présentation de la **CNULCD** était axée sur « les connaissances et expériences liées à la désertification, le changement climatique et la dégradation des terres en Afrique subsaharienne ». Le présentateur a abordé les thèmes de l'occurrence et de l'impact de la DDTS (désertification, dégradation des terres et sécheresse) en Afrique, des acteurs africains et des parties prenantes dans la lutte contre la DDTS, et la chronologie de sa mise en œuvre en Afrique.



M. Boubacar Cisse, CNULCD

✓ Le représentant du **PNUD** a parlé du projet de renforcement des capacités à grande échelle qui va être lancé. Il a également suggéré que l'approche AI-CD pourrait être renforcée dans son rôle de facilitation en aidant les pays membres à intégrer leurs idées/concepts de projets dans de grands programmes visant à améliorer l'accès au financement.



M. Elie Kodsi, PNUD

✓ Le **PNUE** travaille sur le FEM (fonds pour l'environnement mondial) pour mettre en place des indicateurs soutenant la NDT (neutralité en matière de dégradation des terres), cherche à former des points focaux au niveau régional, et soutient l'initiative GMV.

(4) Synthèse et voie à suivre

✓ Guidés par le KEFRI et le Secrétariat de l'AI-CD, les participants ont confirmé la voie à suivre pour chaque acteur conformément aux trois piliers de l'AI-CD. Avant tout, les pays

membres ont confirmé qu'ils poursuivraient leurs initiatives pour promouvoir les activités liées à l'AI-CD, telles que la réalisation d'idées de projets par l'accès au financement et les activités de partage des connaissances avec le soutien du Centre régional, du secrétariat de l'AI-CD et des PTFI, et qu'ils feraient part des progrès réalisés lors du prochain et dernier forum en 2021.

Le Forum s'est terminé sur les remarques de clôture du KEFRI et de la JICA.



Contact du secrétariat Tél. +81-3-4521-0142 E-mail. info@aicd-africa.org

Les opinions ou les points de vue exprimés dans ce site web ne reflètent pas nécessairement la politique ou position officielle du AI-CD.
Copyright AI-CD Tous droits réservés.



**AFRICAN INITIATIVE FOR COMBATING DESERTIFICATION TO STRENGTHEN RESILIENCE
TO CLIMATE CHANGE IN THE SAHEL AND THE HORN OF AFRICA
(AI-CD)**

**THE 4th REGIONAL FORUM FOR THE SAHEL
27th January 2021, 9:00-15:00 (GMT)
Online**

Outline of the AI-CD 4th Regional Forum for the Sahel

- **Objective** - To discuss opportunities presented by Networking and Knowledge Sharing in enhancing Access to Finance for the objective of AI-CD
- **Date** - 27th January 2021, 9:00-15:00 (GMT)
- **Mode of implementation** – Online (ZOOM)
- **Duration** - One day (maximum 6 hours)
- **Expected Participants**

Focal Points of AI-CD member countries

Burkina Faso, Cameroon, Chad, Mali, Mauritania, Niger, Nigeria, Senegal (Sahel)*, Djibouti and Kenya* (HoA) * Regional Hub countries

AI-CD Partners

JICA*, UNCCD*, CILSS, ICARDA, FAO, GEF, etc. * AI-CD Co-organizers

International Technical & Financial Partners

AfDB, WB, UNDP, UNEP, AU, etc.

Sahel Regional Hub (Government of Senegal)

AI-CD Secretariat

- **Language** - French
French-English simultaneous interpretation will be arranged.
- **Content**
The focus of this forum is put on “Networking and Knowledge Sharing, which contribute to enhance Access to Finance”. In this regard, the Focal Points (FPs) of member countries are encouraged to share the progress of AI-CD activities as well as the way forward towards the end of AI-CD in 2022. International Technical and Financial Partners (ITFPs) are expected to present information and opportunity that are useful to enhance Access to Finance in AI-CD member countries.

[Expected Roles]

- | | |
|-------|--|
| FPs | <ul style="list-style-type: none"> • To share progress of AI-CD activities for 3 pillars including, but not limited to, Project Concept Note (PCN) introduction, progress, status of consultation/dialogue with ITFPs for access to finance, and the way forward including long term plans (e.g. development of a national flagship LDN project by 2025) and short term actions under the AI-CD framework by 2022 (e.g. application for at least one fund, provision of materials for promoting knowledge sharing and other AI-CD activities, etc.) |
| ITFPs | <ul style="list-style-type: none"> • To provide comments on the activities of AI-CD member countries to be presented by FPs • To introduce recent strategy or program/projects related to desertification, climate change and land degradation in Sub-Saharan Africa that may be <u>useful for AI-CD member countries</u> |



- Secretariat
- To share progress of AI-CD activities in the Sahel region and cross-regionally
 - To share way forward for knowledge sharing

Programme

Time (GMT)	Activities
Session I: Opening [Chair: MEDD, Senegal (Mr. Baidy BA)]	
9.00 – 9.10	Welcome remarks and appreciation for accepting the invitation (Mr. Baidy BA, MEDD Senegal)
9.10 – 9.20	Forum objectives and programme overview (Mr. Baba BA, MEDD Senegal)
9.20 – 9.35	Opening Speech from Senegal (A high rank official of MEDD)
9:35 – 9.45	JICA Senegal Office Representative Address (Mr. Koichi KATO, Senior Deputy Resident Representative, JICA Senegal)
9:45 – 9.50	Group Photo (screen shot)
Session II: Progress of AI-CD activities by member countries and AI-CD Secretariat and technical feedback from AI-CD Partners [Chair: MEDD, Senegal (Mr. Baba BA)]	
9.50 –12.05	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Member countries: Burkina Faso, Cameroon, Chad, Mali, Mauritania, Niger, Nigeria, Senegal, Djibouti (10 min each) ✓ Horn of Africa Regional Hub, Kenya (5 minutes) ✓ AI-CD Secretariat (15 min) Discussion (Open to all participants) (30 min)
12.05-13.05	Lunch Break
Session III: Strategy of International Technical & Financial Partners (ITFPs) relevant to AI-CD agenda and progress by AI-CD Partners [Chair: MEDD Senegal(Mr. Baidy BA)]	
13.05-13.15	-Presentation from CILSS (AI-CD Partner) (10 min) Dr. Hubert N'DJAJA OUAGA, CILSS
13.15-13.45	-Presentation from ITFPs and Regional Partner (10 min each) Dr. Elvis Paul Nfor Tangem Coordinator Great Green Wall For the Sahara and Sahel Initiative, AU Mr. Arona SOUMARE Principal Climate Change and Green Growth Officer, AfDB Ms. Elly Baroudy, Lead Natural Resources Specialist, World Bank
13.45-14.05	-Presentation from AI-CD Partners (10 min each) Ms. Nora Berrahmouni, Senior Forestry Officer, FAO Regional Office for Africa Dr. Claudio Zucca, former member of ICARDA (Researcher of Università degli Studi di Sassari in Italy at present)
14.05-14:20	Contributions from other development partners, Q&A
14:20-14:40	Comments from FPs
Session IV: Closing [Chair: AI-CD Secretariat (Mr. Yasuo IZUMI)]	
14.40 – 14.50	Synthesis and way forward (Sahel Hub/AI-CD Secretariat)
14.50 – 14.55	Closing remarks (Mr. Takahiro Ikenoue Director Natural Environment Team 2 Forestry and Nature Conservation Group Global Environment Department, JICA)
14.55 – 15.00	Closing announcement (MEDD Senegal)





L'INITIATIVE AFRICAINE POUR LUTTER CONTRE LA DÉSSERTIFICATION EN VUE DE RENFORCER LA RÉSILIENCE FACE AU CHANGEMENT CLIMATIQUE DANS LE SAHEL ET LA CORNE DE L'AFRIQUE (AI-CD)

LE QUATRIÈME FORUM RÉGIONAL POUR LE SAHEL le 27 janvier 2021, de 9h00 à 15h00 (GMT) Visioconférence

Grandes lignes du quatrième forum régional AI-CD pour le Sahel

- **Objectif** : discuter des possibilités offertes par le réseautage et le partage des connaissances dans l'amélioration de l'accès au financement pour l'atteinte des objectifs de l'AI-CD
- **Date** : le 27 janvier 2021, de 9h00 à 15h00 (GMT)
- **Mode de mise en œuvre** : Visioconférence (ZOOM)
- **Durée** : une (1) journée (maximum 6 heures)
- **Participants attendus**

Les points focaux des pays membres de l'AI-CD

Burkina Faso, Cameroun, Tchad, Mali, Mauritanie, Niger, Nigéria, Sénégal (Sahel)*, Djibouti et Kenya* (Corne de l'Afrique) * Pays jouant le rôle de Hub

Partenaires de l'AI-CD

JICA*, CNULCD*, CILSS, ICARDA, FAO, FEM, etc. * Co-organiseurs de l'AI-CD

Partenaires techniques et financiers internationaux

BAD, BM, PNUD, PNUF, UA, etc.

Centre régional du Sahel (Hub) (gouvernement sénégalais)

Secrétariat de l'AI-CD

- **Langue** : français
Un service d'interprétation simultanée français-anglais sera organisé
- **Ordre du jour**
Ce forum mettra l'accent sur le « réseautage et le partage d'information, qui devraient contribuer à l'amélioration de l'accès au financement ». A cet égard, les points focaux (PF) des pays membres sont encouragés à partager les progrès dans le cadre des activités de l'AI-CD, ainsi que la voie à suivre en vue de l'achèvement de l'AI-CD en 2022. Les partenaires techniques et financiers internationaux (PTFI) devront donner des informations et des possibilités d'amélioration de l'accès au financement dans les pays membres de l'AI-CD.

[Rôles que doivent jouer les différentes parties]

- | | |
|------|---|
| PF | <ul style="list-style-type: none"> • Partager les progrès réalisés dans le cadre des activités de l'AI-CD pour trois piliers, y compris sans pour autant s'y limiter la présentation d'une Note conceptuelle de Projet (NCP), l'état d'avancement de la consultation/du dialogue avec les PTFI pour l'accès au financement, et la voie à suivre y compris des plans à long terme (par ex. développement d'un projet phare au niveau national sur la DTN d'ici 2025) et des actions à court terme dans le cadre de l'AI-CD d'ici 2022 (par ex. soumission à au moins un fonds, fourniture d'éléments pour la promotion du partage de connaissances et autres activités de l'AI-CD, etc.) . |
| PTFI | <ul style="list-style-type: none"> • Faire des commentaires sur les activités des pays membres de l'AI-CD qui devront être présentées par les PF. |



- Présenter la stratégie récente ou les programmes et projets liés à la désertification, au changement climatique et à la dégradation des terres en Afrique subsaharienne, qui pourraient être utiles aux pays membres de l'AI-CD.
- Secrétariat
- Partager les progrès réalisés dans le cadre des activités de l'AI-CD dans la région du Sahel et entre les régions.
 - Partager la voie à suivre pour le partage de connaissances.

Programme

Heure (GMT)	Activités
Première session : Ouverture	
[Président de séance: MEDD, Senegal (M. Baidy BA)]	
9h00-9h10	Mot de bienvenue et de remerciements pour avoir accepté d'honorer notre invitation (M. Baidy BA, MEDD Senegal)
9h10-9h20	Présentation des objectifs du forum et du programme (M. Baba BA, MEDD Senegal)
9h20-9h35	Discours d'ouverture du Sénégal (à déterminer) (un haut fonctionnaire du MEDD)
9h35-9h45	Allocution du Représentant du Bureau de la JICA au Sénégal (M. Koichi KATO, Premier Adjoint au Représentant Resident, JICA Senegal)
9h45-9h50	Photo de groupe (Capture d'écran)
Deuxième session : Progrès réalisés dans le cadre des activités de l'AI-CD par les pays membres et le Secrétariat de l'AI-CD, et rétroaction/commentaires sur le plan technique des partenaires de l'AI-CD	
[Président de séance: MEDD, Senegal (M. Baba BA)]	
9h50-12h05	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Pays membres : Burkina Faso, Cameroun, Tchad, Mali, Mauritanie, Niger, Nigéria, Sénégal, Djibouti (10 min. chacun) ✓ Hub régional pour la Corne de l'Afrique, Kenya (5 min.) ✓ Secrétariat de l'AI-CD (15 min.) Discussion (ouverte à tous les participants (30 min))
12h05-13h05	Pause (déjeuner)
Troisième session : Stratégie des partenaires techniques et financiers internationaux (PTFI) en lien avec l'ordre du jour de l'AI-CD et les progrès réalisés par les partenaires de l'AI-CD	
[Président de séance: MEDD Senegal(M. Baidy BA)]	
13h05-13h15	Présentation de CILSS (Partenaires de l'AI-CD) Dr Hubert N'DJAJA OUAGA, CILSS
13h15-13h45	Présentation des PTFI et Partenaire régional (10 min. chacun) Dr Elvis Paul Nfor Tangem, Coordinateur de l'Initiative Grande Muraille Verte pour le Sahara et le Sahel, UA M. Arona SOUMARE Chargé de mission principal en changement climatique et croissance verte, BAD Mme Elly Baroudy, Spécialiste principale des ressources naturelles, Banque Mondiale
13h45-14h05	Présentation des partenaires de l'AI-CD (10 min. chacun) Mme Nora Berrahmouni, Forestière principale, Bureau régional de l'Afrique, FAO Dr Claudio Zucca, ancien chercheur de l'ICARDA (actuellement chercheur à



14h05-14h20	l'Università degli Studi di Sassari en Italie)
14h20-14h40	Contributions d'autres partenaires au développement, Q&A Commentaires des PF
Quatrième session : Clôture	
[Président : Secrétariat de l'AI-CD (M. Yasuo IZUMI)]	
14h40-14h50	Synthèse et voie à suivre (Hub Sahel/Secrétariat de l'AI-CD)
14h50-14h55	Observations finales (Directeur de l'équipe Environnement naturel 2, Groupe des forêts et de la conservation de la nature Département de l'environnement mondial, JICA)
14h55- 15h00	Observations finales (MEDD Sénégal)



AI-CD

African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to
Climate Change in the Sahel and the Horn of Africa

[English](#) / [Français](#)

ABOUT US

EVENT

GOOD PRACTICES

WORLDWIDE PROJECTS

VOICEs FROM THE FIELD

JAPAN'S COOPERATIONS

KNOWLEDGE CENTRE

KNOWLEDGE SHARED BY INTERNATIONAL RESEARCH INSTITUTES

TECHNICAL MATERIALS DEVELOPED BY JAPAN

ACCESS TO FUNDING

BASIC TIPS FOR FUNDING

USEFUL LINKS

KEY PRODUCTS

AI-CD's 4th Regional Forum for the Sahel Improvement of Access to Finance Through Networking and Knowledge Sharing

19th February 2020

AI-CD Secretariat Support Team



Overview

Due to the COVID-19 pandemic, all activities of the African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to Climate Change in the Sahel and Horn of Africa (AI-CD) have been undertaken online.

Following the [online 4th Regional Forum for the Horn of Africa in December 2020](#), recently the Sahel Region launched similar activity. **The fourth Regional Forum for the Sahel on AI-CD** was held virtually on 27 January 2021, chaired by Senegal as the Regional Hub.

Said Forum welcomed around 60 participants composed of the AI-CD Focal Points (FPs) of Burkina Faso, Cameroon, Mali, Nigeria and Senegal; international and regional partners including African Development Bank, African Union, CILSS, FAO, ICARDA, and World Bank; Regional Hub of the Horn of Africa (Kenya FP); representatives from the Ministry of Environment and Sustainable Development (MESD) of Senegal and JICA; and the AI-CD Secretariat.

The highlights of the Forum included reporting the progress of AI-CD countries' initiatives and **a direct discussion between FPs and ITFPs through which valuable information on recent funding opportunities were shared.**

HIGHLIGHTS OF THE FORUM

Dr. Sakhoudia Thiam, **Number 2 Advisor to the MESD**, chaired the opening session, welcomed the participants and reminded that AI-CD is addressing desertification which is one of the most challenging issues in this century.

Mr. Koichi Kato, **Senior Representative of JICA Senegal**, in his opening remark, underlined the fact that there is only one-and-a-half years left prior to the completion of AI-CD in 2022. He emphasized the high importance of the Forum to accelerate activities to achieve the objectives of AI-CD.



Mr. Koichi Kato,
Senior Representative of
JICA Senegal

Mr. Baba Ba, the **Representative of the Sahel Hub**, presented the objectives of the Forum, and that is to discuss the possibilities resulting from Networking and Knowledge Sharing to improve access to finance for the FPs. To this end, each FP is expected to share the level of progress of his/her activities concerning the three AI-CD pillars as well as a feedback on the concept note he/she is supposed to elaborate and submit eventually to donors.

(1) Progress of AI-CD activities by member countries and AI-CD Secretariat

✓ **AI-CD Secretariat** explained the progress and way forward of AI-CD in relation to its three pillars: Networking, Knowledge Sharing and Access to Finance.

✓ **The Focal Point of Cameroon** pointed out that most of their activities in relation to knowledge sharing were carried out on the occasion of World Day to Combat Desertification and Drought. He added that, in terms of access to finance, they developed project ideas related to land restoration in the Sahel zone and identified potential partners.



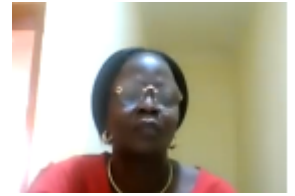
Mr. David Payang,
Focal Point of Cameroon

✓ **The Focal Point of Mali** focused his presentation on a Project Concept Note (PCN) on “Sustainable Land Management” and explained that their target areas are the three most degraded regions for restoration and reforestation. He also mentioned his hope to hold a Country Workshop (CWS) to promote AI-CD domestically.



Mr. Kaba Diallo,
Focal Point of Mali

✓ **The Focal Point of Nigeria** introduced their acquirement of funds for a pilot project on risk reduction of sand and dust storms with sponsorship and assistance from UNCCD. She added that the participants to the AI-CD country workshop in Nigeria in April 2019 shared their ideas on way forward to combat desertification among domestic stakeholders, which is considered a progress on networking.



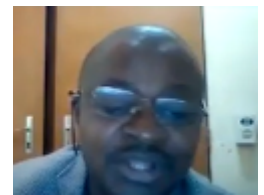
Ms Mabel. O Emmanuel,
Focal Point of Nigeria

✓ **The acting Focal Point of Senegal** mentioned that the country's target is to identify interesting platforms and provide useful information contributing to smoothening their access to finance. For instance, they provided assistance to prepare a project draft on mangrove swamp management that was eventually submitted to European Union for financial support request.



Mr. Baba BA,
Acting Focal Point of
Senegal

✓ **The Focal Point of Burkina Faso** encountered an internet connection problem and was not able to participate in a timely manner. Nevertheless, during the closing session, he expressed his thanks to the organisers of the Forum.



Mr. Dambatia Lazare
Tagnabou,
Focal Point of Burkina
Faso

✓ Head of Knowledge Management of the Kenyan Forestry Research Institute (KEFRI), as the **Representative of the Horn of Africa Hub**, shared progress in the Horn of Africa Region. He introduced a recently conducted technical tour on peri-urban farming and mentioned the online Horn of Africa Regional Forum in December 2020 which enabled FPs to interact with ITFPs on funding opportunities as well as developing and presenting concept notes.



Mr. Paul Tuwei,
Head of Knowledge
Management, KEFRI

(2) Open debates

Following the presentations by the FPs, comments and recommendations were given by several participants including the **Director of Waters and Forests of MESD of Senegal**, the

Director of Planning and Environmental Watch of the MESD-Senegal, the former Coordinator of the National Agency of the Great Green Wall Initiative (GGWI) of Senegal, FAO Representative, the National Coordinator of GEF-Small Grant Program (GEF-SGP) of Senegal and the Senior Advocacy Officer of Wetland International. One of the common points highlighted in their remarks is the need for better coordination with various existing initiatives/frameworks for harmony and facilitation to access finance.

(3) Strategies of ITFPs relevant to AI-CD Agenda and progress by AI-CD partners

With the participation of many partners, including the African Union who attended the AI-CD Regional Forum for the first time, meaningful discussions were held among the participants.

✓ The Programme Manager of the Executive Secretariat of **CILSS** explained their role in knowledge sharing under the AI-CD and pointed out that further discussion on this is needed.



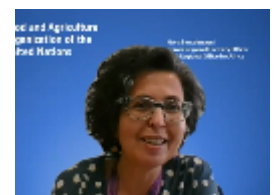
Dr. Hubert N'DJAJA
OUGA, Executive
Secretariat, CILSS

✓ The Lead Natural Resource Management Specialist of the **World Bank** (WB) pointed out that land degradation and climate change are linked to controlling migration and conflicts, and 80 million people may be forced to move to escape the impact of climate change by 2050.



Ms. Elly Baroudy, Lead
Natural Resources
Specialist, World Bank

✓ To share FAO's experience in the fight against desertification and climate change, the Senior Forestry Officer of **FAO** highlighted how they have been involved in the GGWI programme. She insisted that the key solution to social, economic and environmental challenges remains the restoration of degraded land on a large scale. She also advocated the strengthening of partnership to create more synergies.



Ms. Nora Berrahmouni,
Senior Forestry Officer,
FAO Regional Office for
Africa

✓ **The Coordinator for the GGWI at the African Union** showed his strong will to work together with AI-CD, instead of having divided efforts, and considered the Forum a starting point of close collaboration.



Dr. Elvis Paul Nfor
Tangem, Coordinator
for Great Green Wall
Initiative, African Union

✓ The Representative of **ICARDA** presented a new tool combining land degradation and land use planning process. Two options subsume from this approach, either to avoid land degradation or to counter-balance it and the process should be participatory.



Dr. Claudio Zucca,
Former Knowledge
Management Research
Fellow, ICARDA

✓ Mr. Arona Soumare, the Representative of the **AfDB**, informed that their Bank pays close attention to the Sahel region and consequently provides financial support to many projects carried out in this zone. For example, more than 6.5 billion dollars have been invested in the GGW Initiative. But for more efficiency, he urged financial partners working in the same field for the same purpose to collaborate and develop synergies.

(4) Synthesis and Way Forward

✓ The chairman of Session 3, the FP of Senegal, pointed out the necessity to work in synergy, develop a fruitful partnership and avoid the multiplication of activities.



Mr. Baidy BA, Official
Focal Point of Senegal

✓ Facilitated by the FP of Senegal and the AI-CD Secretariat/JICA, the participants confirmed the way forward of each actor in accordance with AI-CD's three pillars. Above all,

member countries confirmed to continue their initiatives to promote AI-CD relevant activities, such as realisation of project ideas through access to finance and activities for knowledge sharing with support from the hub country, AI-CD Secretariat and ITFPs, and share their progress at the next and final forum in 2021.



Ms. Mimi Murase,
Associate Expert, JICA
HQ

✓ Closing remarks by MESD of Senegal and **JICA** brought the Forum to a close.



Mr. Takahiro Ikenoue,
Director, JICA HQ



Co-organizers



Partners



Contact the Secretariat Tel: +81-3-4521-0142 Email: info@aicd-africa.org

Views or opinions expressed in this website do not necessarily reflect the official policy or position of the AI-CD.

Copyright AI-CD All Rights Reserved.



AI-CD

Initiative africaine pour lutter contre la désertification en vue de renforcer la résilience face au changement climatique dans le Sahel et la Corne de l'Afrique

[English](#) / [Français](#)

QUI SOMMES-NOUS?

ÉVÉNEMENTS

BONNES PRACTIQUES

PROJETS MONDIAUX

VOIX DU TERRAIN

COOPÉRATIONS JAPONAISES

CENTRE DE CONNAISSANCE

CONNAISSANCES PARTAGÉES PAR LES INSTITUTS DE RECHERCHE INTERNATIONAUX

MATÉRIAUX TECHNIQUES DÉVELOPPÉS PAR LE JAPON

ACCÈS AU FINANCEMENT

CONSEILS DE BASE POUR LE FINANCEMENT

LIENS UTILES

PRODUITS CLÉS

Quatrième Forum Régional pour le Sahel sur l'AI-CD Amélioration de l'accès au financement grâce au réseautage et au partage des connaissances

Le 19 février 2021

Équipe de soutien du Secrétariat AI-CD



APERÇU

A cause de la pandémie de COVID-19, toutes les activités de l'Initiative africaine de lutte contre la désertification pour renforcer la résilience au changement climatique dans le Sahel et la corne de l'Afrique (AI-CD) ont été mises en œuvre en ligne.

Après le [quatrième Forum Régional pour la Corne de l'Afrique sur l'AI-CD tenu en ligne le 9 décembre 2020](#), récemment, la région du Sahel a lancé une activité similaire. Le quatrième Forum régional pour le Sahel sur AI-CD s'est tenu virtuellement le 27 janvier 2021, sous la présidence du Sénégal en tant que Hub régional.

Le Forum a accueilli une soixantaine de participants qui étaient composés des points focaux (PF) AI-CD du Burkina Faso, du Cameroun, du Mali, du Nigéria et du Sénégal ; de partenaires internationaux et régionaux, y compris la Banque africaine de développement, l'Union africaine, le CILSS, la FAO, ICARDA et la Banque mondiale ; du Hub régional de la Corne de l'Afrique (PF du Kenya) ; de représentants du ministère de l'Environnement et du Développement durable (MEDD) du Sénégal et de la JICA ; et du Secrétariat de l'AI-CD.

Les points saillants du Forum comprennent le compte rendu des progrès des initiatives des pays AI-DC et une discussion directe entre les PF et les partenaires techniques et financiers internationaux (PTFI) à travers laquelle des informations précieuses sur les opportunités de financement récentes ont été partagées.

POINTS FORTS DU FORUM

Le Dr. Sakhoudia Thiam, Conseiller numéro 2 du MEDD a présidé la séance d'ouverture. Il a souhaité la bienvenue aux participants et a rappelé que l'AI-CD s'attaquait à la désertification, qui est l'un des plus grands défis de ce siècle.

M. Koichi Kato, Représentant de haut rang de la JICA Sénégal, lors de son discours d'ouverture, a souligné le fait qu'il ne restait qu'un an et demi avant l'achèvement de l'AI-CD en 2022 et a souligné la grande importance du Forum pour accélérer les activités en vue d'atteindre les objectifs de l'AI-CD.



M. Koichi Kato
Représentant de haut rang
JICA Sénégal

M. Baba Ba, le Représentant du Hub Sahel, a présenté les objectifs du Forum qui sont de discuter des opportunités résultant du réseautage et du partage des connaissances pour améliorer l'accès au financement pour les PF. À cette fin, chaque PF est censé partager le niveau d'avancement de ses activités concernant les trois piliers de l'AI-CD ainsi qu'un retour d'information sur la note conceptuelle qu'il / elle est censé(e) élaborer et soumettre éventuellement aux donateurs.

(1) Progrès réalisés dans la mise en œuvre des activités de l'AI-CD par les pays membres et le Secrétariat de l'AI-CD

✓ **Le Secrétariat de l'AI-CD** a expliqué les progrès et la voie à suivre de l'AI-CD par rapport à ses trois piliers: le réseautage, le partage des connaissances et l'accès au financement.

✓ **Le point focal du Cameroun** a souligné que la plupart de leurs activités liées au partage des connaissances étaient menées à l'occasion de la journée mondiale de la lutte contre la désertification. Il a ajouté qu'en termes d'accès au financement, ils avaient développé des idées de projets liés à la restauration des terres dans la zone sahélienne et identifié des partenaires potentiels.



M. David Payang point
focal du Cameroun

✓ **Le point focal du Mali** a axé sa présentation sur une note conceptuelle de projet (NCP) sur la «gestion durable des terres» et a expliqué que leurs zones cibles étaient les trois régions les plus dégradées, pour la restauration et le reboisement. Il a également mentionné son espoir d'organiser un atelier-pays (AP) pour promouvoir l'AI-DC au niveau national.



M. Kaba Diallo point focal du Mali

✓ **Le point focal du Nigéria** a lancé l'acquisition de fonds pour un projet pilote sur la réduction des risques de tempêtes de sable et de poussière avec le parrainage et l'assistance de l'UNCCD. Elle a ajouté que les participants à l'atelier national de l'AI-CD au Nigéria en avril 2019 avaient partagé leurs idées sur la voie à suivre pour lutter contre la désertification parmi les parties prenantes nationales, ce qui est considéré comme un progrès en matière de réseautage.



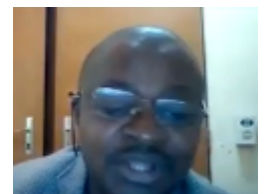
Mme Mabel. Ô Emmanuel point focal du Nigéria

✓ **Le point focal par intérim du Sénégal**, a mentionné que la cible de leur pays est d'identifier des plateformes intéressantes et de fournir des informations utiles contribuant à faciliter leur accès au financement. Par exemple, ils ont fourni leur aide pour préparer un avant-projet de projet sur la gestion des mangroves qui a finalement été soumis à l'Union européenne pour une demande de soutien financier.



M. Baba BA point focal par intérim du Sénégal

✓ **Le point focal du Burkina Faso** a rencontré un problème de connexion Internet et n'a pas pu participer en temps opportun. Néanmoins, lors de la séance de clôture, il a exprimé ses remerciements aux organisateurs du forum.



M. Dambatia Lazare Tagnabou, point focal du Burkina Faso

✓ Le Chef de la gestion des connaissances de l'Institut kényan de recherche forestière (KEFRI), en tant que représentant du Hub de la Corne de l'Afrique, a partagé les progrès accomplis dans la région de la Corne de l'Afrique. Il a présenté une visite technique récemment réalisée sur l'agriculture périurbaine et le Forum régional en ligne de la Corne de l'Afrique en décembre 2020 qui a permis aux PF d'interagir



M. Paul Tuwei responsable de la gestion

avec les PTFI sur les opportunités de financement ainsi que le développement et la présentation de notes conceptuelles.

des connaissances,
KEFRI

(2) Débats ouverts

Suite aux présentations des PF, des commentaires et recommandations ont été formulés par de nombreux participants dont le Directeur des Forêts du Sénégal, le Directeur de la Planification et de la Veille environnementale du MESD-Sénégal, l'ancien coordinateur de l'Agence Nationale de l'Initiative de la Grande Muraille Verte (GGWI) du Sénégal, un représentant de la FAO, le coordinateur national du programme FEM-Small Grant (GEF-SGP) du Sénégal et le responsable de haut rang du plaidoyer de Wetlands International. L'un des points communs mis en évidence dans leurs remarques est la nécessité d'une meilleure coordination avec les diverses initiatives / cadres existants pour l'harmonisation et la facilitation de l'accès au financement.

(3) Stratégies des PTFI pertinentes pour le programme AI-CD et progrès réalisés par les partenaires de l'AI-CD

Avec la participation de nombreux partenaires, dont l'Union africaine qui a participé pour la première fois au Forum régional AI-CD, des discussions constructives ont eu lieu entre les participants.

✓ Le Responsable de programme du Secrétariat Exécutif du CILSS a expliqué le rôle du CILSS dans le partage des connaissances dans le cadre de l'AI-CD et a souligné que des discussions supplémentaires étaient nécessaires.



Dr. Hubert N'DJAJA
OUGA, Secrétariat
exécutif, CILSS

✓ Le spécialiste de haut rang de la gestion des ressources naturelles de la Banque mondiale (BM) a souligné que la dégradation des terres et le changement climatique étaient très liés au contrôle des migrations et des conflits, et que 80 millions de personnes pourraient être forcées de se déplacer pour échapper à l'impact du changement climatique d'ici 2050.



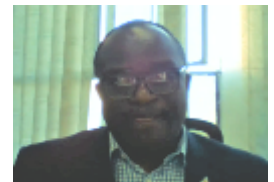
Mme Elly Baroudy,
spécialiste de haut rang

✓ Pour partager les expériences de la FAO dans la lutte contre la désertification et le changement climatique, la forestière de haut rang de la FAO a souligné comment la FAO a été impliquée dans le programme de l'IGMV. Elle a insisté sur le fait que la solution clé aux défis sociaux, économiques et environnementaux restait la restauration des terres dégradées à grande échelle, tout en plaidant pour le renforcement des partenariats pour créer plus de synergies.



Mme Nora Berrahmouni, forestière de haut rang, Bureau régional de la FAO pour l'Afrique

✓ Le coordinateur de l'IGMV à l'Union africaine a montré sa forte volonté de travailler avec l'AI-CD au lieu d'éparpiller nos efforts et a considéré ce forum comme le point de départ d'une étroite collaboration.



Dr. Elvis Paul Nfor Tangem, coordinateur de l'Initiative de la Grande Muraille Verte, Union Africaine

✓ Le représentant d'ICARDA a présenté un nouvel outil combinant la dégradation des terres et le processus de planification de l'utilisation des terres. Deux options découlent de cette approche, soit pour éviter la dégradation des terres, soit pour la contrebalancer, et le processus devrait être participatif.



Dr. Claudio Zucca, ancien chercheur en gestion des connaissances, ICARDA

✓ M. Arona Soumare, le représentant de la BAD, a informé que sa Banque accordait une attention particulière à la région du Sahel et apportait par conséquent un soutien financier à de nombreux projets menés dans cette zone. Par exemple, plus de 6,5 milliards de dollars ont été investis dans l'initiative GMV. Mais pour plus d'efficacité, il a exhorté les partenaires

financiers travaillant dans le même domaine dans le même but à collaborer et à développer des synergies.

(4) Synthèse et voie à suivre

✓ Le Président de la session 3, le PF du Sénégal, a souligné la nécessité de travailler en synergie, de développer un partenariat fructueux et d'éviter la multiplication des activités.



M. Baidy BA, point focal
officiel du Sénégal

✓ Animés par le PF du Sénégal et le Secrétariat AI-CD / JICA, les participants ont confirmé la voie à suivre pour chaque acteur conformément aux trois piliers de l'AI-CD. Surtout, les pays membres ont confirmé qu'ils poursuivront leurs initiatives pour promouvoir les activités pertinentes de l'IA-CD, telles que la réalisation d'idées de projets grâce à l'accès au financement et aux activités de partage des connaissances avec le soutien du Hub, du Secrétariat de l'AI-CD et des PTFI. Ils promettent de partager les progrès réalisés lors du prochain / dernier forum prévu en 2021.



Mme Mimi Murase,
expert associé, siège de
la JICA

✓ Le forum s'est achevé par des mots de clôture du MEDD et de la JICA.



Co-organizers



Partners



Contact du secrétariat Tél. +81-3-4521-0142 E-mail. info@aicd-africa.org

Les opinions ou les points de vue exprimés dans ce site web ne reflètent pas nécessairement la politique ou position officielle du AI-CD.

Copyright AI-CD Tous droits réservés.



Programme

African Initiative for Combating Desertification Conference for Horn of Africa

Theme: Sharing Experiences on Impacts from Networking, Knowledge Sharing and Access to Finance

Date: Wednesday, 25th August 2021

Virtual Conference

Time (EAT)	Activities	Facilitator
Session I: Opening Ceremony		
[Chair: (MoEF Conservation Secretary - Mr Alfred Gichu)]		
09.00-09.15	• Conference objectives and programme overview	Director KEFRI
09.15-09.25	• Remarks by Chief Representative, JICA Kenya Office	JICA
09.25-09.35	• Remarks by Principal Secretary	MoEF
09.35-09.50	• Speech by Ambassador, Embassy of Japan (Kenya)	EoJ
09.50-10.05	• Opening Speech by Cabinet Secretary, Ministry of Environment and Forestry, Kenya	MoEF
10.05-10.10	• Group photo (screen shot)	AI-CD Secretariat
10.10-10.20	Tea Break	
Session II: Progress and Achievement of AI-CD in Horn of Africa and the Sahel Region		
[Chair: KEFRI SDD R&D; Rapporteurs - KEFRI]		
10.20 -10.30	Progress and achievements in HoA from 2016-2021	HoA Hub (Kenya)
10.30-10.40	Progress and achievements in Sahel Region from 2016-2021	Sahel Hub (Senegal)
10.40-10.50	Progress and achievements of AI-CD cross regional activities from 2016-2021	AI-CD Secretariat
10.50-11.00	Q&A	
Session III: Progress and achievements of AI-CD by member countries		
[Chair : Kenya Focal Point ; Rapporteurs - KEFRI]		
11.00-11.30	(10 min per presentation) • Member countries: Djibouti, Eritrea, Ethiopia	Focal Points
11.30-11.40	• Kenya (case study)	ECoRAD
11.40-11.50	• Q&A (10 minutes)	
11.50-12.20	• Member countries: Somalia, South Sudan, Sudan,	Focal Points
12.20-12.30	• Q&A (10 minutes)	
12.30-13.30	Lunch Break	

Time (EAT)	Activities	Facilitator
Session IV: Opportunities for AI-CD countries to accelerate efforts for combating desertification to strengthen resilience to climate change [Chair: AI-CD Secretariat; Rapporteurs: KEFRI]		
*The aim of the session: To discuss ways to: 1) strengthen the network further among FPs, AI-CD Partners, and Development Partners, and 2) enhance synergies and collaboration among relevant initiatives / programmes for AI-CD countries to accelerate countries' efforts for combating desertification by strengthening networks, sharing knowledge, and accessing to finance		
13.30-13.50	(5 min per presentation) Presentation from AI-CD partners (e.g. UNCCD, FAO, GEF, ICARDA)	AI-CD Partners
13.50-14.05	(2 min per representatives) Brief comment on the key question by AI-CD Partners, and Development Partners (e.g. CILSS, UNDP, UNEP, AU, AfDB, WB, IFAD, Wetland International) *Key question: "What opportunities can AI-CD countries have to continue their efforts in building networks, knowledge sharing and access to finance?"	Development Partners
14.05-14.30	Open discussion among FPs, AI-CD Partners, Development Partners, and other participants Q&A (5min per presentation)	AI-CD Partners, Development Partners, FPs, and other participants
Session V: Closing [Chair : Director KEFRI ; Rapporteurs : KEFRI]		
14.30-14.40	• Synthesis and way forward	Kenya Hub/ JICA / AI-CD Secretariat
14.40-14.50	• Remarks from HoA (South Sudan, Focal Point)	South Sudan FP
14.50-15.00	• Closing remarks (JICA Headquarters)	JICA Headquarters
15.00-15.10	• Closing remarks (Principal Secretary, MoEF, Kenya)	MoEF

Abbreviations

AI-CD	African Initiative for Combating Desertification
EAT	East African Time
ECoRAD	Project for Enhancing Community Resilience Against Drought in Northern Kenya
EoJ	Embassy of Japan
FP	Focal Point
HoA	Horn of Africa
JICA	Japan International Cooperation Agency
KEFRI	Kenya Forestry Research Institute
MoEF	Ministry of Environment and Forestry (Kenya)
Q&A	Question and Answer
SDD R&D	Senior Deputy Director Research and Development



AI-CD

African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to
Climate Change in the Sahel and the Horn of Africa

[English](#) / [Français](#)

ABOUT US

EVENT

GOOD PRACTICES

WORLDWIDE PROJECTS

VOICES FROM THE FIELD

JAPAN'S COOPERATIONS

KNOWLEDGE CENTRE

KNOWLEDGE SHARED BY INTERNATIONAL RESEARCH INSTITUTES

TECHNICAL MATERIALS DEVELOPED BY JAPAN

ACCESS TO FUNDING

BASIC TIPS FOR FUNDING

USEFUL LINKS

KEY PRODUCTS

AI-CD Final Regional Conference for Horn of Africa – Great Progress of Member Countries in Achieving the Objectives of AI-CD

25th August 2021

AI-CD Secretariat Support Team



OVERVIEW

The final conference of the African Initiative for Combating Desertification (AI-CD) for Horn of Africa (HoA) was conducted virtually on 25 August 2021 in Kenya, the regional hub of HoA. The conference, hosted by the Ministry of Environment and Forestry (MoEF) and Kenya Forestry Research Institute (KEFRI), was well attended by most of the Focal Points (FPs) in the region (Kenya, Somalia, Sudan, South Sudan, Eritrea and Djibouti) or their representatives, together with those from the Sahel regional hub. The hosts welcomed over 50 participants that included representatives from international organisations and research institutions, namely, the African Union, United Nations agencies, Kenyan government institutions, the Embassy of Japan in Kenya, and Japan International Cooperation Agency (JICA), among others.

During this event, the multiple achievements, progress and challenges of AI-CD were highlighted from the perspective of networking, knowledge sharing and access to finance while the concrete steps for the way forward were presented.

HIGHLIGHTS OF THE FORUM

(1) Opening session

Dr. Joshua Cheboiwo, Director of KEFRI, welcomed the participants and shared the overview and objectives of this online conference.



Dr. Joshua Cheboiwo,
Director of KEFRI

Next, Mr. Hajime Iwama, **Chief Representative of JICA Kenya Office**, expressed appreciation for the attendance of all participants and appraised the achievements of the AI-CD since its establishment. He also praised the continuous efforts and collaboration among the member countries, regional hubs, AI-CD partners and development partners despite the challenging situation due to the COVID-19 pandemic.



Mr. Hajime Iwama,
Chief Representative of JICA Kenya Office

Furthermore, he encouraged dialogue during the conference to elaborate the way forward of the AI-CD prior to the Tokyo International Conference on African Development (TICAD) 8 in 2022 to be held in Tunisia.

Dr. Joshua Cheboiwo then presented the opening remarks on behalf of Dr. Chris Kiptoo, **Principal Secretary of MoEF**. He appreciated the attendance of all participants and emphasised the essentiality of the knowledge-sharing platform developed through AI-CD. He encouraged the participants to learn and apply the knowledge to contribute to the national, regional and global agenda for combating desertification.

Mr. Yasuhisa Kitagawa, **Deputy Chief of Mission of the Embassy of Japan in Kenya**, welcomed the strong leadership of MoEF and KEFRI in the facilitation of AI-CD in HoA, and cited their efforts in developing partnerships with member countries and international organisations. He also explained that the Japanese official development assistance in



the Kenyan forestry sector has a long history of over 35 years and praised the dissemination of accumulated knowledge by KEFRI through numerous Third Country Training Programmes, as well as the AI-CD. Additionally, he emphasised the importance of a combination of humanitarian response and a long-term resilience development plan as practiced within the initiative for combating the impacts of climate change. Finally, he mentioned that he is looking forward to enriching outcomes of the AI-CD in its conclusion at the TICAD8 in 2022.

Hon. Mohammed Elmi, **Chief Administrative Secretary of MoEF**, presented the opening speech on behalf of Hon. Keriako Tobiko, **Cabinet Secretary of MoEF**. He mentioned the importance of the conference as a unique platform to consolidate critical lessons learned that will support in meeting the objectives of the AI-CD and in contributing to the realisation of global and regional environmental agendas. Furthermore, he recognised the initiative's accomplishments particularly the publication of guidelines and other informative materials, and encouraged the adoption of best practices adapted to the context of implementing countries. He also stressed that strong social inclusiveness and youth engagement are key to sustainable landscape management. Finally, he expressed the importance of further promoting access to finance of member countries by engaging the development partners and donors through the networks built within AI-CD.



Hon. Mohammed Elmi,
Chief Administrative Secretary of MoEF

(2) Progress and achievements of AI-CD in HoA and the Sahel regions



Ms. Josephine Wanjiku,
AI-CD Regional Hub for HoA

Ms. Josephine Wanjiku, member of the **AI-CD Regional Hub for HoA**, presented the accomplishments in the region such as the organisation of regional forums and technical training workshops, publication of guidelines and brochures, and the creation of a web page for information sharing. To conclude, challenges, lessons learned, and recommendations were summarised.



Mr. Colonel Baba Ba,
AI-CD Regional Hub for Sahel

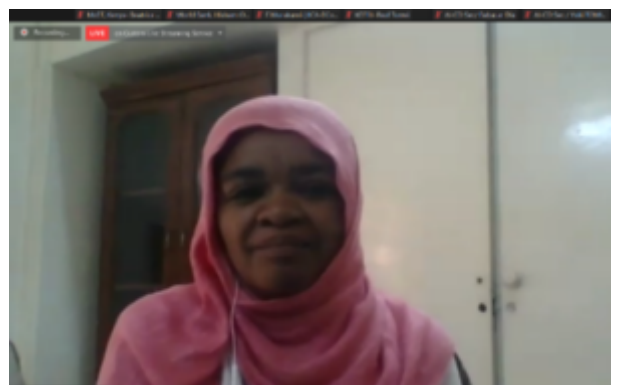
After that, Mr. Colonel Baba Ba, representing **the AI-CD Regional Hub for Sahel**, explained the achievements of the region, including the implementation of multiple regional forums and national workshops held by Nigeria, Burkina Faso and Mali and the development of project concept notes (PCNs) by member countries. He also briefly mentioned the diverse funding mechanisms related to combating desertification which were previously explained

by donors and development agencies.

The AI-CD Secretariat summarised the various side events organised during the United Nations Convention to Combat Desertification (UNCCD) Conference of the Parties (COP) 13 and 14, as well as in the Seventh Tokyo International Conference on African Development (TICAD7). During the presentation, the components of AI-CD's knowledge-sharing platform and knowledge-sharing activities, such as short film making, were explained. Furthermore, online tools and links developed in collaboration with the International Center for Agricultural Research in the Dry Areas (ICARDA) and the UNCCD were mentioned. Also, the Secretariat presented the progress in the promotion of access to finance, including the development of a guideline summarising relevant financial schemes, assistance in refining the PCNs, network development facilitation through meetings with international technical and financial partners (ITFPs), and assistance in integrating the PCNs into ITFPs' projects. Finally, training courses being provided by JICA to AI-CD countries were introduced together with related follow-up programmes.

(3) Progress and achievements on AI-CD of member countries

The acting **FP of Sudan**, Dr. Mona Dawelbait, presented the outline of the Sudan National Action Programme to Combat Desertification (SNAP), which has relevance to the AI-CD objectives. She then presented the AI-CD national workshop conducted in June 2021 and the PCN focusing on the improvement of



livelihood in degraded land in Kurdufan and White Nile States.



Mr. Kenadid Cali,
Somalia FP

The **FP of Somalia**, Mr. Kenadid Cali, focused his presentation on the strategies, policies and laws relevant to climate change and combating desertification. He also tackled land degradation status in Somalia, and the functions and priorities of the Directorate of Environment and Climate Change. Additionally, key challenges on halting charcoal business were illustrated.

The presentation of the **FP of Eritrea**, Mr. Heruy Asghedom, covered the different national networks strengthened to meet the objectives of AI-CD and the capacity building training of the national staff with KEFRI. Furthermore, he mentioned several campaigns addressing the issues of desertification, droughts and land degradation and the project proposal focusing on land degradation neutrality.



Mr. Heruy Asghedom,
Eritrea FP



Mr. Edward Ugo,
Acting South Sudan FP

The acting **FP of South Sudan**, Mr. Edward Ugo, presented the overview of its pilot project (*Peri-Urban Focus Community Farming to Build Resilience to Climate Change in Post-Conflict South Sudan*) that started in 2019 with support from JICA. The key findings and outcomes of the baseline assessment, awareness creation workshops and the technical study tour to KEFRI were explained among the participants.

The **FP of Djibouti**, Dr. Tabareck Mohamed, briefly explained the country effort in planting different tree species which already achieved the planting of about one million seedlings in five districts. He also presented the information

regarding the date palms to be planted as a measure for combating desertification.



Dr. Tabareck Mohamed,
Djibouti FP

Dr. Monicah Kinuthia, **Ministry of Devolution and the Arid and Semi-Arid Lands**, presented the case study from the JICA-supported project called “Enhancing Community Resilience Against Drought in Kenya” (EcoRAD 1 & 2). In her presentation, she explained the approach of controlling an invasive alien plant species called prosopis through the training of power saw operators and charcoal production. She also covered a case study on water resources database development through a combination of in-office update, fieldworks and GIS mapping.

(4) Opportunities for AI-CD countries to accelerate efforts in combating desertification to strengthen resilience to climate change

The representative of the **Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO)**, Mr. Martin Ager, delivered a presentation of the trends, main causes and negative effects of desertification, and a summary of various remedial approaches. Furthermore, on-going projects were presented, such as the Great Green Wall, that can provide potential collaboration in implementing AI-CD activities.



Mr. Martin Ager,
Representative of FAO

The representative of the **Global Environment Facility (GEF)**, Mr. Ibrahim Sow, explained the implementation status of the two principal funding schemes in HoA: GEF-7 and the Least



Mr. Ibrahima Sow,
Representative of GEF

Developed Countries Fund (LDCF). Additionally, he mentioned the preparation process of the upcoming investment cycle (GEF-8) and presented on-going initiatives related to the Great Green Wall. Also, programmes to strengthen the monitoring and reporting capacity of the UNCCD member countries were highlighted.

Last speaker of this session was the **World Bank** representative, Mr. Hisham Osman, who briefly commented on the institution's upcoming investment of over USD 5 billion to support the restoration of degraded lands and to improve agricultural productivity in eleven African countries, including Djibouti, Ethiopia, Eritrea and Sudan. Moreover, the Global Partnership for Sustainable and Resilient Landscapes (PROGREEN), which supports countries' efforts to reduce forest loss and improve land fertility, was presented



Mr. Hisham Osman,
Representative of World Bank

During the open discussion, session chair from the AI-CD Secretariat, representative of GEF, and the participants talked about how countries and institutions can approach GEF and get involved in the upcoming GEF-8. **The GEF representative**, Mr. Ibrahima Sow, explained the steps to be taken to apply for the umbrella programmes, and encouraged countries to actively participate in the national programming exercise organised during the preparation of GEF-8. Additionally, the ambitious initiative of the Great Green Wall was briefly discussed with an emphasis on its diverse goals and multiple stakeholders.

(5) Closing session

As synthesis and way forward, **KEFRI and the AI-CD Secretariat** summarised the actions to be taken by stakeholders according to the

three pillars of AI-CD. They also shared upcoming important events for AI-CD such as TICAD 8 to be conducted next year.



Mr. Michael Mukolwe,
AI-CD Regional Hub for HoA



Mr. Michael Mukolwe,
AI-CD Regional Hub for HoA



Mr. Takahiro Ikenoue,
Global Environment Department, JICA HQ

Following the way forward, Mr. Takahiro Ikenoue of the **Global Environment Department of JICA Headquarters** praised the remarkable achievements delivered by member countries and encouraged stakeholders to accelerate efforts in promoting access to finance.

Finally, Mr. Alfred Gichu, **Head of Directorate of Forest Conservation of MoEF**, made the closing remark on behalf of the Principal Secretary of MoEF by appreciating the initiative's progress. He also requested the scaling up of activities in combating desertification based on the robust foundation created by AI-CD.



Mr. Alfred Gichu,
Head of Directorate of Forest Conservation, MoEF



Co-organizers



Partners



Contact the Secretariat Tel: +81-3-4521-0142 Email: info@aicd-africa.org

Views or opinions expressed in this website do not necessarily reflect the official policy or position of the AI-CD.

Copyright AI-CD All Rights Reserved.



AI-CD

Initiative africaine pour lutter contre la désertification en vue de renforcer la résilience face au changement climatique dans le Sahel et la Corne de l'Afrique

[English](#) / [Français](#)

QUI SOMMES-NOUS?

ÉVÉNEMENTS

BONNES PRACTIQUES

PROJETS MONDIAUX

VOIX DU TERRAIN

COOPÉRATIONS JAPONAISES

CENTRE DE CONNAISSANCE

CONNAISSANCES PARTAGÉES PAR LES INSTITUTS DE RECHERCHE INTERNATIONAUX

MATÉRIAUX TECHNIQUES DÉVELOPPÉS PAR LE JAPON

ACCÈS AU FINANCEMENT

CONSEILS DE BASE POUR LE FINANCEMENT

LIENS UTILES

PRODUITS CLÉS

Conférence régionale finale de l'AI-CD pour la Corne de l'Afrique – Grands progrès réalisés par les pays membres dans l'atteinte des objectifs de l'AI-CD –

Le 25 août 2021

Equipe de soutien du Secrétariat de l'AI-CD



VUE D'ENSEMBLE

La conférence finale pour la Corne de l'Afrique de l'Initiative africaine pour lutter contre la désertification en vue de renforcer la résilience face au changement climatique dans le Sahel et la Corne de l'Afrique (AI-CD) s'est déroulée en ligne le 25 août 2021, et a été organisée par le Kenya, à savoir par le ministère de l'Environnement et des Forêts (MoEF) et du Kenya Forestry Research Institute (KEFRI), en tant que Centre régional de la Corne de l'Afrique. La conférence a été suivie par la plupart des points focaux ou par leurs représentants de la Corne de l'Afrique (Kenya, Somalie, Soudan, Soudan du Sud, Erythrée et Djibouti) ainsi que par le Centre régional du Sahel, et a accueilli au total plus de 50 participants d'organisations internationales et d'institutions de recherche parmi d'autres, dont notamment l'Union africaine, les agences des Nations unies, les institutions gouvernementales kenyanes, l'Ambassade du Japon au Kenya et l'Agence Japonaise de Coopération Internationale (JICA).

Au cours de cet événement, les multiples accomplissements et progrès de l'AI-CD et les défis à relever ont été mis en évidence du point de vue du réseautage, du partage des connaissances et de l'accès au financement, tandis que des mesures concrètes pour aller de l'avant ont été présentées.

POINTS MARQUANTS DU FORUM

(1) Séance d'ouverture

La séance a débuté par la prise de parole du Dr Joshua Cheboiwo, **directeur du Kenya Research Institute (KEFRI)**, qui a souhaité la bienvenue aux participants et a présenté l'aperçu et les objectifs de cette conférence en ligne.



Dr Joshua Cheboiwo,
Directeur du KEFRI

Ensuite, M. Hajime Iwama, **représentant en chef du Bureau de la JICA au Kenya**, a remercié l'ensemble des participants pour leur présence et a présenté les réalisations de l'AI-CD depuis sa création. Il a également salué tous les efforts continus et la collaboration entre les pays membres, les centres régionaux, les partenaires de l'AI-CD et les partenaires de développement, malgré la situation difficile rencontrée dans ce contexte de pandémie de COVID-19. En outre, il a encouragé les participants à échanger pendant la présente conférence afin de pouvoir élaborer la voie à suivre par l'AI-CD en vue de la 8^{ème} Conférence internationale de Tokyo sur le développement de l'Afrique (TICAD) qui se tiendra en Tunisie en 2022.



M. Hajime Iwama,
Représentant en chef de la JICA au Kenya

Le Dr Joshua Cheboiwo a ensuite prononcé le discours d'ouverture au nom du Dr Chris Kiptoo, **secrétaire principal du MoEF**. Il a salué la présence de tous les participants et a souligné l'importance de la plateforme de partage des connaissances développée par l'AI-CD et a encouragé les participants à apprendre et à appliquer les connaissances acquises de manière à apporter leur contribution à l'agenda national, régional et mondial de lutte contre la désertification.

M. Yasuhisa Kitagawa, **chef de mission adjoint de l'Ambassade du Japon au Kenya**, a salué le fort leadership dont ont fait preuve le MoEF et le KEFRI dans la facilitation de la mise en œuvre de l'AI-CD dans la Corne de l'Afrique ainsi que dans le développement de partenariats avec les pays membres et les organisations internationales. Il a également expliqué que l'aide publique au développement du Japon dans le secteur forestier kenyan a une longue histoire de plus de 35 ans et a fait l'éloge de la diffusion de connaissances accumulées par le KEFRI à travers de nombreux programmes de formation pour les pays tiers ainsi qu'à travers l'AI-CD. En outre, il a souligné l'importance d'une combinaison des interventions humanitaires et du plan de développement de la résilience à long terme telle que pratiquée dans le cadre de l'initiative pour combattre les impacts du changement climatique. Enfin, il a indiqué qu'il attendait avec impatience les résultats enrichissants de l'AI-CD lors de sa conclusion à la TICAD8 de 2022.



M. Yasuhisa Kitagawa,
Chef de mission adjoint de l'Ambassade du Japon au
Kenya

L'Hon. Mohammed Elmi, **secrétaire administratif en chef du MoEF**, a prononcé le discours d'ouverture au nom de l'Hon. Keriako Tobiko, **secrétaire du Cabinet du MoEF**. Il a mentionné l'importance de la conférence en tant que plateforme unique pour consolider les leçons essentielles apprises pour atteindre les objectifs de l'AI-CD et contribuer à la réalisation des agendas environnementaux mondiaux et régionaux. En outre, il a reconnu les accomplissements réalisés dans le cadre de l'initiative qui ont pris la forme de publications de directives et autres documents d'information, et a encouragé l'adoption de meilleures pratiques adaptées au contexte des pays de mise en œuvre. Enfin, il a souligné qu'une forte inclusion sociale et l'engagement des jeunes étaient essentiels pour la gestion durable des paysages et a exprimé l'importance de promouvoir davantage l'accès au financement des pays membres en engageant les partenaires de développement et les donateurs à travers les réseaux construits au sein de l'AI-CD.



Hon. Mohammed Elmi,
Secrétaire administratif en chef du MoEF

(2) Etat d'avancement et réalisations de l'AI-CD dans la Corne de l'Afrique et dans la Région du Sahel



Mme Josephine Wanjiku,
Centre régional AI-CD pour la Corne de l'Afrique

Mme. Joséphine Wanjiku, **membre du Centre régional de l'AI-CD pour la région de la Corne de l'Afrique**, a présenté les réalisations dans la région, telles que l'organisation de forums régionaux et d'ateliers de formation technique, la publication de directives et de brochures et la création d'une page web pour le partage d'informations. Pour conclure, les défis, les leçons retenues et les recommandations ont été résumés.



Centre régional AI-CD pour le Sahel

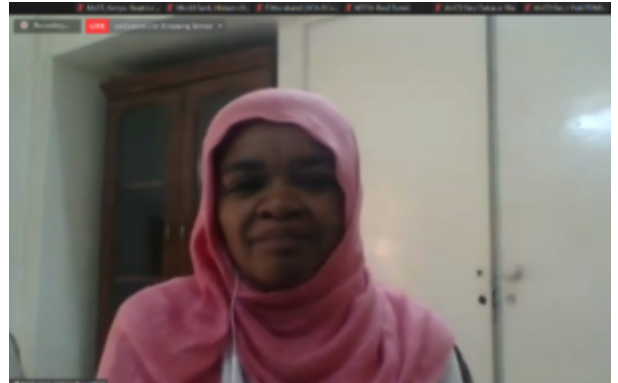
Ensuite, le Colonel Baba Ba, **représentant du Centre régional de l'AI-CD pour la région du Sahel**, a expliqué les réalisations de la région, notamment la tenue de multiples forums régionaux et d'ateliers nationaux organisés par le Nigeria, le Burkina Faso et le Mali et l'élaboration de notes conceptuelles de projet (NCP) par les pays membres. Il a également mentionné brièvement les divers mécanismes de financement liés à la lutte contre la

désertification qui ont été expliqués précédemment par les donateurs et les agences de développement.

Le **Secrétariat de l'AI-CD** a résumé les différents événements parallèles organisés pendant la Conférence des Parties (COP) 13 et 14 de la Convention des Nations Unies sur la lutte contre la désertification (CNULCD) et pendant la TICAD7. Au cours de la présentation, les composantes de la plateforme de partage des connaissances de l'AI-CD ont été expliquées ainsi que les activités de partage des connaissances telles que la réalisation de courts métrages. En outre, les outils et les liens en ligne développés en collaboration avec le Centre international de recherche agricole dans les zones arides (ICARDA) et le CNULCD ont été mentionnés. Le Secrétariat a également présenté les progrès réalisés en matière de promotion de l'accès au financement, notamment l'élaboration d'une ligne directrice résumant les mécanismes de financement pertinents, l'assistance à l'affinement des NCP, la facilitation du développement de réseaux par le biais de réunions avec les partenaires techniques et financiers internationaux (PTFI) et l'assistance à l'intégration des NCP dans les projets des PTFI. Enfin, les cours de formation dispensés par la JICA aux pays de l'AI-CD ont été présentés, ainsi que les programmes de suivi correspondants.

(3) Etat d'avancement et réalisations de l'AI-CD par les pays membres

Le **point focal par intérim du Soudan**, Dr Mona Dawelbait, a présenté les grandes lignes des programmes du Programme d'action du Soudan pour lutter contre la désertification (SNAP), qui ont un rapport avec les objectifs de l'AI-CD. Elle a ensuite présenté l'atelier national de l'AI-CD organisé en juin 2021 et la NCP axée sur l'amélioration des moyens de subsistance sur les terres dégradées dans les États de Kordofan et du Nil Blanc.



Dr Mona Dawelbait,
Point focal par intérim du Soudan



M. Kenadid Cali,
Point focal de la Somalie

Le **point focal de la Somalie**, M. Kenadid Cali, a axé sa présentation sur les stratégies, politiques et lois relatives au changement climatique et à la lutte contre la désertification, sur l'état de la dégradation des sols en Somalie et sur les fonctions et les priorités de la Direction de l'environnement et du changement climatique. En outre, les principaux défis liés à l'arrêt du commerce du charbon de bois ont été illustrés.

La présentation du **point focal de l'Erythrée**, M. Heruy Asghedom, a couvert les différents réseaux nationaux renforcés pour répondre aux objectifs de l'AI-CD et la formation au renforcement des capacités du personnel national avec le KEFRI. En outre, il a présenté les différentes campagnes abordant les questions de désertification, de sécheresse et de dégradation des terres ainsi que la proposition de projets axée sur la neutralité en matière de dégradation des terres.



M. Heruy Asghedom,
Point focal de l'Erythrée



M. Edward Ugo,

Point focal par intérim du Soudan du Sud

Le **point focal par intérim du Soudan du Sud**, M. Edward Ugo, a présenté une vue d'ensemble de son projet pilote (*Peri-Urban Focus Community Farming to Build Resilience to Climate Change in post-conflict South Sudan*) qui a débuté en 2019 avec le soutien de la JICA. Les principales conclusions et les résultats de l'évaluation de base, les ateliers de sensibilisation et le voyage d'étude technique au KEFRI ont notamment été expliqués.

Le **point focal de Djibouti**, Dr Tabareck Mohamed, a brièvement expliqué l'effort déployé par le pays dans la plantation d'arbres de différentes espèces où environ un million d'arbres ont été plantés à travers cinq districts. Il a également présenté des informations concernant les palmiers dattiers à planter comme mesure de lutte contre la désertification.



Dr Tabareck Mohamed,

Point focal de Djibouti

Le Dr Monicah Kinuthia, du **ministère de la Dévolution et des Zones semi-arides**, a présenté l'étude de cas du projet soutenu par la JICA sur le renforcement de la résilience communautaire contre la sécheresse au Kenya (EcoRAD 1 & 2). Dans sa présentation, elle a expliqué l'approche visant à contrôler la forêt de prosopis, une espèce exogène envahissante au Kenya, par des opérateurs formés à l'utilisation de scies électriques et par la production de charbon de bois. Elle a également présenté une étude de cas sur le développement d'une base de données sur les ressources en eau par une combinaison de mises à jour effectuées au bureau, de travaux sur le terrain et de cartographie SIG.

(4) Opportunités pour les pays de l'AI-CD d'accélérer les efforts de lutte contre la désertification afin de renforcer la résilience au changement climatique

Le représentant de **l'Organisation des Nations Unies pour l'alimentation et l'agriculture (FAO)**, M. Martin Ager, a fait une présentation sur les tendances, les principales

causes et les effets négatifs de la désertification, tandis que diverses approches correctives ont été résumées. En outre, des projets en cours, tels que le projet sur la Grande muraille verte, ont été présentés où une collaboration éventuelle avec les activités de l'AI-CD pourrait être envisagée.



M. Martin Ager,
Représentant de la FAO



M. Ibrahim Sow,
Représentant de FEM

Le représentant du **Fonds pour l'Environnement mondial (FEM)**, M. Ibrahim Sow, a fait le point sur l'état d'avancement de la mise en œuvre des deux principaux programmes de financement (FEM-7) et Fonds pour les pays les moins avancés (FPMA) dans la Corne de l'AFrique. En outre, il a mentionné le processus de préparation du prochain cycle d'investissement (FEM-8) et a présenté les initiatives en cours liées à la Grande muraille verte. Il a également mis l'accent sur les

programmes visant à renforcer la capacité de suivi de d'élaboration de rapports des pays membres de la CNULCD.

En guise de dernier commentaire à cette session, le représentant de la **Banque mondiale**, M. Hisham Osman, a brièvement évoqué l'investissement prochain par ladite institution de plus de cinq milliards d'USD pour soutenir la restauration des terres dégradées et pour améliorer la productivité agricole dans onze pays africains, dont Djibouti, l'Éthiopie, l'Érythrée et le Soudan. En outre, le Partenariat mondial pour des paysages durables et résilients (PROGREEN) visant à soutenir les efforts des pays pour réduire la perte de forêts et améliorer la fertilité des terres a été présenté.



M. Hisham Osman,
Représentant de la Banque mondiale

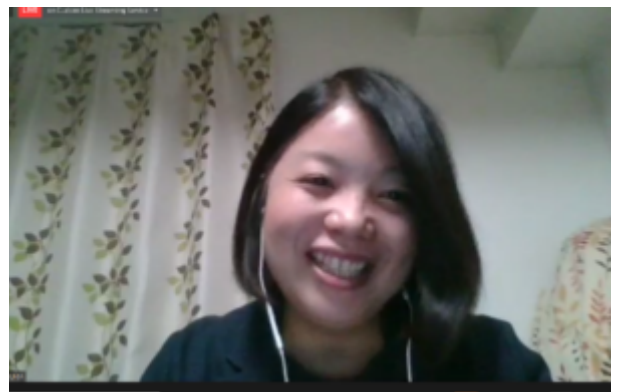
Au cours de la session de discussions ouvertes, le président de séance du Secrétariat de l'AI-CD, les représentants du FEM et les participants ont discuté de la manière dont les pays et les institutions pouvaient aborder le FEM et s'impliquer dans le prochain FEM-8. Le **représentant du FEM**, Mr. Ibrahima Sow, a expliqué les étapes à suivre pour postuler aux programmes-cadres, tout en encourageant les pays à participer activement à l'exercice de programmation nationale, qui est organisé pendant la préparation du FEM-8. En outre, l'initiative ambitieuse de la Grande muraille verte a été brièvement discutée en mettant l'accent sur ses divers objectifs et ses multiples parties prenantes.

(5) Séance de clôture



M. Michael Mukolwe, Centre régional
AI-CD pour la Corne de l'Afrique

En guise de synthèse et pour aller de l'avant, le **KEFRI** et le **Secrétariat de l'AI-CD** ont résumé les actions à entreprendre par les parties prenantes de l'AI-CD en fonction des trois piliers de l'AI-CD. Ils ont également partagé les événements importants à venir pour l'AI-CD tels que la TICAD 8 de 2022.



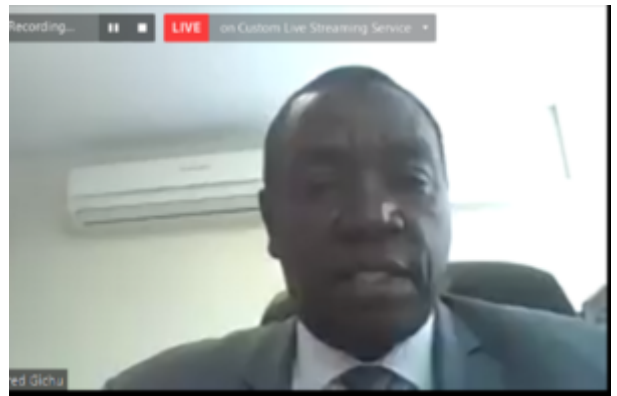
Mme. Mari Miura,
Siège de la JICA / Secrétariat de l'AI-CD



En ce qui concerne la voie à suivre, M. Takahiro Ikenoue, du **Département de l'environnement mondial du siège de la JICA**, a salué les réalisations remarquables des pays membres et a encouragé les parties prenantes à redoubler d'efforts pour promouvoir l'accès au financement.

M. Takahiro Ikenoue, Département de
l'Environnement mondial, siège de la JICA

Enfin, M. Alfred Gichu, **chef de la Direction de la conservation des forêts du MoEF**, a prononcé le mot de la fin au nom du secrétaire principal du ministère en saluant les progrès de l'initiative et en demandant à ce que les activités de lutte contre la désertification soient intensifiées en s'appuyant sur les bases solides créées lors de l'AI-CD.



M. Alfred Gichu,
Chef de la Direction de la Conservation des Forêts,
MoEF



Co-organizers



Partners



Contact du secrétariat Tél. +81-3-4521-0142 E-mail. info@aicd-africa.org

Les opinions ou les points de vue exprimés dans ce site web ne reflètent pas nécessairement la politique ou position officielle du AI-CD.
Copyright AI-CD Tous droits réservés.

Programme

African Initiative for Combating Desertification Conference for Sahel

Theme: Sharing Experiences on Impacts from Networking, Knowledge Sharing and Access to Finance

Date: 15th March, 2022

Virtual Conference

Time (GMT)	Activities	Facilitator
Session I: Opening Ceremony <i>[Chair: MEDD, Senegal (Secretary General)]</i>		
09.00-09.15	• Conference objectives and programme overview	Sahel Hub
09.15-09.25	• Speech by Representative of Embassy of Japan in Senegal or Chief Representative, JICA Senegal Office	EoJ / JICA
09.25-09.40	• Opening Speech by Representative of MEDD	MEDD
09.40-9.50	• Group photo (screen shot)	AI-CD Secretariat
9.50-10.10	Tea Break	
Session II: Progress and Achievement of AI-CD in the Sahel Region and Horn of Africa <i>[Chair: MEDD, Senegal (Colonel Baidy Ba) & AI-CD Secretariat (Colonel Dia)]</i>		
10.10-10.20	Progress and achievements as knowledge sharing	CILSS
10.20-10.30	Progress and achievements in Sahel Region from 2016-2021	Sahel Hub (Senegal)
10.30-10.40	Progress and achievements in Horn of Africa Region from 2016-2021	HoA Hub (Kenya)
10.40-10.55	Progress and achievements of AI-CD cross regional activities from 2016-2021	AI-CD Secretariat
10.55-11.10	Q&A	All Participants
Session III: Progress and achievements of AI-CD by member countries <i>[Chair : Senegal Focal Point (Colonel Baba Ba) ; Rapporteurs - MEDD]</i>		
11.10-11.50 11.50-12.05	(10 min per presentation) • Member countries: Burkina Faso, Cameroon, Mali, Mauritania, • Q&A (15 minutes)	Focal Points Participants
12.05-12.45 12.45-13.00	(10 min per presentation) • Member countries: Niger, Nigeria, Chad, Senegal • Q&A (15 minutes)	Focal Points Participants
13.00-13.10	Break	

Time (GMT)	Activities	Facilitator
Session IV: Opportunities for AI-CD countries to accelerate efforts for combating desertification to strengthen resilience to climate change and for accessing to finance. [Chair : AI-CD Secretariat (Mr. Yasuo Izumi) ; Rapporteurs : MEDD]		
*The aim of the session: To discuss ways to: 1) strengthen the network further among FPs, AI-CD Partners, and Development Partners, and 2) enhance synergies and collaboration among relevant initiatives / programmes for AI-CD countries to accelerate countries' efforts for combating desertification by strengthening networks, sharing knowledge, and accessing to finance, and		
13.10-13.20	(5 min per representatives) Presentation on the key topics related to especially AI-CD countries by GEF and AU *Key topics: -For GEF- <i>"Introducing access to finance opportunity (e.g., GEF7 and 8)"</i> -For AU- <i>"Introducing funding opportunity from AU-GGW Initiative"</i>	GEF and AU
13.20-13.40	(5 min per representatives) Brief comment on the key topics by AI-CD Partners, and Development Partners (e.g., UNCCD, CILSS, FAO, GEF, AfDB, AU, UNEP, WB) *Key topics: -For all AI-CD Partners and Development Partners- <i>"What opportunities can AI-CD countries have to continue their efforts in building networks, knowledge sharing and access to finance?"</i>	AI-CD Partners and Development Partners
13.40-14.05	Open discussion among all participants especially from FPs *Key topics: -For Focal Points- <i>"How AI-CD countries can continue their efforts considering the comments from AI-CD Partners and Development Partners"</i>	AI-CD Partners, Development Partners, FPs, and other participants
Session V: Closing [Chair : MEDD, Senegal (Representative of the Ministry)]		
14.05-14.35	<ul style="list-style-type: none"> • Synthesis and way forward (Senegal Hub → AI-CD Secretariat) • Closing remarks (Global Environment Department, JICA Headquarters) • Closing remarks (MEDD (Representative of the Ministry)) 	Senegal Hub/ AI-CD
14.35-14.40		JICA Headquarters
14.40-14.50		MEDD

Abbreviations

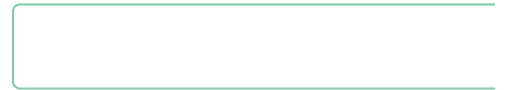
AI-CD	African Initiative for Combating Desertification
EoJ	Embassy of Japan
FP	Focal Point
HoA	Horn of Africa
JICA	Japan International Cooperation Agency
KEFRI	Kenya Forestry Research Institute
MEDD	Ministry of Environment and Sustainable Development-Senegal
Q&A	Question and Answer
GMT	Greenwich Mean Time

**POUR LE FORUM RÉGIONAL FINAL POUR LE SAHEL
AU
INITIATIVE AFRICAINE DE LUTTE CONTRE LA DESERTIFICATION
POUR RENFORCER LA RESILIENCE AUX CHANGEMENTS CLIMATIQUES
DANS LE SAHEL ET LA CORNE DE L'AFRIQUE (AI-CD)**

Heure (GMT)	Activités	Facilitateur
Séance I : Cérémonie d'ouverture <i>[Président : Secrétaire général (provisoire)]</i>		
09.00-09h15	• Objectifs de la conférence et Aperçu du programme	Hub Sahel
09.15-09.25	• Discours du représentant de l'ambassade du Japon au Sénégal ou du représentant en chef du bureau de la JICA au Sénégal	AdJ / JICA
9.25-9.140	• Discours d'ouverture du représentant du MEDD	MEDD
9.40-9.50	• Photo de groupe (capture d'écran)	Secrétariat AI-CD
9.50-10.10	Pause-café	
Session II : Progrès et réalisations de l'AI-CD dans la région du Sahel et la Corne de l'Afrique <i>[Président : Colonel Baidy Ba & Colonel Dia (provisoire)]</i>		
10.10 -10.20	Progrès et réalisations en matière de partage de connaissances de 2016 à 2021	CILSS
10.20-10.30	Progrès et réalisations dans la région du Sahe de 2016-2021	Hub Sahel (Sénégal)
10.30-10.40	Progrès et réalisations dans la région de la Corne de l'Afrique	Hub CA (Kenya)
10.40-10.55	Progrès et réalisations des activités interrégionales AI-CD de 2016 à 2021	Secrétariat AI-CD
10.55-11.10	Questions et réponses	Tous les participants
Session III : Progrès et réalisations de l'AI-CD par les pays membres <i>[Président : Point Focal Sénégal Colonel Baba Ba ; Rapporteurs - MEDD]</i>		
11.10-11.50	(10 min par présentation) • Pays membres : Burkina Faso, Cameroun, Mali, Mauritanie,	Points focaux
11.45-13.00	• Questions-réponses (15 minutes)	participants
13.00-12.45 12.45-13.00	(10 min par présentation) • Pays membres : Niger, Nigéria, Tchad, Sénégal • Questions-réponses (15 minutes)	Points focaux participants
13.00-13.10	Pause	
Séance IV : Opportunités pour les pays AI-CD d'accélérer les efforts de lutte contre la désertification afin de renforcer la résilience au changement climatique et d'accéder au financement. <i>[Président : Secrétariat AI-CD ; Rapporteurs : MEDD]</i>		

<p>* Le but de la séance :</p> <p>Pour discuter des moyens de :</p> <p>1) renforcer davantage le réseau entre les PF, les partenaires AI-CD et les partenaires de développement, et</p> <p>2) renforcer les synergies et la collaboration entre les initiatives/programmes pertinents pour les pays AI-CD afin d'accélérer les efforts des pays pour lutter contre la désertification en renforçant les réseaux, en partageant les connaissances et en accédant au financement, et</p>		
13.10-13.20	<p>(5 min pzar représentant)</p> <p>Presentation sur les sujets-clé liés particulièrement aux pays AI-CD par le feM et UA</p> <p>Sujets-clé</p> <ul style="list-style-type: none"> - Pour FEM “Introduction sur une opportunity d'accès au financement (Par exemple FEM 7 et 8) - Pour UA <p>Introduction d'un opportunity de financement issue de l'Initiative UA-GMV</p>	FEM, UA
13.20-13.40	<p>(5 min par représentant)</p> <p>Bref commentaire sur la question clé par les partenaires AI-CD et les partenaires au développement (par exemple, UNCCD, CILSS, FAO, FEM, BAD, UA, PNUE, BM)</p> <p>* Sujets clés :</p> <p>-Pour tous les partenaires AI-CD et les partenaires au développement-</p> <p>« Quelles opportunités les pays AI-CD peuvent-ils avoir pour poursuivre leurs efforts dans le réseautage, le partage des connaissances et l'accès au financement ? »</p>	Partenaires AI-CD et Partenaires au développement
13.40-14.05	<p>Discussion ouverte entre tous les participants, en particulier entre points focaux PF, les partenaires AI-CD, les partenaires au Développement et les autres participants</p> <p>-Sujet clé pour les points focaux</p> <p>“Comment les pays AI-CD peuvent-ils continuer leurs efforts en prenant en compte les avis des partenaires de l'AI6CD et ceux des partenaires au développement “</p>	Partenaires AI-CD, partenaires au développement, PF et autres participants
<p>Séance V : Clôture [Président : MEDD(Représentant du Ministère)]</p>		

14.05-14.35	<ul style="list-style-type: none">• Synthèse et marche à suivre (Hub Sénégal → Secrétariat AI-CD)	Hub Sénégal / AI-CD
14.35-14.40	<ul style="list-style-type: none">• Remarques de clôture (Département de l'environnement mondial, siège de la JICA)	JICA Siège
14.40-14.50	<ul style="list-style-type: none">• Remarques de clôture (MEDD (Représentant du Ministère))	MEDD



AI-CD

African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to
Climate Change in the Sahel and the Horn of Africa

[English](#) / [Français](#)

ABOUT US

EVENT

GOOD PRACTICES

WORLDWIDE PROJECTS

VOICES FROM THE FIELD

JAPAN'S COOPERATIONS

KNOWLEDGE CENTRE

KNOWLEDGE SHARED BY INTERNATIONAL RESEARCH INSTITUTES

TECHNICAL MATERIALS DEVELOPED BY JAPAN

ACCESS TO FUNDING

BASIC TIPS FOR FUNDING

USEFUL LINKS

KEY PRODUCTS

Final Regional Forum of AI-CD for Sahel Region -Member Countries' Great Progress in Achieving AI-CD Objectives-

15th March 2022

AI-CD Secretariat Support Team



OVERVIEW

The final conference for the Sahel region of the African Initiative for Combating Desertification (AI-CD) was conducted virtually on 15 March 2022, chaired by the Ministry of Environment and Sustainable Development (MEDD), Senegal as the Sahel regional hub. In attendance were approximately 40 participants composed of the AI-CD Focal Points (FPs) or their representatives from Burkina Faso, Cameroon, Chad, Mali, Mauritania, Niger, Nigeria, and Senegal, Kenya as the Horn of Africa regional hub, the Embassy of Japan in Senegal, the Japan International Cooperation Agency (JICA), and international agencies, namely: African Union (AU), African Development Bank (AfDB), Global Environment Facility (GEF), Permanent Interstate Committee for Drought Control in the Sahel (CILSS), Food and Agriculture Organization (FAO), and SOS Sahel.

During this event, the significant progress and achievements of AI-CD activities were highlighted from the perspective of Networking, Knowledge Sharing, and Access to Finance while the prospects and challenges for future activities were discussed among the participants. Finally, concrete steps for the way forward were presented.

HIGHLIGHTS OF THE FORUM

(1) Opening Session

First, Mr. Baba Ba, representing **the AI-CD Regional Hub for the Sahel region**, presented briefly the day's programme which consisted of discussions among FPs and international agencies. He also noted that the forum was expected to be an occasion to showcase the progress as well as to draw upon a roadmap for a way forward.



Mr. Baba BA,
Acting Focal Point of Senegal

Next, His Excellency Osamu Izawa, **Ambassador of Japan to Senegal**, delivered his greetings and expressed immense pleasure to attend the forum. During his address, he highlighted that this event would not be possible without the close collaboration of different entities. He ended his greetings by giving warmest congratulations to MEDD, JICA, development partners, and FPs.



His Excellency Osamu Izawa,
Ambassador of Japan to Senegal

Mr. Baba Ba then delivered an opening speech on behalf of the **Ministry of Environment and Sustainable Development (MEDD)**. He recalled the AI-CD background, especially its inclusive approach that adopts Networking, Knowledge Sharing of Good Practices, and improving access to finance. He ended with warmest thankful expression to all the participants and declared open the forum.

(2) Progress and Achievements of AI-CD in the Sahel Region and HoA

At the beginning of the session, Mr. Sangare from **Sahel Institute (INSAH)** and a **representative of CILSS** reviewed its contribution within the AI-CD framework to disseminate knowledge among member countries. Also, he illustrated the missions of CILSS by presenting the following tools: GEO-AOS Tool for knowledge sharing, and Regional Platform Tool (Digital Library) for capitalising and monitoring best practices. Then, Mr. Hubert, Executive Secretary

and also a **representative of CILSS**, informed the availability of a digital library and suggested working in synergy with relevant actors.

Ms. Josephine Wanjiku, a member of **the AI-CD Regional Hub for the HoA region**, presented the similarities of the member countries in terms of dryness and land degradation, as well as the progress and achievements of AI-CD since 2016 in the region through conducting workshops, creating the AI-CD Guideline on Combating Desertification and brochures, sharing good practices through a [webpage](#) on KEFRI's website, among others. She also highlighted the consistent network among the HoA counties.



Ms. Josephine Wanjiku
AI-CD Regional Hub for the HoA
region

After that, Mr. Baba Ba explained the AI-CD achievements of the Sahel region, namely: the execution of multiple forums, development of project concept notes by the participating countries, and producing two short films on desertification in Mali and Nigeria. Finally, the achievement on the acquisition of FAO fund by Mali was reported, and the way forward to utilise the outcomes of this initiative was summarised.

The AI-CD Secretariat presented the inter-regional achievements through various activities, including regional forums, a webinar on 1 March 2022 organised in collaboration with CILSS, the development of short films, training sessions for capacity building, and so on. The Secretariat also presented the progress of access to finance with the example of Mali's project as mentioned by Mr. Baba Ba. Finally, the Secretariat expressed his appreciation to development partners and all stakeholders, especially the FPs for their tremendous efforts and gave his recommendation to promote further activities.

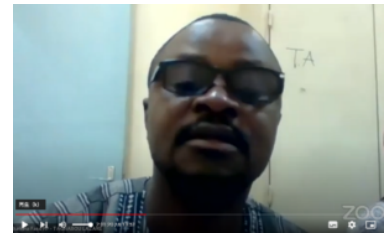
(3) Progress and Achievements of AI-CD Member Countries

Mr. Kaba Diallo, the **FP of Mali**, presented the achievements of the country within the framework of AI-CD, emphasising the development of a short film that aims to contribute to the visibility of AI-CD activities and foster access to finance. Also, he reported the approval by FAO of the project application of a Malian NGO and shared the setup of the AI-CD support group aiming to encourage efforts for sustainable development.



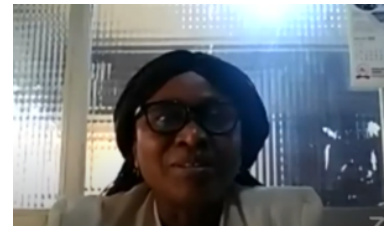
Mr. Kaba Diallo,
Focal Point of Mali

Mr. Dambatia Lazare Tagnabou, the **FP of Burkina Faso**, shared the outcome of a scientific forum to work in synergy within a national platform in which all information on land degradation is shared. He also presented other activities such as a communal land degradation analysis, a radio broadcast campaign, and an elaboration of two concept notes that were transmitted to development partners for funding. Sharing good practices and fostering permanent actors for land restoration were also presented as ways forward.



Mr. Dambatia Lazare Tagnabou,
Focal Point of Burkina Faso

The presentation by Ms. Regina O. Nwaneri, the representative of the **FP of Nigeria**, illustrated successful outcomes, especially the promotion of knowledge sharing of good practices and empowerment for land degradation management, through numerous workshops in the country which covered various themes such as land degradation, desertification, and dry-land resources. Also, she mentioned that AI-CD has assisted in raising people's awareness on land degradation and expressed her appreciation to JICA.



Ms Regina O. Nwaneri,
Representative of the Focal Point
of Nigeria

Mr. Maihouloum Gaou Killadje, the **FP of Chad**, focused his presentation on the achievement of developing a draft Concept Note for the project on Land Restoration of Terrestrial Ecosystems. He also stressed the outcomes of knowledge sharing and networking under the AI-CD by showing an example of conducting field workshop. Finally, planning activities such as conducting training and creating inventory on land degradation were illustrated.

Mr. Baba Ba, the **FP of Senegal**, firstly appreciated participation from different stakeholders in the past regional forums. Following this, he expressed that Senegal has acquired numerous project experience within the country under the initiative and had involvement and contributions of local population and associations. The way forward, including an adaptation of technologies and elaboration of inclusive approach, was also shared.



Mr. Baba BA,
Acting Focal Point of Senegal

The presentation by Mr. David Payang, the **FP of Cameroon**, showed the country's efforts to combat desertification and promote land restoration through participation in different regional forums, conducting workshops, planting trees, as well as collaborating with international

agencies like CILSS and JICA that provide needed trainings. He also mentioned an awareness-raising activity for the general public as a way forward.



Mr. David Payang,
Focal Point of Cameroon

Due to technical problems, the FPs of Niger and Mauritania were not able to give their presentations. The Secretariat informed that their presentation materials will be shared with the participants.

(4) Opportunities for AI-CD Countries to Accelerate Efforts for Combating Desertification to Strengthen Climate Change Resilience and for Accessing Finance

Mr. Jean-Marc Sinnassamy, the representative of the **Global Environment Facility (GEF)**, delivered a presentation on the current situation of GEF and highlighted the pathway for a fair world on carbon use suggested by the principal funding scheme (GEF-8). Additionally, he introduced a conceptual framework and financial mechanism based on GEF's integrated programmes including reduction of land degradation.

Mr. Elvis Paul Tangem, the representative of **the African Union (AU)**, introduced funding opportunities in AU within the framework of the Great Green Wall (GGW) that emphasises forest land implementation. He explained the requirement of a monitoring system on the costs and benefits of the investment, and financing mechanisms for forest land restoration. The vision and role of the GGW initiative were finally shared.



Mr. Elvis Paul Nfor Tangem,
Coordinator for Great Green Wall
Initiative of the African Union (AU)

Mr. Rivaldo Kpadonou, the representative of the **African Development Bank (AfDB)**, commented on the AfDB's role as a leading financial institution for programme implementation related to desertification, as well as its strategy to invest in the related themes.



Mr. Rivaldo Kpadonou of the
African Development Bank (AfDB)

Mr. Hubert, the representative of **CILSS**, also gave a comment on close collaboration between CILSS and AfDB as well as the current situation of AI-CD that has the resources on

techniques and strategies to enable collaborative work with financing institutions.

Following the presentation and comments from several development partners, an open discussion was held. In this session, the significance of the synergistic approach in order to have access to finance was discussed among participants.

(5) Closing Session

Mr. Baba Ba summarised the actions to be taken by AI-CD stakeholders, according to the three pillars of AI-CD, as the ways forward. The Secretary also informed the participants about upcoming important events for AI-CD in 2022 such as COP15 and TICAD 8.

Mr. Takahiro Ikenoue, from **Global Environment Department of JICA Headquarters**, expressed his deepest gratitude to all stakeholders for enabling the forum to achieve such outcomes.



Mr. Takahiro Ikenoue of the
Global Environment Department,
JICA HQ

Finally, Mr. Baba Ba, on behalf of the MEDD, made the closing remark by appreciating the participation of all stakeholders.



Contact the Secretariat Tel: +81-3-4521-0142 Email: info@aicd-africa.org

Views or opinions expressed in this website do not necessarily reflect the official policy or position of the AI-CD.



AI-CD

Initiative africaine pour lutter contre la désertification en vue de renforcer la résilience face au changement climatique dans le Sahel et la Corne de l'Afrique

[English](#) / [Français](#)

QUI SOMMES-NOUS?

ÉVÉNEMENTS

BONNES PRACTIQUES

PROJETS MONDIAUX

VOIX DU TERRAIN

COOPÉRATIONS JAPONAISES

CENTRE DE CONNAISSANCE

CONNAISSANCES PARTAGÉES PAR LES INSTITUTS DE RECHERCHE INTERNATIONAUX

MATÉRIAUX TECHNIQUES DÉVELOPPÉS PAR LE JAPON

ACCÈS AU FINANCEMENT

CONSEILS DE BASE POUR LE FINANCEMENT

LIENS UTILES

PRODUITS CLÉS

Forum régional final de l'AI-CD pour la région du Sahel – Les progrès importants réalisés par les pays membres dans la réalisation des objectifs de l'AI-CD –

Le 15 mars 2022

Équipe de soutien du Secrétariat de l'AI-CD



VUE D'ENSEMBL

La conférence finale pour la région du Sahel de l'Initiative africaine pour lutter contre la désertification (AI-CD) s'est déroulée en ligne le 15 mars 2022, sous la présidence du ministère de l'Environnement et du Développement Durable (MEDD) du Sénégal, en tant que centre régional du Sahel. Étaient présents environ 40 participants composés des Points Focaux (PF) de l'AI-CD ou de leurs représentants du Burkina Faso, du Cameroun, du Tchad, du Mali, de la Mauritanie, du Niger, du Nigeria, et du Sénégal, du Kenya en tant que centre régional de la Corne de l'Afrique, de l'ambassade du Japon au Sénégal, de l'Agence japonaise de coopération internationale (JICA) et des agences internationales, à savoir : l'Union africaine (UA), la Banque africaine de développement (BAD), le Fonds pour l'environnement mondial (FEM), le Comité permanent inter-États de lutte contre la sécheresse au Sahel (CILSS), l'Organisation pour l'alimentation et l'agriculture (FAO) et SOS Sahel.

Au cours de cet événement, les accomplissements et les réalisations significatifs des activités de l'AI-CD ont été mis en évidence du point de vue du réseautage, du partage des connaissances et de l'accès au financement, tandis que les perspectives et les défis des activités futures ont été discutés entre les participants. Enfin, des mesures concrètes pour aller de l'avant ont été présentées.

POINTS MARQUANTS DU FORUM

(1) Séance d'ouverture

Tout d'abord, M. Baba Ba, **représentant du centre régional de l'AI-CD pour la région du Sahel**, a présenté brièvement le programme de la journée qui consistait en des discussions entre les points focaux et les agences internationales. Il a également noté que le forum devait être l'occasion de montrer les progrès réalisés et d'établir une feuille de route pour l'avenir.



M. Baba Ba,
Point focal par intérim du

Ensuite, Son Excellence M. Osamu Izawa, **ambassadeur du Japon au Sénégal**, a présenté ses salutations et a exprimé son immense plaisir de participer au forum. Au cours de son allocution, il a souligné que cet événement n'aurait pas été possible sans l'étroite collaboration des différentes entités. Il a terminé ses salutations en adressant ses plus chaleureuses félicitations au MEDD, à la JICA, aux partenaires de développement et aux points focaux.



Son Excellence M. Osamu Izawa,
Ambassadeur du Japon au Sénégal

M. Baba Ba a ensuite prononcé un discours d'ouverture au nom du **ministère de l'Environnement et du Développement Durable (MEDD)**. Il a rappelé le contexte de l'AI-CD, en particulier son approche inclusive qui adopte le réseautage, le partage des connaissances des bonnes pratiques et l'amélioration de l'accès au financement. Il a terminé en exprimant ses remerciements les plus chaleureux à tous les participants et a déclaré ouvert le forum.

(2) Progrès et réalisations de l'AI-CD dans la région du Sahel et la Corne de l'Afrique

Au début de la session, M. Sangare de l'**Institut du Sahel (INSAH)** et **représentant du CILSS** a passé en revue sa contribution dans le cadre de l'AI-CD à la dissémination des

connaissances entre les pays membres. Il a également illustré les missions du CILSS en présentant les outils suivants : l'outil GEO-AOS pour le partage des connaissances, et l'outil de la plateforme régionale (bibliothèque numérique) pour la capitalisation et le suivi des meilleures pratiques. Ensuite, M. Hubert, secrétaire exécutif et également **représentant du CILSS**, a informé de la disponibilité d'une bibliothèque numérique et a suggéré de travailler en synergie avec les acteurs concernés.

Mme Josephine Wanjiku, membre du **centre régional de l'AI-CD pour la région de la Corne de l'Afrique**, a présenté les similitudes des pays membres en matière de sécheresse et de dégradation des terres, ainsi que les progrès et les réalisations de l'AI-CD depuis 2016 dans la région à travers notamment la conduite d'ateliers, la création du manuel de l'AI-CD sur la lutte contre la désertification et de brochures, et le partage de bonnes pratiques par le biais d'une [page Web](#) sur le site Web du KEFRI. Elle a également souligné la cohérence du réseau entre les pays de la Corne de l'Afrique.



Mme Josephine Wanjiku
Centre régional de l'AI-CD pour la
région

Ensuite, M. Baba Ba a expliqué les réalisations de l'AI-CD dans la région du Sahel, à savoir : l'organisation de plusieurs forums, l'élaboration de notes conceptuelles de projet par les pays participants et la production de deux courts métrages sur la désertification au Mali et au Nigeria. Enfin, il a fait état de l'acquisition d'un fonds de la FAO par le Mali et a résumé la marche à suivre pour exploiter les résultats de cette initiative.

Le secrétariat de l'AI-CD a présenté les réalisations interrégionales à travers diverses activités, notamment des forums régionaux, un webinaire le 1er mars 2022 organisé en collaboration avec le CILSS, le développement de courts métrages, des sessions de formation pour le renforcement des capacités, etc. Le secrétariat a également présenté les progrès au niveau de l'accès au financement avec l'exemple du projet du Mali comme mentionné par M. Baba Ba. Enfin, le secrétariat a remercié les partenaires de développement et toutes les parties prenantes, en particulier les points focaux, pour leurs efforts considérables et a recommandé d'encourager de nouvelles activités.

(3) Progrès et réalisations des pays membres de l'AI-CD

M. Kaba Diallo, le **point focal du Mali**, a présenté les réalisations du pays dans le cadre de l'AI-CD, en mettant l'accent sur la production d'un court métrage qui vise à contribuer à la visibilité des activités de l'AI-CD et à favoriser l'accès au financement. Il a également signalé

l'approbation par la FAO de la demande de projet d'une ONG malienne et a fait part de la mise en place du groupe de soutien de l'AI-CD visant à encourager les efforts en faveur du développement durable.

M. Dambatia Lazare Tagnabou, **le point focal du Burkina Faso**, a partagé les résultats d'un forum scientifique pour travailler en synergie au sein d'une plateforme nationale dans laquelle toutes les



M. Dambatia Lazare Tagnabou,
Point focal du Burkina Faso

informations sur la dégradation des terres sont partagées. Il a également présenté d'autres activités telles qu'une analyse communale de la dégradation des terres, une campagne de diffusion radiophonique et l'élaboration de deux notes conceptuelles qui ont été transmises aux partenaires de développement pour l'obtention de financements. Le partage des bonnes pratiques et la promotion d'acteurs permanents pour la restauration des terres ont également été présentés comme des moyens d'avancer.

La présentation de Mme Regina O. Nwaneri, représentante du **point focal du Nigeria**, a illustré les résultats positifs, en particulier la promotion du partage des connaissances sur les bonnes pratiques et l'autonomisation pour la gestion de la dégradation des terres, par le biais de nombreux ateliers dans le pays qui ont couvert divers thèmes tels que la dégradation des terres, la désertification et les ressources des terres sèches. Elle a également mentionné que l'AI-CD avait contribué à sensibiliser les gens à la dégradation des terres et a exprimé sa reconnaissance à la JICA.



Mme Regina O. Nwaneri,
Représentante du point focal du
Nigeria

M. Maihouloum Gaou Killadje, **le point focal du Tchad**, a axé sa présentation sur l'élaboration d'un projet de note conceptuelle pour le projet de restauration des écosystèmes terrestres. Il a également souligné les résultats du partage des connaissances et du réseautage dans le cadre de l'AI-CD en donnant l'exemple d'un atelier de terrain. Enfin, des activités de planification telles que l'organisation de formations et la création d'un inventaire de la dégradation des terres ont été illustrées.

M. Baba Ba, le **point focal du Sénégal**, a tout d'abord salué la participation des différentes parties prenantes aux forums régionaux précédents. Ensuite, il a expliqué que le Sénégal avait acquis de nombreuses expériences de projets dans le pays dans le cadre de l'initiative et avait bénéficié de l'implication et des contributions de la population locale et des associations. Il a également partagé la voie à suivre, y compris l'adaptation des technologies et l'élaboration d'une approche inclusive.



M. Baba Ba,
Point focal par intérim du

La présentation de M. David Payang, le **point focal du Cameroun**, a montré les efforts du pays pour combattre la désertification et promouvoir la restauration des terres en participant à différents forums régionaux, en organisant des ateliers, en plantant des arbres, ainsi qu'en collaborant avec des agences internationales comme le CILSS et la JICA qui fournissent les formations nécessaires. Il a également mentionné une activité de sensibilisation du grand public comme moyen d'avancer.



M. David Payang,
Point focal du Cameroun

En raison de problèmes techniques, les points focaux du Niger et de la Mauritanie n'ont pas été en mesure de faire leur présentation. Le secrétariat a fait savoir que leur matériel de présentation sera partagé avec les participants.

(4) Possibilités pour les pays de l'AI-CD d'accélérer les efforts de lutte contre la désertification afin de renforcer la résilience au changement climatique et d'accéder aux financements

M. Jean-Marc Sinnassamy, représentant du **Fonds pour l'environnement mondial (FEM)**, a fait une présentation sur la situation actuelle du FEM et a mis en évidence la voie pour un monde équitable sur l'utilisation du carbone suggérée par le schéma de financement principal (FEM-8). En outre, il a présenté un cadre conceptuel et un mécanisme de financement basé sur les programmes intégrés du FEM, y compris la réduction de la dégradation des terres.

M. Elvis Paul Tangem, représentant de l'**Union africaine (UA)**, a présenté les opportunités de financement de l'UA dans le cadre de la Grande Muraille Verte (GMV) qui met l'accent sur la mise en place de terres forestières. Il a expliqué la nécessité d'un système de suivi des coûts et des bénéfices de l'investissement, ainsi que les mécanismes de financement



M. Elvis Paul Nfor Tangem,
Coordinateur de l'initiative de la

pour la restauration des terres forestières. Pour finir, il a partagé la vision et le rôle de l'initiative de la Grande Muraille Verte.

M. Rivaldo Kpadonou, représentant de la **Banque africaine de développement (BAD)**, a commenté le rôle de la BAD en tant que principale institution financière pour la mise en œuvre de programmes liés à la désertification, ainsi que sa stratégie d'investissement dans les thèmes connexes.



M. Rivaldo Kpadonou de la
Banque africaine de
développement (BAD)

M. Hubert, représentant du **CILSS**, a également fait un commentaire sur l'étroite collaboration entre le CILSS et la BAD, ainsi que sur la situation actuelle de l'AI-CD qui dispose de ressources sur les techniques et les stratégies permettant de travailler en collaboration avec les institutions de financement.

Après la présentation et les commentaires de plusieurs partenaires de développement, une discussion ouverte a eu lieu. Au cours de cette session, les participants ont discuté de l'importance de l'approche synergique afin d'accéder aux financements.

(5) Séance de clôture

M. Baba Ba a résumé les actions à entreprendre par les parties prenantes de l'AI-CD, selon les trois piliers de l'AI-CD, pour aller de l'avant. Le secrétaire a également informé les participants des événements importants à venir pour l'AI-CD en 2022, tels que la COP15 et la TICAD 8.

M. Takahiro Ikenoue, du **Département de l'environnement mondial du siège de la JICA**, a exprimé sa profonde gratitude à toutes les parties prenantes pour avoir permis au forum d'atteindre de tels résultats.



M. Takahiro Ikenoue,
Département de l'environnement
mondial,

Enfin, M. Baba Ba, au nom du MEDD, a prononcé le mot de fin en saluant la participation de toutes les parties prenantes.



Co-organizers



Partners



Contact du secrétariat Tél. +81-3-4521-0142 E-mail. info@aicd-africa.org

Les opinions ou les points de vue exprimés dans ce site web ne reflètent pas nécessairement la politique ou position officielle du AI-CD.

Copyright AI-CD Tous droits réservés.

UNCCD COP15 Side Event



African Initiative for Combating Desertification

to Strengthen Resilience to Climate Change in the Sahel and Horn of Africa:

**- Showcasing on-the-ground practices to combat desertification
toward a prosperous and resilient Africa -**

**Wednesday, 11 May 2022, 18:15-19:45,
@MET-11, Sofitel Abidjan Hôtel Ivoire**

- **Co-organizers**

Ministry of Environment and Forestry of Kenya

Ministry of Environment and Sustainable Development of Senegal

Japan International Cooperation Agency (JICA)

United Nations Convention to Combat Desertification (UNCCD)

- **Program**

* Working languages: English/French

Time	Description	Speaker
Moderator: Dr. Lucy Ng'ang'a, Deputy Director, Multilateral Environment Agreements, Ministry of Environment and Forestry, Kenya		
18:15-18:21	Opening Address	Mr. Keriako Tobiko, CBS, Cabinet Secretary, Ministry of Environment and Forestry of Kenya (TBD)
18:21-18:27	Opening Address	Mr. Baidy Ba, Ministry of the Environment and Sustainable Development, Senegal
18:27-18:33	Key Note Speech	Mr. Ibrahim Thiaw, Executive Secretary, UNCCD (TBD)
18:33-18:38	Key Note Speech	Mr. Seiichi Onodera, Senior Vice President, JICA (via a video message)
18:38-18:58	AI-CD Updates - Ms. Josephine Wanjiku, Senior Research Scientist, KEFRI, Kenya - Mr. Baba Ba, Coordinator of Fouta Djallon Project, Ministry of Environment and Sustainable Development, Senegal - Ms. Mari Miura, Senior Deputy Director, Natural Environment Team 2, Forestry and Nature Conservation Group, JICA Global Environment Dept.	
18:58-19:40	Panel Discussion: Accelerating efforts to combat desertification and tackle the impacts of drought towards 2030 and beyond. Moderator: Mr. Babacar Dia, AI-CD Secretariat Panelists: - Dr. George Louise Tokporo Tadu, Senior Research Scientist, Head of Root and Horticultural Crops Research, Ministry of Agriculture and Food Security, South Sudan - Mr. Kaba Diallo, Engineer of Water and Forestry, Chief of Section of Combating Desertification, National Directorate of Water and Forests, Ministry of Environment, Sanitation and Sustainable Development, Mali - Dr. Issa Garba, Agro pastoralist Expert, Responsible of the Water management and Desertification Control Division, Research and Information Department, AGRHYMET Regional Centre/ Permanent Interstate Committee for Drought Control in the Sahel (CILSS) - Mr. Yuichi Yanaka, Tromso Co., Ltd. (Japanese private firm) (via a video message) - Mr. Yasuo Izumi, Project manager, AI-CD Secretariat	
19:40-19:45	Closing	

Session Summary

Program and thematic focus

Since the launch of “**African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to Climate Change in the Sahel and Horn of Africa**” or **AI-CD** at TICAD 6 in 2016 aiming to promote measures for combating desertification, significant progress has been made on the initiative with the ownership of the African countries and supports from partner organizations. In this side event, in consideration of the context of the UN Decade for Ecosystem Restoration and the theme of the COP15 “Land. Life. Legacy: from Scarcity to Prosperity”, on-the-ground practices for combating desertification will be introduced by AI-CD participating countries. Also, outcomes of AI-CD to today through its focused activities; **networking, knowledge sharing** and **access to finance** will be shared. Finally, ways to accelerate efforts to combat desertification and tackling the impacts of drought will be discussed.

Objectives

- To share useful knowledge and on-the-ground practice in Africa as well as outcomes of AI-CD
- To discuss the way forward for promoting measures and partnerships to address desertification and climate change effectively

Key Words: Ecosystem restoration, SDGs, knowledge-sharing, LDN, on-the-ground practices, participatory approach

Structure of the Program

- **Key note speeches** from representatives of Co-organizers of AI-CD
- **Introduction to AI-CD**, including the context of its establishment, challenges that the countries have faced such as drought, desertification, land degradation, and climate change, and the achievement of the initiative.
- **Panel discussion** includes 1) presentation on on-the-ground good practices (i.e. useful knowledge and techniques, experience and lessons learnt) relating to combating desertification and 2) discussions. Discussions will highlight the way to accelerate efforts to combat desertification and tackle the impacts of drought towards the target year of SDGs and UN Decade on Ecosystem Restoration; 2030. The expected topics are; inclusive and participatory governance, better knowledge sharing and its adoption on the ground, improved on-the ground practices, effective finance mobilization, the role of the private sector, and global and multi-sector partnerships.

Potential contribution to COP15

The side event is expected to significantly contribute to the success of COP15 by showcasing the concrete sustainable land restoration practices and its monitoring activities taken by AI-CD partner countries. These include political commitment, inclusive and participatory governance; effective techniques, useful tools and innovative approach, knowledge sharing, capacity building to achieve SDGs through combatting desertification in particular target 15.3.

- **Contact the Secretariat** Email : info@aicd-africa.org



AI-CD

African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to Climate Change in the Sahel and the Horn of Africa

[English](#) / [Français](#)

ABOUT US

EVENT

GOOD PRACTICES

WORLDWIDE PROJECTS

VOICES FROM THE FIELD

JAPAN'S COOPERATIONS

KNOWLEDGE CENTRE

KNOWLEDGE SHARED BY INTERNATIONAL RESEARCH INSTITUTES

TECHNICAL MATERIALS DEVELOPED BY JAPAN

ACCESS TO FUNDING

BASIC TIPS FOR FUNDING

USEFUL LINKS

KEY PRODUCTS

AI-CD Side Event at UNCCD-COP 15 in Abidjan, Cote d'Ivoire -Showcasing on-the-ground practices to combat desertification toward a prosperous and resilient Africa-

Overview

A two-hour side event of the 15th Session of the Conference of the Parties of the United Nations Convention to Combat Desertification (UNCCD COP 15) was held in Abidjan, Cote d'Ivoire on 11 May 2022 hosted by the Japanese International Cooperation Agency (JICA), the Ministry of Environment and Forests (MEF) of Kenya, and the Ministry of Environment and Sustainable Development (MESD) of Senegal.

The event featured the AI-CD and attended by 70 participants from Africa and other countries, development partners, and universities. In consideration of the context of the UN Decade for Ecosystem Restoration and the theme of COP15, "Land. Life. Legacy: from Scarcity to Prosperity," on-the-ground practices for combating desertification were introduced by AI-CD participating countries. Also, achievements and challenges of AI-CD on its focused activities through the years were shared among participants, as well as topics on networking, knowledge sharing, and access to finance.

Collaboration with the private sector was suggested by speakers as one of the important solutions to combat desertification. Finally, the importance of acquiring international funding, such as through the Great Green Wall (GGW), by utilizing a participating country's assets developed through AI-CD was highlighted.

The achievements of AI-CD shared by speakers, such as guidelines and short films produced, are accessible from the website below.

<http://aicd-africa.org/key-products>



The panelists and moderator of the discussions at the side event
(From left, Dr. George Louise Tokporo Tadu, Dr. Issa Garba, Dr. Paul Ouedraogo, Mr. Babacar Dia, and
Mr. Kaba Diallo)

Highlights of the Event

SESSION 1

Session 1 started off by an opening address and keynote speech. Then, the speakers highlighted the importance of continuing collaboration with Financial and Technical Partners (FTP) and other stakeholders, and sharing achievements and challenges through AI-CD.



The speakers and the moderator of Session 1

(From left, Mr. Baidy Ba, Mr. Samson Toniok, and Dr. Lucy Ng'ang'a)

Dr. Lucy Ng'ang'a, Deputy Director of Multilateral Environment Agreements of the Ministry of Environment and Forestry (Kenya), who chaired this session, welcomed all the participants of the side event hosted by AI-CD.

Mr. Samson Toniok, Chief Executive Officer of NETFUND (National Environment Trust Fund) in Kenya, explained that the side event would provide a platform for AI-CD participating countries to share lessons, practical experiences, challenges, and opportunities.

He added that it would also offer a great platform to engage with various international Financial and Technical Partners (FTPs) and have a direct dialog for mobilisation of resources. Mr. Samson finally expressed the hope that after the side event, there will be continuity of the initiative's activities, application of lessons learned, and continuing collaboration with FTPs for sustainable advancement of African countries.

Mr. Baidy Ba, Director of Waters and Forests and AI-CD Focal Point (Senegal), emphasised that the success of the initiative requires the involvement and contribution of all the stakeholders, because the restoration of the degraded African ecosystems can only happen with a change in mentality to adopt sustainable solutions to satisfy people's needs for farmland, domestic energy, etc. He also mentioned that since AI-CD is ending, the side event is a crucial opportunity for the stakeholders to assess their AI-CD achievements and experiences, and eventually come up with future perspectives for the resilience of African ecosystems and communities to land degradation and climate change.

Mr. Seiichi Onodera, Senior Vice President of JICA Headquarters (Japan), via a video message reminded that the event was an opportunity for AI-CD participating countries and partner organisations to share useful knowledge, on-the-ground practices in Africa, as well as the outcomes of AI-CD, and then have exchange on how measures could be promoted to effectively address desertification and climate change. He finally expressed the wish that the outcome of the working session would pave the way for continuous collaboration towards a prosperous and resilient Africa, and ensured that JICA will continue its support.

SESSION 2

In this session, the AI-CD Hubs and Secretariats reported all achievements and challenges of AI-CD since 2016 and pointed out necessary steps as way forward.



The speakers and moderator of Session 2

(From left, Ms. Mari Miura, Mr. Baba BA, Ms. Josephine Wanjiku, and Dr. Lucy Ng'ang'a)

Ms. Josephine Wanjiku of AI-CD Regional Hub for HoA (Kenya) started the session by giving a brief discussion about AI-CD since its launching at the 6th Tokyo International Conference on African Development (TICAD VI) in 2016, until its conclusion planned to be held at TICAD 8 in August 2022. She then presented the progress of AI-CD within the HoA and the way forward as follows:

Achievements of Output 1 (Networking): She mentioned about five regional forums held since 2017 as the achievements of networking. In addition to these, two technical workshops were

held to train technical officers in 2017 and 2018.

Achievements of Output 2 (Knowledge Sharing): She mentioned two major publications, thanking all seven countries of the Horn of Africa for their contributions: a guideline and a book for combating desertification in the HoA (click the [link](#) to refer the publications). Brochures on good practices for combating desertification were produced and knowledge was also shared via the internet.

Achievement of Output 3 (Access to Finance): Project Concept Notes (PCNs) were developed and expected to transit to proposals for submission to targeted development partners. Participants were also assisted in identifying funding opportunities from development partners.

Way Forward: As the initiative is ending in August 2022, she proposed continuing the collaboration within the Horn of Africa and the Sahel region by establishing issue-based networks for knowledge sharing, and implementing capacity building based on a needs assessment in AI-CD participating countries and other Sub-Saharan African countries.

Mr. Baba BA of AI-CD Regional Hub for Sahel and Acting AI-CD Focal Point (Senegal) presented the achievements and challenges of AI-CD in Sahel region as follows:

Achievements and Challenges for Output 1 (Networking): He mentioned that one of the achievements of networking is the holding of five AI-CD Sahel regional forums since 2017. In addition to that, four countries (Mali, Senegal, Nigeria, and Burkina Faso) organised their national workshops to share the initiative's activities and purpose at a national level.

In terms of challenges, he cited problems on mechanism and communication strategies for a better involvement of women and youth, and the lack of willingness of local authorities to assume their technical roles and responsibilities concerning the AI-CD.

Achievements and Challenges for Output 2 (Knowledge Sharing): He mentioned the two short films produced in Nigeria and Mali highlighting the successful experiences of AI-CD in terms of sharing good practices; also the webinar organised in collaboration with CILSS[1] to share the best techniques and technologies for combating desertification. On the other hand, the challenges faced include the lack of mechanisms and strategies enabling rural communities to adopt and master the techniques and technologies for combating desertification.

[1] Permanent Interstate Committee for Drought Control in the Sahel (French: *Comité permanent inter-État de lutte contre la sécheresse au Sahel*, abbreviated as CILSS)

Achievements and Challenges of Output 3 (Access to Finance): He mentioned that during the second forum of AI-CD in the Sahel region, the project concept notes (PCNs) of the different

countries were presented to Technical and Financial Partners (TFPs). Each TFP made comments on the PCNs, which was followed by a presentation of their respective funding mechanisms. Following this, all the focal points met the FTPs to review the PCNs, which consequently were adapted to their requirements. At the end of this process, one Malian project was funded by FAO.

Way Forward: The Sahel Region plans to share the achievements of AI-CD at TICAD 8, aiming to maintain and deepen them in terms of networking with all the relevant stakeholders. Mr. Ba finally called on FTPs to support countries to reach out to the end-users who are generally not familiar with or do not have access to the internet.

Ms. Mari Miura, Senior Deputy Director of Global Environment Department, JICA Headquarters (Japan), mainly reviewed the key milestones of AI-CD, cross-regional achievements of AI-CD pillars, challenges faced, and the way forward for promoting effective measures and partnerships to address desertification and climate change. She mentioned the seven high-level side events organised using the opportunities provided by UNCCD COPs and TICADs, including the ongoing one at that time. She then presented the cross-regional progress report of AI-CD as follows:

Achievements of Output 1 (Networking): She explained that international AI-CD co-organisers and partners (JICA, UNCCD, FAO, CILSS, ICARDA, and GEF) and a number of development partners (Great Green Wall/AU, AfDB, UNDP, etc.) were engaged in the initiative.

Achievements of Output 2 (Knowledge Sharing): She said that online platforms, as well as regional forums, served the purpose of sharing knowledge, good practices, and country initiatives. All of these were documented as “HoA Guidelines and Case Study” and “Sahel Knowledge Policy Brief” with the contribution of AI-CD participating countries.

Achievements of Output 3 (Access to Finance): She mentioned that AI-CD itself is not associated with a specific financial mechanism. However, its role is to help partner countries have access to any available funding. She also cited JICA’s contribution as a bilateral donor.

Three training sessions were held in Japan and two others were held in an online manner due to restrictions posed by the COVID-19 pandemic. Moreover, JICA supported some participating countries to implement their action plans on the ground.

She went on to inform that the challenges faced included matching the PCNs of AI-CD participating countries with the funding systems of TFPs due to diversity of their requirements.

Way Forward: For countries, she emphasised the need to enhance their initiatives to develop and implement projects. Regarding partners, she recommended that the harmonisation of global and regional initiatives be enhanced to support countries in an effective manner.

SESSION 3

The topic of Session 3 (panel discussion) was “Accelerating Efforts to Combat Desertification and Tackle the Impacts of Drought Towards 2030 and Beyond.” In this session **the importance of acquiring international funding, such as through Great Green Wall (GGW), by utilising each participating country’s assets developed through AI-CD** were highlighted by the speakers.

Dr. George Louise Tokporo Tadu, AI-CD Focal Point (South Sudan), informed that the project developed by South Sudan, entitled “Peri-urban Focus Community-Integrated Farming” was submitted to JICA for funding and, fortunately, was approved.

He said that one significant achievement was networking and technology transfer, and South Sudan received training for developing and managing nurseries through a study tour at KEFRI in Kenya.

In terms of challenges, Dr. Tadu mentioned the lack of technical and financial capacities to develop bankable proposals; and political and civil instability posed also some difficulties.

Mr. Kaba Diallo, AI-CD Focal Point (Mali), focused on discussing a project for the sustainable management of land and water. He informed that the major lessons learned from its implementation were the following: women have no control over land resources; realisation that the adoption of some good practices requires a certain number of equipment; and the development of a network of service providers made it possible to provide support to farmers at the local level.

Dr. Paul Ouedraogo, Deputy Executive Secretary of CILSS (Senegal), explained that CILSS works on sustainable land management and drought monitoring, and provides capacity building. He invited the AI-CD participating countries to send their executives to CILSS so that they can receive training, and encouraged the countries to put all the best practices of AI-CD on national and regional platforms in order to better influence policies on sustainable land management.

Dr. Issa Garba, Agro Pastoralist Expert of CILSS (Senegal), emphasised that the work done by CILSS can contribute to scaling up actions by identifying the areas affected by land degradation. CILSS also works at local and community levels by producing detailed maps, and has a lot of experience in terms of the sustainable management of land.

Mr. Yasuo Izumi, AI-CD Secretariat (Japan), mainly focused on access to finance and explained the achievements and progress made by AI-CD focal points and partners. He recognised that the initiative had endowed all the 15 AI-CD participating countries with practical tools and knowledge, enabling them to advocate new projects with their PCNs.

In terms of future actions, he recommended further collaboration and coordination with other AI-CD-related ministries, agencies, private companies, and NGOs. Then, as an example of collaboration with the private sector, he introduced products of some Japanese private companies which can contribute in combating desertification. He also emphasised the need to match national strategies with those of TFPs and called on all participating countries to go beyond AI-CD and continue AI-CD-related activities.



Products of Japanese private companies which can contribute in combating desertification displayed at the side event



Panelist Mr. Diallo (Focal Point of Mali) (right side in the picture) explaining on-the-ground good practices in Mali

SESSION 4: Closing

Mr. Babacar Dia, AI-CD Secretariat (Senegal), concluded that **the ending of AI-CD can signify the beginning of collaboration with international funders such as Great Green Wall.**

He also thanked the distinguished participants for the quality discussions held, and declared the meeting closed on behalf the AI-CD Secretariat.



Co-organizers



Partners



Contact the Secretariat Tel: +81-3-4521-0142 Email: info@aicd-africa.org

Views or opinions expressed in this website do not necessarily reflect the official policy or position of the AI-CD.

Copyright AI-CD All Rights Reserved.



AI-CD

Initiative africaine pour lutter contre la désertification en vue de renforcer la résilience face au changement climatique dans le Sahel et la Corne de l'Afrique

[English](#) / [Français](#)

QUI SOMMES-NOUS?

ÉVÉNEMENTS

BONNES PRACTIQUES

PROJETS MONDIAUX

VOIX DU TERRAIN

COOPÉRATIONS JAPONAISES

CENTRE DE CONNAISSANCE

CONNAISSANCES PARTAGÉES PAR LES INSTITUTS DE RECHERCHE INTERNATIONAUX

MATÉRIAUX TECHNIQUES DÉVELOPPÉS PAR LE JAPON

ACCÈS AU FINANCEMENT

CONSEILS DE BASE POUR LE FINANCEMENT

LIENS UTILES

PRODUITS CLÉS

Évènement parallèle de l'AI-CD à la COP 15 CNULCD à Abidjan en Côte d'Ivoire - Présentation des pratiques sur le terrain pour lutter contre la désertification en vue d'une Afrique prospère et résiliente -

Vue d'ensemble

Un évènement parallèle de deux heures de la 15ème session de la Conférence des Parties de la Convention des Nations Unies de la Lutte Contre la Désertification (COP 15 CNULCD) s'est tenu à Abidjan en Côte d'Ivoire le 11 mai 2022, sous les auspices de l'Agence Japonaise de Coopération Internationale (JICA), du Ministère de l'Environnement et des Forêts (MEF) du Kenya et du Ministère de l'Environnement et du Développement Durable (MEDD) du Sénégal.

L'évènement a présenté l'AI-CD et 70 participants provenant de l'Afrique et d'autres pays, les partenaires de développement et les universités y ont assisté. Compte tenu du contexte de la Décennie des Nations unies pour la restauration des écosystèmes et du thème de la COP 15 « Terre. La Vie. Héritage : de la rareté à la prospérité », les pratiques sur le terrain pour la lutte contre la désertification ont été présentées par les pays participants de l'AI-CD. Également, les réalisations et les défis de l'AI-CD sur les activités auxquelles il se concentre depuis des années ont été partagés parmi les participants, ainsi que les sujets sur le réseautage, le partage des connaissances et l'accès au financement.

La collaboration avec le secteur public a été suggérée par les intervenants comme l'une des solutions importantes pour lutter contre la désertification. Enfin, il a été souligné l'importance de l'acquisition d'un financement international, à travers par exemple la Grande Muraille Verte (GMV) en utilisant les atouts du pays participant, développés à travers l'AI-CD.

Les réalisations de l'AI-CD ont été partagées par les intervenants, telles que les directives et les court-métrages produits, qui sont disponibles au site web ci-dessous :

<http://aicd-africa.org/key-products>



Les panélistes et l'animateur des discussions à l'évènement parallèle

(De gauche à droite, Dr. George Louise Tokporo Tadu, Dr. Issa Garba, Dr. Paul Ouedraogo, M. Babacar Dia et M. Kaba Diallo)

Points marquants de l'Évènement

SESSION 1

La Session 1 a commencé avec une allocution d'ouverture et un discours-programme. Puis, les intervenants ont souligné l'importance de la collaboration continue avec les Partenaires Financiers et Techniques (PFT) et d'autres parties prenantes et le partage des réalisations et des défis à travers l'AI-CD.



Les intervenants et l'animateur de la Session 1

(De gauche à droite, M. Baidy Ba, M. Samson Toniok et Dr. Lucy Ng'ang'a)

Dr. Lucy Ng'ang'a, Directrice Adjointe des Accords environnementaux multilatéraux du Ministère de l'Environnement et des Forêts (Kenya), ayant présidé cette session, a souhaité la bienvenue à tous les participants de l'évènement parallèle, organisé par l'AI-CD.

M.Samson Toniok, Directeur Général du NETFUND (Fonds national en fiducie pour l'environnement) au Kenya, a expliqué que l'évènement parallèle fournirait une plateforme pour les pays participants de l'AI-CD afin de partager les leçons, les expériences pratiques, les défis et les possibilités. Il a ajouté qu'il offrirait également une grande plateforme pour engager avec des Partenaires Financiers et Techniques (PTF) internationaux divers et avoir un dialogue direct visant la mobilisation des ressources. M. Samson a finalement exprimé son espoir qu'après l'évènement parallèle, il y aurait une continuité des activités de l'initiative, l'application des leçons apprises et la collaboration continue avec les PTF pour l'avancement durable des pays africains.

M.Baidy Ba, Directeur des Eaux et des Forêts et Point focal de l'AI-CD (Sénégal), a souligné que la réussite de l'initiative nécessite l'implication et la contribution de toutes les parties prenantes, car la restauration des écosystèmes africains dégradés n'est possible qu'avec un changement dans la mentalité, pour adopter les solutions durables afin de satisfaire les besoins du peuple pour la terre agricole, l'énergie domestique, etc. Il a également mentionné que l'AI-CD étant à son terme, l'évènement parallèle constitue une possibilité cruciale pour les parties prenantes d'évaluer leurs réalisations et les expériences

de l'AI-DC, et éventuellement de proposer des perspectives futures pour la résilience des écosystèmes et des communautés de l'Afrique face à la dégradation et au changement climatique.

M.Seiichi Onodera, Vice-président principal du siège de la JICA (Japon), a rappelé, via un message vidéo, que l'évènement était une occasion pour les pays participants de l'AI-CD et les organisations partenaires, pour partager les connaissances utiles, les pratiques sur le terrain en Afrique, aussi bien que les résultats de l'AI-CD, et puis qu'ils ont échangé sur la façon dont les mesures pourraient être promues pour traiter efficacement la désertification et le changement climatique. Il a enfin exprimé son souhait que le résultat de la session de travail devrait paver la voie pour la collaboration continue en vue d'une Afrique prospère et résiliente, et il a assuré que la JICA continue son soutien.

SESSION 2

Dans cette session, les Centres et les Secrétariats de l'AI-CD ont fait le rapport sur les réalisations et les défis de l'AI-CD depuis 2016 et relevé les étapes nécessaires comme la marche à suivre.



Les intervenants et l'animateur de la Session 2

(De gauche à droite, Mme Mari Miura, M. Baba BA, Mme Josephine Wanjiku et Dr. Lucy Ng'ang'a)

Mme Josephine Wanjiku du Centre régional de l'AI-CD pour la Corne de l'Afrique (Kenya) a ouvert la session en donnant une brève discussion sur l'AI-CD depuis sa création à la 6^{ème} édition de la Conférence Internationale de Tokyo sur le Développement de l'Afrique (TICAD VI) en 2016, jusqu'à sa conclusion prévue qui aura lieu à la TICAD VIII en août 2022.

Elle a ensuite présenté l'état d'avancement de l'AI-CD au sein de la Corne de l'Afrique et la voie à suivre comme suit :

Réalisations du Résultat 1 (Réseautage) : Elle a fait mention sur les 5 forums régionaux qui se sont tenus depuis 2017 en tant que réalisations du réseautage. À cela s'ajoute, deux ateliers techniques en 2017 et 2018 pour former les agents techniques.

Réalisations du Résultat 2 (Partage des connaissances) : Elle a mentionné les deux publications principales, en remerciant tous les 7 pays de la Corne de l'Afrique pour leurs contributions : un document des directives et un livre pour la lutte contre la désertification dans la Corne de l'Afrique (cliquer le [lien](#) pour vous référer aux publications). Les brochures sur les bonnes pratiques pour la lutte contre la désertification ont été produites et les connaissances ont été également partagées par le biais d'Internet.

Réalisations du Résultat 3 (Accès au financement) : Les notes conceptuelles de projet (NCP) ont été élaborées et devraient se transformer en propositions à soumettre auprès des partenaires de développement ciblés. Les participants ont également été aidés pour l'identification des possibilités de financement auprès des partenaires de développement.

Voie à suivre : Étant donné que l'initiative arrive à son terme en août 2022, elle a proposé la continuation de la collaboration au sein de la Corne de l'Afrique et de la région du Sahel, en établissant les réseaux thématiques pour le partage des connaissances, et la mise en œuvre du développement des capacités basé sur une évaluation des besoins dans les pays participants de l'AI-CD et d'autres pays de l'Afrique subsaharienne.

M.Baba BA du Centre régional de l'AI-CD pour le Sahel et Point focal par intérim de l'AI-CD (Sénégal) a présenté les réalisations et les défis de l'AI-CD dans la région du Sahel comme suit :

Réalisations et défis pour le Résultat 1 (Réseautage) : Il a mentionné que l'une des réalisations du réseautage est la tenue des 5 forums régionaux de l'AI-CD pour le Sahel depuis 2017. En plus de cela, 4 pays (le Mali, le Sénégal, le Nigeria et le Burkina Faso) ont organisé leurs ateliers nationaux en vue de partager les activités et l'objectif de l'initiative au niveau national.

En termes de défis, il a cité les problèmes sur le mécanisme et les stratégies de communication, pour une meilleure implication des femmes et des jeunes, et le manqué de la volonté des autorités locales pour assumer leurs rôles techniques et responsabilité concernant l'AI-CD.

Réalisations et défis pour le Résultat 2 (Partage des connaissances) : Il a mentionné les deux court-métrages produits au Nigeria et au Mali, tout en soulignant les expériences réussies de

l'AI-CD en termes de partage des bonnes pratiques. Il a également mentionné le webinar organisé en collaboration avec le CILSS[1] pour partager les meilleurs techniques et technologies pour la lutte contre la désertification. Par contre, les défis auxquels sont confrontés incluent le manqué de mécanismes et de stratégies permettant les communautés locales d'adopter et de maîtriser les techniques et les technologies pour la lutte contre la désertification.

[1] Comité permanent inter-État de lutte contre la sécheresse au Sahel, abrégé en CILSS

Réalisations et défis pour le Résultat 3 (Accès au financement)_: Il a mentionné qu'au cours du deuxième forum de l'AI-CD dans la région du Sahel, les notes conceptuelles de projet (NCP) des divers pays ont été présentées aux Partenaires Techniques et Financiers (PTF). Chacun des PTF a fait les commentaires sur les NCP, suivi par une présentation de leurs mécanismes de financement respectifs. Par la suite, tous les points focaux ont rencontré les PTF, pour revoir les NCP, qui étaient par conséquent adaptées aux exigences de ces derniers. À la fin de ce processus, un projet malien a été financé par la FAO.

Voie à suivre_: La région du Sahel prévoit de partager les réalisations de l'AI-CD à la TICAD VIII, avec pour but de les entretenir et de les approfondir en termes de réseautage avec toutes les parties prenantes. M. Ba a enfin demandé aux PTF de soutenir les pays pour qu'ils puissent toucher les utilisateurs finaux qui en général ne sont pas familiers avec ou n'ont pas accès à Internet.

Mme Mari Miura, Adjointe principale au Directeur du Département de l'Environnement mondial du Siège de la JICA (Japon), a principalement revu les jalons clé de l'AI-CD, les réalisations inter-régionales des piliers de l'AI-CD, les défis auxquels sont confronté ainsi que la voie à suivre pour promouvoir les mesures efficaces et les partenariats en vue de traiter la désertification et le changement climatique. Elle a fait mention sur les 7 événements parallèles de haut niveau, organisés tout en saisissant les occasions présentées par les COP CNULCD et les TICAD, incluant celle qui est en cours en ce moment. Elle a ensuite présenté le rapport de l'état d'avancement inter-régional de l'AI-CD comme suit :

Réalisations du Résultat 1 (Réseautage)_: Elle a expliqué que les co-organisateur internationaux de l'AI-CD et les partenaires (JICA, CNULCC, FAO, CILSS, ICARDA et FEM) et nombreux partenaires de développement (Grande Muraille Verte/UA, BAD, PNUD, etc.) se sont engagés dans l'initiative.

Réalisations du Résultat 2 (Partage des connaissances)_: Elle a dit que les plateformes en ligne ainsi que les forums régionaux avaient pour objectif de partager les connaissances, les bonnes pratiques et les initiatives de pays. Tous ceux-ci ont été documentés comme

« Directives et Étude de cas de la Corne de l'Afrique » ainsi que « Connaissances et Recommandations politiques du Sahel » avec la contribution des pays participants de l'AI-CD.

Réalisations du Résultat 3 (Accès au financement) : Elle a mentionné que l'AI-CD, lui-même, n'est pas associé à un mécanisme financier spécifique. Toutefois, son rôle est d'aider les pays partenaires à avoir l'accès à tout financement disponible. Elle a également cité la contribution de la JICA en tant que bailleur bilatéral.

Les 3 sessions de formations se sont tenues au Japon et les 2 autres en ligne en raison des restrictions imposées par la pandémie du Covid-19. De plus, la JICA a apporté son soutien à quelques pays participants pour mettre en œuvre leurs plans d'action sur le terrain.

Elle a continué à informer que les défis auxquels sont confrontés, ont inclut l'adaptation des NCP des pays participants de l'AI-CD aux systèmes de financement des PTF, en raison de la diversité de leurs exigences.

Voie à suivre : Pour les pays, elle a souligné la nécessité de renforcer leurs initiatives pour développer et mettre en œuvre les projets. Pour ce qui est de partenaires, elle a recommandé une amélioration de l'harmonisation des initiatives globales et régionales, afin de soutenir les pays de manière efficace.

SESSION 3

Le sujet de la Session 3 (discussions de groupe) était « Renforcer les efforts pour lutter contre la désertification et faire face les impacts de la sécheresse à l'horizon 2030 et au-delà ». Dans cette session, il a été souligné par les intervenants **l'importance de l'acquisition d'un financement international, par exemple à travers la Grande Muraille Verte (GMV), en utilisant les atouts de chaque pays participant, développés à travers l'AI-CD.**

Dr. George Louise Tokporo Tadu, Point focal de l'AI-CD (Soudan du Sud), a informé que le projet élaboré par le Soudan du Sud, intitulé « Agriculture d'intégration communautaire centrée sur le péri-urbain » avait été soumis à la JICA pour le financement, et qu'il avait été heureusement accepté.

Il a dit que l'une des réalisations significatives était le réseautage et le transfert de technologies, et que le Soudan du Sud avait reçu la formation pour le développement et la gestion des pépinières à travers le voyage d'étude auprès de la KEFRI au Kenya.

À propos des défis, Dr. Tadu a mentionné le manque des capacités techniques et financières pour élaborer les propositions susceptibles d'être financées et que l'instabilité politique et civile posait également certains problèmes.

M.Kaba Diallo, Point focal de l'AI-CD (Mali), a concentré sur la discussion d'un projet pour la gestion durable des sols et de l'eau. Il a informé que les principales leçons apprises de ses mises en œuvre étaient les suivants : les femmes ne sont pas en mesure de contrôler les ressources en sols ; la réalisation de l'adoption de certaines bonnes pratiques nécessite un certain nombre des équipements ; et le développement d'un réseau des prestataires de services a permis d'apporter un soutien aux agriculteurs au niveau local.

Dr. Paul Ouedraogo, Secrétaire Adjoint de la direction du CILSS (Sénégal), a expliqué que le CILSS travaille sur la gestion durable des sols et le suivi de la sécheresse, et fournit le développement des capacités. Il a invité les pays participants de l'AI-CD d'envoyer leurs cadres au CILSS, pour qu'ils puissent recevoir la formation, et encourage les pays à proposer toutes les meilleures pratiques de l'AI-CD aux plateformes nationale et régionale, en vue de meilleures politiques d'influence sur la gestion durable des sols.

Dr. Issa Garba, Expert Agro-pastoraliste du CILSS (Sénégal), a souligné que le travail fait par le CILSS peut contribuer à mettre à niveau des actions par l'identification des zones affectées par la dégradation des sols. Le CILSS travaille également au niveau local et communautaire, en produisant les cartes détaillées et connaît un grand nombre d'expériences en termes de gestion durable des sols.

M.Yasuo Izumi, Secrétariat de l'AI-CD (Japon), s'est concentré principalement sur l'accès au financement et a expliqué les réalisations et l'état d'avancement fait par les points focaux de l'AI-CD et les partenaires. Il a reconnu que l'initiative a doté tous les 15 pays participants de l'AI-CD des outils pratiques et des connaissances, les rendant capables de proposer les nouveaux projets avec leurs NCP.

À propos des actions futures, il a recommandé davantage de collaboration et de coordination avec d'autres ministères, agences, sociétés privées et ONG liés à l'AI-CD. Puis, il a présenté, comme un exemple de la collaboration avec le secteur privé, les produits de certaines sociétés privées du Japon, qui peuvent contribuer à la lutte contre la désertification. Il a également souligné la nécessité d'adapter les stratégies nationales à celles des PFT et appelé les pays participants à aller au-delà de l'AI-CD et à continuer les activités liées à l'AI-CD.



Produits des sociétés privées japonaises qui peuvent contribuer à la lutte contre la désertification, exposés à l'évènement parallèle



Panéliste M. Diallo (Point focal du Mali) (à droite sur la photo) expliquant les bonnes pratiques sur le terrain au Mali

SESSION 4 : Clôture

M.Babacar Dia, Secrétaire de l'AI-CD (Sénégal), a conclu que **la fin de l'AI-CD pourrait signifier le début de la collaboration avec les bailleurs internationaux tels que la Grande Muraille Verte.**

Il a également remercié les éminents participants pour la qualité de discussions tenues, et déclaré la réunion close au nom du Secrétaire de l'AI-CD.



Contact du secrétariat Tél. +81-3-4521-0142 E-mail. info@aicd-africa.org

Les opinions ou les points de vue exprimés dans ce site web ne reflètent pas nécessairement la politique ou position officielle du AI-CD.

Copyright AI-CD Tous droits réservés.



African Initiative for Combating Desertification
to Strengthen Resilience to Climate Change in the Sahel and Horn of Africa

AI-CD Follow-up Meeting - UNCCD COP15 -

12 May 2022, 18:00-20:00

@Ivory Trade Center

● **Objectives**

- To update the AI-CD countries' initiatives on combating desertification and take stock AI-CD outcomes and challenges until today in both Sahel and the Horn of Africa regions.
- To discuss further steps to accelerate countries' initiatives to combat desertification with AI-CD outcomes towards 2030 and beyond.

● **Program**

* Working languages: English / French

Time	Description	Speaker
Chair: Mr. Cheikh MBOW, Ecological Monitoring Center (CSE), Senegal		
	Registration	-
18:00-18:05	Introduction / Meeting objectives	Dr. Lucy Ng'ang'a, Deputy Director, Multilateral Environment Agreements, Ministry of Environment and Forestry, Kenya
18:05-18:10	Opening Remarks	Mr. Alfred Gichu, Forest Conservation Secretary, Ministry of Environment & Forestry, Kenya
18:10-18:30	Regional and Cross-Regional Progress and Achievement of AI-CD	Ms. Josephine Wanjiku, Kenya Mr. Baba BA, Senegal Mr. Shiraishi, AI-CD secretariat
18:30-19:10	Update and Comments from participating countries (e.g. Key progress on countries' efforts on combating desertification including AI-CD related activities, useful info. to other members, etc.)	Focal Points (3 mins per country)
19:10-19:25	Contribution by partner organisations	Partner Organizations (3 mins per organization)
19:25-19:35	Q & A (clarification)	
19:35-19:50	Discussion on further steps to accelerate efforts to combat desertification with AI-CD outcomes towards 2030 and beyond	Participating Countries & AI-CD Secretariat
19:50-20:00	Closing / End of the meeting	Kenya Senegal JICA HQ

● **Expected participants** About 30 participants

- ✓ Representatives from co-organizers : Kenya (Horn of Africa), Senegal (Sahel), JICA and UNCCD
- ✓ Focal points of participating countries : Horn of Africa and Sahel countries
- ✓ Representatives from partner organizations : CILSS, FAO, GEF, ICARDA and others
- ✓ Secretariat of the Initiative : JICA / Secretariat Support Team
- ✓ Other resource personnel and observers



AI-CD

African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to Climate Change in the Sahel and the Horn of Africa

[English](#) / [Français](#)

ABOUT US

EVENT

GOOD PRACTICES

WORLDWIDE PROJECTS

VOICES FROM THE FIELD

JAPAN'S COOPERATIONS

KNOWLEDGE CENTRE

KNOWLEDGE SHARED BY INTERNATIONAL RESEARCH INSTITUTES

TECHNICAL MATERIALS DEVELOPED BY JAPAN

ACCESS TO FUNDING

BASIC TIPS FOR FUNDING

USEFUL LINKS

KEY PRODUCTS

AI-CD Follow-Up Meeting during UNCCD COP 15 in Abidjan, Cote d'Ivoire

The follow-up meeting of the African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to Climate Change in the Sahel and the Horn of Africa (AI-CD) was held on the 12th of May 2022 during the 15th Session of the Conference of the Parties of the United Nations Convention to Combat Desertification (UNCCD COP 15) in Abidjan, Cote d'Ivoire.

The event was attended by 30 participants comprised mainly of AI-CD Focal Points, research institutions, and the AI-CD Secretariat.

Representatives from the Horn of Africa region, the Sahel region, and AI-CD Secretariat provided updates on the initiatives of AI-CD countries to combat desertification and looked into AI-CD outcomes and challenges until the present in both Sahel and the Horn of Africa regions. The participants also discussed further steps to accelerate these initiatives towards 2030 and beyond. As a result, they shared the importance of the continuous effort of networking, knowledge sharing, and access to finance by AI-CD participating countries.



Participants in a discussion at the follow-up meeting

Highlights of the Event

SESSION 1 : Introduction and Opening Remarks

The speakers started by introducing the meeting objectives and highlighted the importance of looking back at what AI-CD has done, and reflecting on these points for the next steps.



Mr. Alfred Gichu (left side) and Dr. Lucy Ng'ang'a(right side)
delivering the opening remarks and introduction



Dr. Cheikh Mbow (right side) giving his speech as Chair of
the meeting

Dr. Cheikh Mbow, Director General of the Ecological Monitoring Centre (Senegal), who chaired the meeting, informed that many initiatives have been implemented to combat desertification and one of those is the Great Green Wall initiative, which is at the core of the African programme in the Sahel and the Horn of Africa (HoA). He added that AI-CD is also within this framework, which creates a more integrated approach of resilience and climate change in the Sahel and Horn of Africa.

Dr. Lucy Ng'ang'a, Deputy Director of the Multilateral Environment Agreements, Ministry of Environment and Forestry (Kenya), started by referring to the achievements of AI-CD, emphasising that there is so much to learn from the technologies provided under the initiative, and this gives opportunity to take the initiative to another level. Lastly, she said, “the end of this initiative is the start of another form of working.”

Mr. Alfred Gichu, Forest Conservation Secretary of the Ministry of Environment and Forestry (Kenya), reminded the stakeholders of the commitments on global climate, biodiversity, as well as land and landscape restoration so that they should scale up efforts across AI-CD member countries. He recognised that the efforts made are not enough. He also stated that the meeting offered the opportunity to look back in terms of what they have been doing over the years, to share lessons, knowledge, challenges that they have encountered, and find the way forward.

The AI-CD Hubs in Sahel and HoA as well as the AI-CD Secretariat reported the achievements and challenges of the initiative since 2017, and pointed out necessary steps as way forward. (Please read the article on the COP 15 side event for a detailed explanation by the Sahel and HoA Hubs.)



Ms. Josephine Wanjiku (left side) and Mr. Baba Ba (right side) presented the achievements and challenges of AI-CD

Ms. Josephine Wanjiku, AI-CD Regional Hub for HoA (Kenya), presented the achievements and challenges of AI-CD in HoA and proposed continuing the collaboration within the HoA and Sahel regions by establishing issue-based networks for knowledge sharing as a way forward.

Mr. Baba BA, Acting AI-CD Focal Point / AI-CD Regional Hub for Sahel (Senegal), presented the achievements and challenges of AI-CD in the Sahel regions and explained that it is necessary to maintain and deepen networking with all the relevant stakeholders as a way forward.

Mr. Takuya SHIRAISHI, AI-CD Secretariat (Japan) and OCG Deputy Team Leader, mainly focused on presenting the cross-regional progress and achievements of AI-CD as follows:

On networking: He explained that many events were organised at different levels: from high-level side events to regional and national workshops.

On knowledge sharing: He mentioned that there were great achievements in the HoA which materialised by the existence of guidelines and case studies. Concerning the Sahel region, the Knowledge and Policy Brief, which is presently under preparation, is expected to be finalised before TICAD 8. He also informed that Nigeria and Mali created their respective short films available on the website of AI-CD.

On access to finance: He explained that the Secretariat provided assistance to Focal Points through four steps: (1) Developing their Project Concept Notes (PCNs); (2) Preparatory meetings or consultations with International Technical and Financial Partners (ITFPs); (3) Facilitation of direct dialogue between countries and private companies/partners; and (4) Provision of a guidebook on access to finance developed by the Secretariat and made available to Focal Points.

Recommendations: He encouraged the effective promotion of knowledge sharing by compiling documents and other tools including visual information such as short films, video clips, and SNS tools. He also called for more coordination with a wide range of domestic and international stakeholders to promote project formulation.

SESSION 3: Updates, Comments from Participating Countries, and Q&A

Each AI-CD Focal Point reported updates and achievements of AI-CD in Session 3.



Mr. Dambatia Lazare Tagnabou (left side) and Mr. Michael Berhane (right side) provided updates on AI-CD activities

Mr. Kaba Diallo, AI-CD Focal Point (Mali), informed that AI-CD provided technical and financial support to his country through a high-level workshop to promote the programme in Mali. A short film was also made on desertification, which had been published at national and subregional levels.

He presented the significant collaboration with AI-CD that led to the funding of a Malian NGO project by FAO.

Dr. George Louise Tokporo Tadu, AI-CD Focal Point (South Sudan), thanked JICA staff in Juba and highlighted the knowledge acquisition experience through workshops and training in 2018. He also cited the good practices in combatting desertification shared by Kenya through the AI-CD.

Mr. Dambatia Lazare Tagnabou, AI-CD Focal Point (Burkina Faso), expressed his satisfaction for being part of AI-CD but insisted that “the initiative is not yet completed because it has sown seeds which are just germinating.”

Mr. Michael Berhane, AI-CD Focal Point (Eritrea), pointed out the interrelated problems of land degradation, desertification, drought, and food security, which Eritrea faces.

Mr. Baidy Ba, AI-CD Focal Point / AI-CD Sahel Regional Hub (Senegal), called for further support from JICA to implement practical projects on the ground.

Dr. Cheikh Mbow, Director General of the Ecological Monitoring Centre (Senegal), pointed out that all AI-CD participating countries should comment on the Knowledge and Policy Brief, since only three countries out of eight have commented on it so far.

Mr. Babacar Dia, AI-CD Secretariat (Senegal), encouraged Focal Points to keep on promoting AI-CD in their respective countries and recommended that they continue their role as coordinators of activities aiming at combating desertification. He also recommended the involvement of the private sector to combat desertification.

SESSION 4: Closing Remarks

The session emphasised the importance of continuing effort to seek funding opportunities by respective countries.

Ms. Mari Miura, Senior Deputy Director of the Global Environment Department, JICA Headquarters (Japan), expressed her satisfaction on the contribution made by AI-CD to country initiatives.

Regarding the way forward, she informed that continuing effort to seek funding opportunities, such as through the Great Green Wall and Global Environment Facility (GEF), by respective countries is important. Finally, she thanked all the participants for the work done and expressed hope that the collaboration with JICA will continue.



Co-organizers



Partners



Contact the Secretariat Tel: +81-3-4521-0142 Email: info@aicd-africa.org

Views or opinions expressed in this website do not necessarily reflect the official policy or position of the AI-CD.

Copyright AI-CD All Rights Reserved.



AI-CD

Initiative africaine pour lutter contre la désertification en vue de renforcer la résilience face au changement climatique dans le Sahel et la Corne de l'Afrique

[English](#) / [Français](#)

QUI SOMMES-NOUS?

ÉVÉNEMENTS

BONNES PRACTIQUES

PROJETS MONDIAUX

VOIX DU TERRAIN

COOPÉRATIONS JAPONAISES

CENTRE DE CONNAISSANCE

CONNAISSANCES PARTAGÉES PAR LES INSTITUTS DE RECHERCHE INTERNATIONAUX

MATÉRIAUX TECHNIQUES DÉVELOPPÉS PAR LE JAPON

ACCÈS AU FINANCEMENT

CONSEILS DE BASE POUR LE FINANCEMENT

LIENS UTILES

PRODUITS CLÉS

Réunion de suivi AI-CD pendant la COP 15 CNULCD à Abidjan en Côte d'Ivoire

La réunion de suivi de l'Initiative Africaine pour la Lutte contre la Désertification pour renforcer la résilience au changement climatique dans le Sahel et la Corne de l'Afrique (AI-CD) s'est tenue le 12 mai 2022 en marge de la 15^{ème} Session de la Conférence des Parties de la Convention des Nations unies pour la Lutte contre la Désertification (COP 15 CNULCD)

à Abidjan en Côte d'Ivoire. 30 participants y compris les points focaux de l'AI-CD en particulier, les institutions de recherche ainsi que le Secrétariat de l'AI-CD y ont assisté.

Les représentants de la région de la Corne de l'Afrique, de la région du Sahel et le Secrétariat de l'AI-CD ont fourni les mises à jour sur les initiatives des pays de l'AI-CD pour lutter contre la désertification et se sont penché sur les résultats et les défis de l'AI-CD jusqu'à présent tant dans la région du Sahel que la région de la Corne de l'Afrique. Les participants ont également discuté des étapes plus en avant, afin de promouvoir ces initiatives à l'horizon 2030 et au-delà. Par conséquent, ils ont partagé l'importance des efforts continus pour le réseautage, le partage des connaissances et l'accès au financement par les pays participants de l'AI-CD.



Participants dans une discussion à la réunion de suivi

Points marquants de l'Évènement

SESSION 1 : Introduction et mots d'ouverture

Les intervenants ont commencé par l'introduction des objectifs de la réunion et souligné l'importance des réexamens de ce que l'AI-CD a réalisé, et réflexion de ces points pour les prochaines étapes.



M. Alfred Gichu (à gauche) et Dr. Lucy Ng'ang'a (à droite) prononçant les mots d'ouverture et l'introduction



Dr. Cheikh Mbow (à droite) donnant son allocution en tant que Président de la réunion

Dr. Cheikh Mbow, Directeur Général du Centre de suivi écologique (Sénégal), ayant présidé la réunion, a informé que de nombreuses initiatives avaient été réalisées pour lutter contre la désertification et l'un d'entre elles était l'initiative de la Grande Muraille Verte, qui était au cœur du programme africain dans le Sahel et la Corne de l'Afrique (HoA horn of Africa). Il a ajouté que l'AI-CD fait partie également de ce cadre, qui crée une approche plus intégrée de la résilience et du changement climatique dans le Sahel et la Corne de l'Afrique.

Dr. Lucy Ng'ang'a, Directrice Adjointe des Accords environnementaux multilatéraux, Ministère de l'Environnement et des Forêts (Kenya), a commencé en se référant aux réalisations de l'AI-CD, soulignant qu'il y a tellement beaucoup à apprendre à partir des technologies fournies sous l'initiative, et ceci offre une possibilité de prendre l'initiative à un autre niveau. À la fin, elle a dit « la fin de cette initiative est le début d'une autre forme du travail.

M.Alfred Gichu, Secrétaire à la conservation forestière du Ministère de l'Environnement et des Forêts (Kenya), a rappelé les parties prenantes des engagements sur le climat planétaire, la biodiversité ainsi que la restauration des terres et des paysages, de sorte qu'ils doivent mettre à niveau les efforts à travers les pays membres de l'AI-CD. Il a reconnu que les efforts faits n'étaient pas suffisants. Il a également indiqué que la réunion avait offert la possibilité de réexaminer ce qu'ils font depuis des années, afin de partager les leçons, les connaissances, les défis qu'ils avaient rencontrés et de trouver la voie à suivre.

SESSION 2: État d'avancement et réalisations régionales et inter-régionales de l'AI-CD

Les Centres de l'AI-CD dans le Sahel et la Corne de l'Afrique ainsi que le Secrétariat de l'AI-CD ont rapporté les réalisations et les défis de l'initiative depuis 2017, et relevé les étapes nécessaires comme la voie à suivre. (Veuillez lire l'article sur l'évènement parallèle de la COP 15 pour une explication détaillée, fournie par les Centres du Sahel et de la Corne de l'Afrique.)



Mme Josephine Wanjiku (à gauche) et M. Baba Ba (à droite) ont présenté les réalisations et les défis de l'AI-CD

Mme Josephine Wanjiku, Centre régional de l'AI-CD pour la Corne de l'Afrique (Kenya), a présenté les réalisations et les défis de l'AI-CD dans la Corne de l'Afrique et proposé de continuer la collaboration entre les régions de la Corne de l'Afrique et du Sahel en établissant les réseaux thématiques pour le partage des connaissances en tant que voie à suivre.

M.Baba BA, Point focal par intérim de l'AI-CD / Centre régional de l'AI-CD pour le Sahel (Sénégal), a présenté les réalisations et les défis de l'AI-CD dans les régions du Sahel et expliqué qu'il est nécessaire de maintenir et d'approfondir le réseautage avec toutes les parties prenantes en tant que voie à suivre.

M.Takuya SHIRAIISHI, Secrétariat de l'AI-CD (Japon) et Adjoint au Chef de l'équipe OCG, s'est concentré principalement sur la présentation de l'état d'avancement et des réalisations inter-régionales de l'AI-CD comme suit :

Sur le réseautage : Il a expliqué que de nombreux évènements avaient été organisés à différents niveaux ; des évènements parallèles de haut niveau jusqu'aux ateliers régionaux et nationaux.

Sur le partage des connaissances : Il a mentionné qu'il y avait les grandes réalisations dans la Corne de l'Afrique qui avaient été matérialisées par l'existence des directives et des études de cas. Concernant la région du Sahel, les Connaissances et les Politiques dont la finalisation est prévue avant la TICAD VIII, est actuellement en cours de préparation. Il a aussi informé que le Nigeria et le Mali avaient créé respectivement leurs court-métrages, qui sont disponibles sur le site web de l'AI-CD.

Sur l'accès au financement : Il a expliqué que le Secrétariat avait apporté une assistance aux points focaux à travers quatre étapes : (1) Élaboration de leurs notes conceptuelles de projet (NCP), (2) Réunions préparatoires ou consultations avec les Partenaires Techniques et Financiers Internationaux (PTFI), (3) Facilitation d'un dialogue direct entre les pays et les sociétés privées / partenaires et (4) Préparation d'un manuel sur l'accès au financement élaboré par le Secrétariat et sa mise à disposition aux points focaux.

Recommandations : Il a encouragé la promotion efficace du partage des connaissances par la compilation des documents et d'autres outils incluant des informations visuelles, telles que des court-métrages, des clips vidéo, et des outils de réseaux sociaux (SNS). Il a également appelé à davantage de coordination avec un large éventail des parties prenantes nationales et internationales, afin de favoriser la formulation de projets.

SESSION 3 : Mises à jour, commentaires de la part des pays participants et Questions et Réponses

Chacun des points focaux de l'AI-CD a rapporté les mises à jour et les réalisations de l'AI-CD dans la Session 3.



M.Dambatia Lazare Tagnabou (à gauche) et M. Michael Berhane (à droite) ont fournis les mises à jour sur les activités de l'AI-CD.

M.Kaba Diallo, Point focal de l'AI-CD (Mali), a informé que l'AI-CD avait apporté les soutiens techniques et financiers à son pays à travers un atelier de haut niveau, afin de promouvoir le programme au Mali. Un court-métrage a été également réalisé sur la désertification et rendu public au niveau national et sous-régional.

Il a présenté la collaboration significative avec l'AI-CD qui avait conduit au financement par la FAO d'un projet de l'ONG malienne.

Dr. George Louise Tokporo Tadu, Point focal de l'AI-CD (Soudan du Sud), a remercié le personnel de la JICA à Juba et mis l'accent sur l'expérience de l'acquisition des connaissances à travers les ateliers et la formation en 2018. Il a également cité les bonnes pratiques dans la lutte contre la désertification, partagées par le Kenya à travers l'AI-CD.

M.Dambatia Lazare Tagnabou, Point focal de l'AI-CD (Burkina Faso), a exprimé sa satisfaction pour prendre part de l'AI-CD, mais insisté que « l'initiative n'est pas encore accomplie, car elle a semé les graines qui viennent juste de germer ».

M.Michael Berhane, Point focal de l'AI-CD (Érythrée), a fait remarquer que les problèmes de la dégradation des sols, la désertification, la sécheresse et la sécurité alimentaire sont étroitement liées entre eux, et auxquels l'Érythrée est confrontée.

M.Baidy Ba, Point focal de l'AI-CD / Centre régional de l'AI-CD du Sahel (Sénégal), a demandé un appui supplémentaire de la JICA, pour la mise en œuvre des projets pratiques sur le terrain.

Dr. Cheikh Mbow, Directeur Général du Centre de suivi écologique (Sénégal), a fait remarquer que tous les pays participants de l'AI-CD devraient commenter sur les Connaissances et les Politiques, puisque seuls trois pays de huit ont émis le commentaire sur celles-ci jusqu'ici.

M.Babacar Dia, Secrétariat de l'AI-CD (Sénégal), a encouragé les points focaux à poursuivre la promotion de l'AI-CD dans leurs pays respectifs et leur a conseillé de poursuivre leur rôle en tant que coordinateurs des activités visant à lutter contre la désertification. Il a également recommandé l'implication du secteur privé pour lutter contre la désertification.

SESSION 4 : Mots de clôture

La session a souligné l'importance des efforts continus par les pays respectifs à la recherche des possibilités de financement.

Mme Mari Miura, Adjointe principale au Directeur du Département de l'environnement mondial du siège de la JICA (Japon), a exprimé sa satisfaction pour la contribution apportée par l'AI-CD aux initiatives de pays.

Concernant la voie à suivre, elle a informé qu'il est important de continuer l'effort pour chercher les possibilités de financement par les pays respectifs, par exemple à travers la Grande Muraille Verte et le Fonds pour l'Environnement mondial (FEM). Elle a enfin remercié tous les participants pour leur travail réalisé et exprimé son espoir que la collaboration avec la JICA continuera.



Contact du secrétariat Tél. +81-3-4521-0142 E-mail. info@aicd-africa.org

Les opinions ou les points de vue exprimés dans ce site web ne reflètent pas nécessairement la politique ou position officielle du AI-CD.

Copyright AI-CD Tous droits réservés.

Concept Note (as of 23rd/August/2022)

Side Event at TICAD 8

Title:

African Initiative for Combating Desertification (AI-CD): Towards Achieving Resilient Africa:

1. Basic information

- **Date/Time:** 24th August 2022, 19:30-21:00 (JST)
- **Co-organizers:** Ministry of Environment and Forestry of Kenya, Ministry of Environment and Sustainable Development of Senegal, and Japan International Cooperation Agency (JICA)
- **Venue:** Virtual
- **Language:** English /French/ Japanese
 - * JICA will arrange translators.

2. Background

Sub-Sahara African countries, particularly in the Sahel and the Horn of Africa region, face mounting development challenges. Environmental deterioration has made the situation worse. The major part of the region is desert or dry lands and most of it is estimated to be degraded. Additionally, the region has been affected by frequent and severe droughts in recent years. The recent climate change is likely to make desertification even worse.

As people on low incomes in the region are heavily dependent on natural resources, persistent drought has further worsened their livelihood conditions. The poverty could further exacerbate insecurity in the region. Addressing desertification properly and strengthening resilience to climate change are keys to making nations of the region achieve sustainable development while contributing to peace and stability in the region and globally.

The 2030 Agenda for a Sustainable Development pledge that promises that no one will be left behind cannot be achieved without the sustainable growth of the region. Under the recognition of the importance and urgency of the issues of desertification, the Government of Kenya, the Government of Senegal, JICA, and the UNCCD with fifteen partner African countries and development partners launched “African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to Climate Change in the Sahel and the Horn of Africa (AI-CD)” during TICAD VI in Nairobi in August 2016. The initiative aims to promote measures for combating desertification by the countries in the region and support their efforts by development partners mainly through three pillars namely: networking, knowledge-sharing, and improving access to finance.

Since the launch of AI-CD, the AI-CD participating countries have undertaken various activities in line with the AI-CD’s three main pillars and many outcomes have been generated. In this event, the achievements of AI-CD will be shared and discussion will be followed with the theme of how African countries can promote measure to combat

desertification further to make nations and communities resilient to climate change in the Sahel and Horn of Africa. AI-CD will be officially concluded at this side event as planned by completing its planned activities since AI-CD's launching during TICAD VI.

3. Objective

This side event aims to share the achievements of AI-CD over the past six years and discuss ways to make countries in the Sahel and the Horn of Africa region resilient to climate change by promoting measures for combating desertification.

4. Key Questions

Q1: What achievements have been made through AI-CD, and is there any challenges during its implementation?

Q2: What are the recent movements and future directions/strategies of global initiatives such as the Great Green Wall and other relevant organizations for fighting against desertification and climate change?

Q3: What is the way forward for the Sahel and the Horn of Africa countries to accelerate their efforts for combating desertification and strengthening resilience to climate change?

5. Programme

Time (JST)	Topic	Speaker	Use of Presentation material
19:30 - 19:35	Welcome Remarks	Mr. Onodera Seiichi, Senior Vice President, JICA	No
19:35 - 19:40	Keynote Speech 1	Dr. Chris Kiptoo, CBS, Principal Secretary, Ministry of Environment and Forestry of Kenya (MoEF)	No
19:40 - 19:45	Keynote Speech 2	Mr. Baidy BA, Director of Water, Forests, Hunting and Soil Conservation, Ministry of Environment and Sustainable Development of Senegal (MEDD)	No
19:45- 19:50	Launch of the book "Dryland Forestry Research and Development in Kenya:	Dr. Joshua Cheboiwo, Director, Kenya Forestry Research Institute (KEFRI)	Yes

	Achievements and Lessons of Thirty-Seven Years of Kenya/Japan Cooperation in Forestry Development”		
19:50 - 20:11	AI-CD Achievements	<ul style="list-style-type: none"> - AI-CD Achievements in the Horn of Africa: Dr. Musingo Mbuvi, Deputy Director, Forest Research Support Service, KEFRI - AI-CD Achievements in the Sahel: Mr. Baidy BA, Director of Water, Forests, Hunting and Soil Conservation, MEDD - AI-CD Cross-regional Achievements: Mr. Takuya SHIRAISHI, AI-CD Secretariat 	Yes
20:11- 20:57	Panel Discussion: How can African countries further accelerate their efforts for combating desertification and strengthening resilience to climate change?	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Moderator: <ul style="list-style-type: none"> - Dr. Lucy Ng’ang’a, Deputy Director, Multilateral Environment Agreements, Ministry of Environment and Forestry ◆ Panelist: <ul style="list-style-type: none"> - Dr. George Louise Tokporo Tadu, Senior Research Scientist, Head of Root and Horticultural Crops Research, Ministry of Agriculture and Food Security, South Sudan - Ms. Mabel Emmanuel, Director, Desertification Land Degradation and Drought Management, Federal Ministry of Environment, Nigeria - Dr. Sheick Khalil Sangaré, Acting Chief of Department of Studies and Researches in Agriculture, Environment and Markets, The Sahel Institute (INSAH/CILSS) 	No

		<p>- Dr. Elvis Paul, Coordinator, Great Green Wall For the Sahara and Sahel Initiative, African Union (AU)</p> <p>◆ Timeline: Introduction (20:11-20:14) Q1 (20:14-20:22) Dr. George Tadu (S.Sudan) & Ms. Mabel Emmanuel (Nigeria) (4min per each)</p> <p>Q2 (20:22-20:30) Dr. Sangaré (INSAH/CILSS) & Dr. Elvis (AU) (4min per each)</p> <p>Q3 (20:30-20:46) All panelists (4min per each)</p> <p>Q&A (20:46-20:55) All panelists and participants</p> <p>Closing of the panel discussion (20:55-20:57)</p>	
20:57 - 21:00	Closing Remarks	Mr. Takashi Nishimura, Deputy Director General, Global Environment Department, JICA	No

6. Expected audience

Around 100 (High-level and senior officials responsible for environmental conservation, climate change, anti-desertification, and land restoration of partner countries, representatives from international organizations, bilateral donors, NGOs, research institutes, and related organizations of Japan)

END



AI-CD

African Initiative for Combating Desertification to Strengthen Resilience to
Climate Change in the Sahel and the Horn of Africa

[English](#) / [Français](#)

ABOUT US

EVENT

GOOD PRACTICES

WORLDWIDE PROJECTS

VOICES FROM THE FIELD

JAPAN'S COOPERATIONS

KNOWLEDGE CENTRE

KNOWLEDGE SHARED BY INTERNATIONAL RESEARCH INSTITUTES

TECHNICAL MATERIALS DEVELOPED BY JAPAN

ACCESS TO FUNDING

BASIC TIPS FOR FUNDING

USEFUL LINKS

KEY PRODUCTS

AI-CD Side Event of TICAD8 - Discussion on the Way Forward Towards Achieving a Resilient Africa-

An AI-CD culminating event hosted by Japan International Cooperation Agency (JICA), the Ministry of Environment and Forestry (MoEF) of Kenya and the Ministry of Environment and Sustainable Development (MESD) of Senegal was held online on August 24, 2022 as a side event of the 8th Tokyo International Conference on African Development (TICAD 8).

The event was attended by 101 participants and comprised mainly of African countries, AI-CD Focal Points, and development partners.

The purpose of the side event was **to share the achievements of AI-CD over the past six years and discuss ways to make countries in the Sahel and the Horn of Africa (HoA) region resilient to climate change by promoting measures for combating desertification.**

The participants shared all the achievements of AI-CD in terms of Networking, Knowledge Sharing, and Access to Finance. They also provided the way forward such as considering how to continue the collaboration within AI-CD countries and elaboration of bankable projects that meet the requirements of funders. In addition, it was suggested by one of the panelists that the more effective way is to stop sectorial operations and develop synergies by cooperation of all stakeholders to combat desertification.

Finally, the side event was concluded as confirmation of strengthening partnerships among African countries, development partners, and international organisations to combat desertification.

AI-CD was officially concluded at this side event as planned by completing its planned activities that commenced at the AI-CD's launching during TICAD VI.



Towards a resilient, inclusive, and prosperous Africa

Highlights of the Event:

SESSION 1: Opening ceremony

Mr. ONODERA Seiichi, Senior Vice President of JICA, thanked the participants for attending the event in his welcome remarks. He magnified the strong leadership of Kenya and

Senegal during the past six years and explained that this event is an opportunity to exchange views toward the achievement of the SDGs by 2030

Mr. Alfred Gichu, Forest Conservation Secretary appreciated the support of JICA on behalf of the Minister of Environment and Forestry, Kenya and pointed out that the objective of this side-event is to draw lessons and opportunities from AI-CD achievements in order to help Africa reach global development.

Mr. Dominique Manga, Chief of the Forests Protection Division delivered keynote speech on behalf of Minister of Environment and Sustainable Development, Senegal, focusing on the fact that land degradation and desertification are the biggest challenges in Africa and underlined the gratitude of the Senegalese people toward JICA for its technical and financial support.

Dr. Joshua Cheboiwo, Director of Kenya Forestry Research Institute (KEFRI), presented the book *Drylands Forestry Research and Development in Kenya* based on 37 years of cooperation between KEFRI and JICA. He emphasised the fact that the book was written primarily to record research and development, and share technologies, techniques and case studies concerning drylands that cover 80% of Kenyan area. At the end of his discussion, he handed a copy of the book to the Chief Representative of JICA Kenya Office.



Copy of the book *Drylands Forestry Research and Development in Kenya* was handed to the Chief Representative of JICA Kenya Office

SESSION 2: Sharing AI-CD achievements and discuss way forward

This session was dedicated to the sharing of AI-CD achievements over the past six years and discussing ways to make countries in the Sahel and the HoA region resilient to climate change by promoting measures for combating desertification.

Dr. Musingo Mbuvi (Forest Research Support Service of KEFRI, Kenya), on behalf of the HoA countries, presented the AI-CD achievements from 2016 to 2022. He pointed out that holding Regional Forums and National Workshops (Sudan, South Sudan) is one of the achievements of Networking. For Access to Finance, he mentioned that creating Project Concept Notes (PCN) and facilitation to identify funding opportunities for Focal Points are the important achievements. As to way forward, he emphasised the necessity to consider continued collaboration within the HoA countries and Sahel region. Finally, he suggested to establish issue-based networks for knowledge sharing, undertaking needs assessment and capacity building based on the needs assessment.

Mr. Baba Ba (Ministry of Environment and Sustainable Development, Senegal), on behalf of the Sahel region countries, emphasised the holding of Regional Forums and National Workshops (Burkina Faso, Mali, Senegal and Nigeria) as achievements in terms of Networking. While on Knowledge Sharing, the following were highlighted: (1) holding Knowledge Sharing Seminar on techniques and technologies to tackle desertification in collaboration with CLISS, and (2) creating short films in Nigeria and Mali to present each country's activity related to AI-CD and combating desertification, (3) preparing Knowledge and Policy Brief which elaborated strategies and mechanisms to implement Access to Finance. He pointed out that Nigeria and Mali submitted their respective initiatives for funding, and the proposal from Mali was accepted by FAO, as an important achievement of Access to Finance. As way forward, he emphasised that elaboration of bankable projects that meet the requirements of funders is necessary.

Mr. Takuya Shiraishi from AI-CD Secretariat presented the AI-CD cross-regional achievements. As achievements in Knowledge Sharing, he pointed out the (1) establishment and maintenance of the AI-CD website and SNS pages, and the (2) database collaboration with ICARDA (<http://aicd-africa.org/knowledge>). As for Access to Finance, he emphasised the importance of involvement of the private sector through the promotion of new technologies such as biodegradable tube and soil conditioner using used glasses. He reiterated as way forward for AI-CD countries the enhancement of country initiatives to develop and implement projects based on networks, capacity, and opportunities developed through AI-CD and other initiatives. He also stressed the need for AI-CD partners to further their efforts on (1) enhancing global/regional initiatives' harmonisation to support countries effectively, (2) maintaining and enhancing partnerships and dialogues between countries and partners, and

among domestic key stakeholders in each country, (3) strengthening in-county coordination for promoting measures to combat desertification effectively.

SESSION 3: Panel Discussion

Dr. Lucy Ng'ang'a, Deputy Director, Multilateral Environment Agreements, Ministry of Environment and Forestry of Kenya, the Moderator, explained the purpose of the panel discussion and introduced the three topics below.

- 1. What achievements have been made through AI-CD and were there any challenges during their implementation?**
- 2. What are the recent movements and future directions /strategies of global initiatives, such as those by the Great Green Wall and other relevant organisations, in fighting desertification and climate change?**
- 3. What is the way forward for the Sahel and the Horn of Africa countries to accelerate their efforts in combating desertification and strengthening resilience to climate change?**

First Topic

Dr. George Louise Tokporo Tadu (Senior Research Scientist, Head of Root and Horticultural Crops Research, Ministry of Agriculture and Food Security, South Sudan) elaborated the link that his country has with the HoA regional hub that led to a training at KEFRI on community nursery establishment, development of proposals, restoration of degraded land, and land planning.

Ms. Mabel Emmanuel (Director, Desertification, Land Degradation and Drought Management, Federal Ministry of Environment, Nigeria) said that AI-CD is a positive programme for the campaign against desertification, and Nigeria benefitted widely from it. In terms of achievements in Networking, she talked about the two national workshops, in April 2019 and November 2021, which led to the delivery of two very informative technical papers by university experts. For Knowledge Sharing, she mentioned the short film produced about desertification in Nigeria.

Second Topic

Dr. Elvis Paul (Coordinator, Great Green Wall (GGW) for the Sahara and Sahel Initiative, African Union) pointed out that AI-CD, GGW, and other organisations that fight desertification, should change their existing modus operandi and put the focus on actions. Moreover, he emphasised that it is necessary to stop sectorial operations, bring all together initiatives and activities and develop synergies for more effectiveness.

Dr. Sheick Khalil Sangaré (Acting Chief of Department of Studies and Researches in Agriculture, Environment and Markets, The Sahel Institute (INSAH/CILSS)) informed the participants that their activities have been mainly based on resource mobilisation and regional structuring of project implementation related to desertification and land degradation in terms of technical transfer, capacity building and sustainable development.

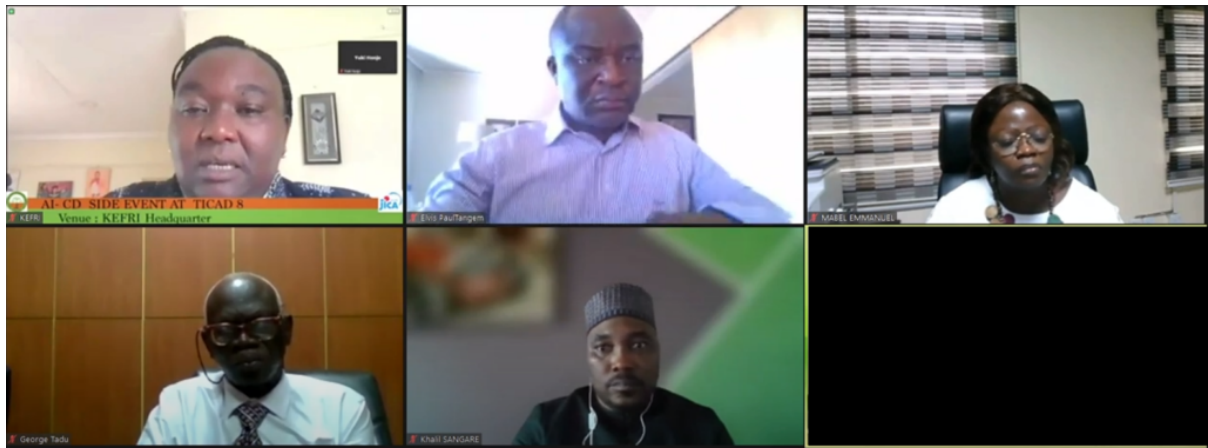
Third Topic

Dr. Tadu cited the following three points: (1) Synergy between private sector and government, (2) Development of bankable projects to attract funders, and (3) Raise awareness on climate change and land degradation.

Ms. Mabel said that it is necessary to (1) engage development partners and private sector to the restoration programmes of the country, (2) create leverage on networking and knowledge sharing amongst key government agencies involved in restoration activities and (3) set up a platform to coordinate all restoration activities.

Dr. Sangaré suggested making AI-CD better known, promote national level policies, make various means available and evaluate various outcomes. He also talked about the need to move towards innovative financing and implement a strategy of mobilising technical resources.

Dr. Elvis encouraged the development of synergies between organisations which have similar goals. He then expressed his willingness to request GEF, GCF and other funders to improve their funding procedure so that African countries will be able to receive enough funds.



Panelists of the Side Event

SESSION 4: Closing ceremony

Mr. Takashi Nishimura, Deputy Director General, Global Environment Department, JICA, finally concluded the side event by emphasising his strong will to strengthen partnerships with African countries, development partners, and international organisations to combat desertification.



Contact the Secretariat Tel: +81-3-4521-0142 Email: info@aicd-africa.org

Views or opinions expressed in this website do not necessarily reflect the official policy or position of the AI-CD.

Copyright AI-CD All Rights Reserved.



AI-CD

Initiative africaine pour lutter contre la désertification en vue de renforcer la résilience face au changement climatique dans le Sahel et la Corne de l'Afrique

[English](#) / [Français](#)

QUI SOMMES-NOUS?

ÉVÉNEMENTS

BONNES PRACTIQUES

PROJETS MONDIAUX

VOIX DU TERRAIN

COOPÉRATIONS JAPONAISES

CENTRE DE CONNAISSANCE

CONNAISSANCES PARTAGÉES PAR LES INSTITUTS DE RECHERCHE INTERNATIONAUX

MATÉRIAUX TECHNIQUES DÉVELOPPÉS PAR LE JAPON

ACCÈS AU FINANCEMENT

CONSEILS DE BASE POUR LE FINANCEMENT

LIENS UTILES

PRODUITS CLÉS

Événement parallèle de l'AI-CD à la TICAD8 – Discussion sur la voie à suivre pour parvenir à une Afrique résiliente –

Un événement culminant de l'AI-CD, organisé par l'Agence japonaise de coopération internationale (JICA), le ministère de l'Environnement et des Forêts (MEF) du Kenya et le ministère de l'Environnement et du Développement Durable (MEDD) du Sénégal, s'est tenu

en ligne le 24 août 2022, en marge de la 8^e Conférence internationale de Tokyo sur le développement de l'Afrique (TICAD8).

L'événement a réuni 101 participants, principalement des pays africains, des points focaux de l'AI-CD et des partenaires de développement.

L'objectif de cet événement parallèle était **de partager les réalisations de l'AI-CD au cours des six dernières années et de discuter des moyens de rendre les pays du Sahel et de la Corne de l'Afrique (CdA) résilients au changement climatique en promouvant des mesures de lutte contre la désertification.**

Les participants ont partagé toutes les réalisations de l'AI-CD en matière de réseautage, de partage des connaissances et d'accès au financement. Ils ont également indiqué la voie à suivre pour l'avenir, notamment la manière de poursuivre la collaboration au sein des pays de l'AI-CD et l'élaboration de projets susceptibles d'être financés qui répondent aux exigences des bailleurs de fonds. En outre, l'un des panélistes a suggéré que le moyen le plus efficace serait d'arrêter les opérations sectorielles et de développer des synergies par la coopération de toutes les parties prenantes pour lutter contre la désertification.

Enfin, l'événement parallèle s'est conclu par la confirmation du renforcement des partenariats entre les pays africains, les partenaires de développement et les organisations internationales pour lutter contre la désertification.

L'AI-CD s'est officiellement conclue lors de cet événement parallèle, comme prévu, par l'achèvement des activités planifiées qui ont débuté lors du lancement de l'AI-CD pendant la TICAD VI.



*Towards a resilient,
inclusive, and
prosperous Africa*

Points marquants de l'événement

SESSION 1 : Cérémonie d'ouverture

M. ONODERA Seiichi, vice-président principal de la JICA, a remercié les participants pour leur présence à l'événement dans son discours de bienvenue. Il a souligné le leadership fort du Kenya et du Sénégal au cours des six dernières années et a expliqué que cet événement est une occasion d'échanger des points de vue pour atteindre les ODD d'ici 2030.

M. Alfred Gichu, secrétaire à la conservation des forêts, a exprimé ses remerciements pour le soutien de la JICA au nom du ministre de l'Environnement et des Forêts du Kenya et a souligné que l'objectif de cet événement parallèle est de tirer les leçons des réalisations de l'AI-CD et d'identifier les opportunités afin d'aider l'Afrique à atteindre un développement à l'échelle mondiale.

M. Dominique Manga, chef de la Division Protection des Forêts, a prononcé un discours au nom du ministre de l'Environnement et du Développement Durable du Sénégal, mettant l'accent sur le fait que la dégradation des terres et la désertification sont les plus grands défis en Afrique et a souligné la gratitude du peuple sénégalais envers la JICA pour son soutien technique et financier.

Le Dr Joshua Cheboiwo, directeur de l'Institut de recherche forestière du Kenya (KEFRI), a présenté le livre « *Drylands Forestry Research and Development in Kenya* » (Recherche et développement en matière de foresterie dans les zones arides au Kenya) basé sur 37 ans de coopération entre le KEFRI et la JICA. Il a souligné le fait que le livre a été écrit principalement pour enregistrer les recherches et les développements, et partager les technologies, les techniques et les études de cas concernant les zones arides qui couvrent 80 % de la superficie du Kenya. À la fin de son intervention, il a remis une copie du livre au représentant en chef du bureau de la JICA au Kenya.



Un exemplaire du livre *Drylands Forestry Research and Development in Kenya* a été remis au représentant en chef du bureau de la JICA au Kenya

SESSION 2 : Partage des réalisations de l'AI-CD et discussion sur les perspectives d'avenir

Cette session a été consacrée au partage des réalisations de l'AI-CD au cours des six dernières années et à une discussion sur les moyens de rendre les pays du Sahel et de la région de la Corne de l'Afrique résilients au changement climatique en promouvant des mesures de lutte contre la désertification.

Le Dr Musingo Mbuvi (service de soutien à la recherche forestière du KEFRI, Kenya), au nom des pays de la Corne de l'Afrique, a présenté les réalisations de l'AI-CD de 2016 à 2022. Il a souligné que la tenue de forums régionaux et d'ateliers nationaux (Soudan, Soudan du Sud) est l'une des réalisations du réseautage. Pour l'accès au financement, il a mentionné que la création de notes conceptuelles de projet (NCP) et la facilitation de l'identification des opportunités de financement pour les points focaux sont des réalisations importantes. Quant à la voie à suivre, il a souligné la nécessité d'envisager une collaboration continue au sein des pays de la Corne de l'Afrique et de la région du Sahel. Enfin, il a suggéré d'établir des réseaux thématiques pour le partage des connaissances, l'évaluation des besoins et le renforcement des capacités sur la base de l'évaluation des besoins.

M. Baba Ba (ministère de l'Environnement et du Développement durable, Sénégal), au nom des pays de la région du Sahel, a souligné la tenue de forums régionaux et d'ateliers nationaux (Burkina Faso, Mali, Sénégal et Nigeria) comme autant de réalisations en matière de réseautage. En ce qui concerne le partage des connaissances, les points suivants ont été soulignés : (1) la tenue d'un séminaire de partage des connaissances sur les techniques et les technologies de lutte contre la désertification en collaboration avec le CLISS, (2) la création de courts métrages au Nigeria et au Mali pour présenter les activités de chaque pays relatives à l'AI-CD et de lutte contre la désertification, (3) la préparation d'une « Note d'orientation sur les connaissances et les politiques » dans laquelle sont élaborés des stratégies et des mécanismes pour mettre en œuvre l'accès au financement. Il a souligné que le Nigeria et le Mali ont soumis leurs initiatives respectives pour un financement, et que la proposition du Mali a été acceptée par la FAO, ce qui constitue une réalisation importante au niveau de l'accès au financement. Pour aller de l'avant, il a souligné la nécessité d'élaborer des projets susceptibles d'être financés qui répondent aux exigences des bailleurs de fonds.

M. Takuya Shiraishi du Secrétariat de l'AI-CD a présenté les réalisations interrégionales de l'AI-CD. En ce qui concerne le partage des connaissances, il a souligné (1) la création et la maintenance du site Internet de l'AI-CD et de pages sur les réseaux sociaux, et (2) la collaboration en matière de base de données avec l'ICARDA (<http://aicd-africa.org/knowledge?ln=fr>). En ce qui concerne l'accès au financement, il a souligné

l'importance de l'implication du secteur privé à travers la promotion de nouvelles technologies telles que le tube biodégradable et le conditionneur de sol utilisant des verres usagés. Il a réaffirmé que la voie à suivre pour les pays de l'AI-CD était le renforcement des initiatives nationales pour développer et mettre en œuvre des projets basés sur les réseaux, les capacités et les opportunités développées par l'AI-CD et d'autres initiatives. Il a également souligné la nécessité pour les partenaires de l'AI-CD de poursuivre leurs efforts pour (1) renforcer l'harmonisation des initiatives mondiales/régionales afin de soutenir efficacement les pays, (2) maintenir et renforcer les partenariats et les dialogues entre les pays et les partenaires, et entre les principales parties prenantes nationales dans chaque pays, (3) renforcer la coordination au niveau national pour promouvoir des mesures afin de lutter de manière efficace contre la désertification.

SESSION 3 : Discussion de groupe

Le Dr Lucy Ng'ang'a, directeur adjoint des Accords multilatéraux sur l'environnement du ministère de l'Environnement et des Forêts du Kenya, le modérateur, a expliqué le but de la discussion de groupe et a présenté les trois sujets ci-dessous.

- 1. Quelles sont les réalisations obtenues grâce à l'AI-CD et quels ont été les défis rencontrés lors de leur mise en œuvre ?**
- 2. Quels sont les mouvements récents et les orientations/stratégies futures des initiatives mondiales, telles que celles de la Grande Muraille Verte et d'autres organisations pertinentes, dans la lutte contre la désertification et le changement climatique ?**
- 3. Quelle est la voie à suivre pour les pays du Sahel et de la Corne de l'Afrique afin d'accélérer leurs efforts dans la lutte contre la désertification et le renforcement de la résilience au changement climatique ?**

Premier sujet

Le Dr George Louise Tokporo Tadu (chercheur scientifique principal, chef de la recherche sur les racines et les cultures horticoles, ministère de l'Agriculture et de la Sécurité alimentaire, Soudan du Sud) a expliqué le lien que son pays a avec le centre régional de la Corne de l'Afrique qui a conduit à une formation au KEFRI sur l'établissement

de pépinières communautaires, le développement de propositions, la restauration des terres dégradées, et la planification des terres.

Mme Mabel Emmanuel (directrice, gestion de la désertification, de la dégradation des terres et de la sécheresse, ministère fédéral de l'Environnement, Nigeria) a déclaré que l'AI-CD est un programme positif pour la campagne contre la désertification, et que le Nigeria en a largement bénéficié. En ce qui concerne les réalisations en matière de réseautage, elle a parlé des deux ateliers nationaux, en avril 2019 et en novembre 2021, qui ont donné lieu à la remise de deux documents techniques très instructifs par des experts universitaires. Pour le partage des connaissances, elle a mentionné le court métrage produit sur la désertification au Nigeria.

Deuxième sujet

Le Dr Elvis Paul (coordinateur de l'initiative de la Grande Muraille Verte (GMV) pour le Sahara et le Sahel, Union africaine) a souligné que l'AI-CD, la GMV et d'autres organisations qui luttent contre la désertification, devraient changer leur modus operandi existant et mettre l'accent sur les actions. En outre, il a souligné qu'il est nécessaire d'arrêter les opérations sectorielles, de rassembler toutes les initiatives et activités et de développer des synergies pour plus d'efficacité.

Le Dr Sheick Khalil Sangaré (chef par intérim du département des Études et Recherches en Agriculture, Environnement et Marchés, Institut du Sahel (INSAH/CILSS)) a informé les participants que leurs activités ont été principalement basées sur la mobilisation des ressources et la structuration régionale de la mise en œuvre des projets liés à la désertification et à la dégradation des terres en matière de transfert technique, de renforcement des capacités et de développement durable.

Troisième sujet

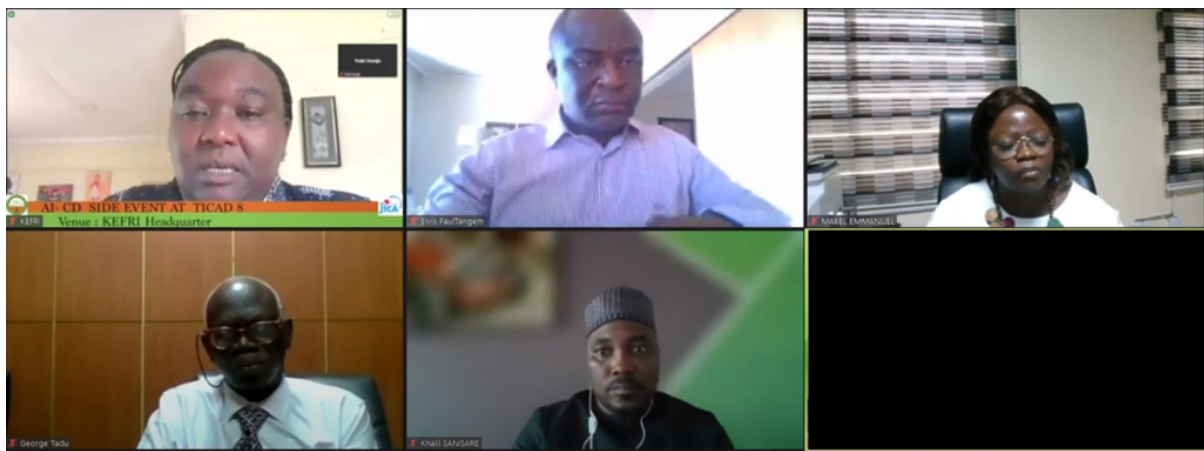
Le Dr Tadu a cité les trois points suivants : (1) synergie entre le secteur privé et le gouvernement, (2) développement de projets susceptibles d'être financés pour attirer les bailleurs de fonds, et (3) sensibilisation au changement climatique et à la dégradation des terres.

Mme Mabel a déclaré qu'il est nécessaire (1) d'engager les partenaires de développement et le secteur privé dans les programmes de restauration du pays, (2) de créer un effet de levier sur le réseautage et le partage des connaissances entre les principales agences

gouvernementales impliquées dans les activités de restauration et (3) de mettre en place une plate-forme pour coordonner toutes les activités de restauration.

Le Dr Sangaré a suggéré de faire mieux connaître l'AI-CD, de promouvoir des politiques au niveau national, de mettre à disposition divers moyens et d'évaluer divers résultats. Il a également parlé de la nécessité d'aller vers des financements innovants et de mettre en place une stratégie de mobilisation des ressources techniques.

Le Dr Elvis a encouragé le développement de synergies entre les organisations qui ont des objectifs similaires. Il a ensuite exprimé sa volonté de demander au FEM, au FVC et aux autres bailleurs de fonds d'améliorer leur procédure de financement afin que les pays africains puissent recevoir suffisamment de fonds.



Les panélistes de l'événement parallèle

SESSION 4 : Cérémonie de clôture

M. Takashi Nishimura, directeur général adjoint du département de l'environnement mondial de la JICA, a finalement conclu l'événement parallèle en soulignant sa ferme volonté de renforcer les partenariats avec les pays africains, les partenaires de développement et les organisations internationales pour lutter contre la désertification.



Co-organizers



Partners



Contact du secrétariat Tél. +81-3-4521-0142 E-mail. info@aicd-africa.org

Les opinions ou les points de vue exprimés dans ce site web ne reflètent pas nécessairement la politique ou position officielle du AI-CD.

Copyright AI-CD Tous droits réservés.